

香淳皇后実録 卷十一

昭和五十五年（西暦一九八〇年）

七十七歳

一月

一日 火曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・宣仁親王・容子内親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及び各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、年末年始綴、宮内庁庁報、官報

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の具合の経過は順調であり、脚の痛みもないようにお見受けされること、宮殿には週に二、三日お出ましになっていること、腰痛が再発し

昭和五十五年一月

昭和五十五年一月

ないように引き続きコルセットを着用されていることなどが発表される。○年末年始綴、サンケイ、東京新聞、

日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 水曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・

午後五回の計八回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、年末年始綴、東宮録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾

侍従日記

三日 木曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、恒

例祭祀録、祭典録、年末年始綴、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第二十三回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}入賞

者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。読売新聞社副社長原四郎の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、発

表綴、宮内庁庁報、読売新聞

天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のタイ国駐劄特命全権大使小木曾本雄及び同夫人、トルコ国駐劄特命全権大使西宮信安及び同夫人、オーストリア国駐劄特命全権大使山戸徹及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、

ついで宮殿御車寄内において元女孀等の祝賀をお受けになる。その後お一方にて、花の間において御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

八日 火曜日 腰痛のため、午後より御仮床に就かれる。以後、二月七日まで吹上御所において御静養になり、行事への御臨席等はお控えになる。○女官長日記、女官日誌

九日 水曜日 午前、吹上御所において、皇后のお見舞いのために参殿した島津貴子・同子息禎久と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

十日 木曜日 午前、歌会始の儀にお出ましにならず、御歌をお寄せになる。この年のお題は「桜」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

ふだんざくらおほしまざくらも咲きそめて光あまねきけふのみそのふ

○女官長日記、女官日誌、儀式録、宮殿行事録、年末年始綴、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、昭和

十一日 金曜日 吹上御所において、天皇との御夕餐御会食を終えた皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御対面になる。以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録
この日、宮内庁より、来る十七日から予定されていた須崎御用邸への行啓が、皇后の腰痛のため御延期になることが発表される。この腰痛に関して、今月八日の御起床時に腰部をひねり、起居の御動作の際に痛みがあるため御仮床に就かれていること、侍医によればこの痛みは昭和五十二年に発症され

昭和五十五年二月

た腰痛とは関係がなく、しばらく安静にされれば緩解する見込みであることなどが併せて発表される。

○侍従日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、皇族雜録、皇太后陛下御健康

十二日 土曜日 吹上御所において、天皇との御夕餐御会食を終えた正仁親王・同妃華子と御対面になる。また正仁親王・同妃よりお見舞いとして生花等が贈られる。以後、この年は、月一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日秩父宮家・高松宮家・三笠宮家より、お見舞いとして花束が贈られる。○女官長日記、女官日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌

二十五日 金曜日 夕刻、病氣治療のためタイ国より渡米する同国王妃シリキット及び付添の同国皇太子ワチラロンコーンがこの日新東京国際空港にお立ち寄りになるにつき、天皇・皇后が御使として式部副長和智一夫を同空港に差し遣わされ、御快癒を願う旨のお言葉を伝達させられる。またその際、皇后より同妃へ花束・菓子を御贈進になる。○女官長日記、外交雜録、贈賜録、入江相政日記

吹上御所において、天皇との御夕餐御会食を終えた故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二月

四日 月曜日 宣仁親王・同妃喜久子がこの日結婚満五十年昭和五年二月四日結婚を迎えるに当たり、天皇・皇后よ

りお祝いの品を御贈進になる。また、宣仁親王・同妃から天皇・皇后に記念の品が贈られる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、皇族雜録、入江相政日記

八日 金曜日 天皇と共に、午後一時十三分御出門になり、四時五十分須崎御用邸に行啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、發表綴、宮内庁庁報、入江相政日記

十五日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時二分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 天皇と共に吹上御所において、宣仁親王・同妃喜久子結婚満五十年の内宴を催され、宣仁親王・同妃及び故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子と御夕餐を御会食になる。その際、参殿の五方に御紋付銀製ボンボニエール若梅撫子彫付を賜う。また翌二十日には天皇・皇后が皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子、寛仁親王・宣仁親王・容子内親王・憲仁親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子に、二十五日には池田隆政・同夫人厚子にそれぞれボンボニエールを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、昭和天皇最後の侍従日記、ボンボニエール

二十日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のグアテマラ国特命全権大使ホアキン・ダリオ・ソト・モンテネグロ及び同夫人、インド国特命全権大使ヴィシュヌ・カリアンダス・アフジャ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁

昭和五十五年二月

二十三日 土曜日 天皇と共に宮殿において、この日満二十歳の誕生日を迎えた徳仁親王の成年式に臨まれる。午前、天皇と共に春秋の間において、徳仁親王成年式加冠の儀皇太子・同妃主権に臨まれる。同親王への加冠が行われた後、天皇と共に同親王から謝恩の辞をお受けになる。ついで同親王が皇太子・同妃に謝恩の辞を述べた後、天皇と共に御退出になる。

午後、天皇と共に正殿松の間において、徳仁親王成年式朝見の儀に臨まれる。式中、徳仁親王から謝恩の辞をお受けになり、これに対しお言葉を賜う。ついで天皇・皇后が御盃を同親王にそれぞれお授けになる。続いて天皇・皇后が御台盤に御箸をお立てになり、同親王がこれに倣う。終わって天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。一旦入御の後、天皇と共に再び同所にお出ましになり、皇太子・同妃・徳仁親王天皇より大勲位菊花大綬章を授与されるのお礼言上をお受けになる。

徳仁親王成年に当たり、天皇・皇后より皇太子・同妃に鮮鯛代料を、徳仁親王に白羽二重・洋服地・万那料・金員を御贈進になる。また天皇・皇后に皇太子・同妃より鮮鯛が、徳仁親王より鮮鯛がそれぞれ贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、徳仁親王殿下成年式録、徳仁親王成年式関係、徳仁親王殿下御成年式、重要雑録、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・靈鑑寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十五日 月曜日 夕刻、天皇と共に宮殿において、徳仁親王成年式祝宴の晩餐皇太子・同妃主権に臨まれる。

天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王と共に正殿梅の間において、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢

津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・容子内親王、元皇族・御親族より祝詞言上をお受けになる。続いて連翠に移られ御会食になる。お食事を終えられ石橋の間において御歓談の後、吹上御所に還御される。また、皇太子・同妃より天皇・皇后にボンボニエール等が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、勤務日誌、徳仁親王殿下成年式録、徳仁親王成年式関係、徳仁親王殿下御成年式、東宮録、宮内庁庁報、ボンボニエール

三月

三日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のセネガル国特命全権大使メドゥーヌ・ファル、メキシコ国特命全権大使フランシスコ・ハビエル・アレホ・ロペス及び同夫人を順次御引見になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の米国駐箚特命全権大使大河原良雄及び同夫人、ナイジェリア国駐箚特命全権大使和智一夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

五日 水曜日 来る六日に満七十七歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院救助収容患者に、合わせて手拭い七千本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

六日 木曜日 満七十七歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において宮内庁長官始め各部局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。つい

昭和五十五年三月

で花の間において、参与宇佐美毅・森永貞一郎、続いて皇太子・同妃始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、芳菊の間において元側近奉仕者、続いて元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、御車寄内において元女嬬等の祝賀を、花の間において元御用掛有島暁子、続いて御学友・御同級生七名、東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。正午、正殿梅の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。

午後、吹上御所において文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・宜仁親王・容子内親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。なお、喜寿に当たり、侍従長始め側近奉仕者、並びに宮内記者会会員よりお祝いの品が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁序報、入江相政日記

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、去る二月に成年式を行った徳仁親王の立派な成長を嬉しく思いであること、腰の具合は良くなりつつあるが長時間座つてゐることができないため、絵はスケッチのような簡単なもののみお描きになっていること、膝の具合は十年来良くないことなどが発表される。○内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御

夕餐を御会食になる。その際、成年式後初参内した徳仁親王に天皇・皇后よりお品・万那料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

八日 土曜日 祐子内親王の祥月命日及び故恒久王妃昌子内親王四十年式年祭につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、典式録、贈賜録、旧皇族録

十二日 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、發表綴、宮内庁
報

十三日 木曜日 午前、天皇と共に展望台道付近において植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

十九日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時二分皇居に還啓される。なお、この行啓において御覧になった水仙を題材として、この年、次の御歌をお詠みになる。

水仙のかをりゆたかにただよひて海辺の丘ははやも春めく

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、年末年始行事、發表綴、宮内庁
報

二十日 木曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁
報

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、パナマ国駐劄特命全権大使石井亨より同

昭和五十五年三月

国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、

宮内庁序報

天皇と共に鳳凰の間において、来る二十四日より四月十三日まで英国及びヨルダン国・シリア国を訪問する崇仁親王^{ヨルダン国・シリア国には同妃百合子も同行}と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、随員長門保明^{秘書課長}の

拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁序報

二十四日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国賓パナマ国大統領アリスティデス・ロ

ヨ・サンチェス及び同夫人アデラ・マリア・ルイスと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、

皇后にラ・オルデン・デ・マヌエル・アマドール・ゲレロ大綬章が贈られる。またこの来訪に際し、

天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿^{極彩色桜に小紋文様、皿立て付き}を、大統領夫人に七宝宝石箱^{銀地緑十稜鏡文}を御贈進になる。

大統領夫人から皇后にも御贈進の品があり、皇后へはパステル画^{リカルト・マルチネス画、遺跡からの出土品ウアカを描く}等が贈られる。

なお大統領夫妻の入京に際し、皇后より夫人に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、恩賜録、官報、朝日新聞、読売新聞

二十八日 金曜日 午前、吹上御所において、来る四月一日から十三日まで崇仁親王^{去る二十四日より英国へ出発、四月一日より合流}と共にヨルダン国・シリア国を訪問する同妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報、入江相政日記

三十一日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のアルジェリア国特命全権大使ムラド・ベンシエイク、トルコ国特命全権大使ナジフ・ジュフルク及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四月

二日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のフランス国特命全権大使グザヴィエ・ド・フレヌ・ドウ・ラ・シュヴァルリー及び同夫人、イタリア国特命全権大使ボリス・ビアンケリー及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午前、神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

四日 金曜日 午後、桃華樂堂にお出ましになり、昭和五十四年度東京都下五校の音楽大学卒業生による演奏会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、宮務課長の先導により御休所にお入りになり、ついでホールに進まれ御着席になる。東京芸術大学卒業生による箏曲、国立音楽大学卒業生によるテノール独唱、桐朋学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏をお聴きになる。御少憩の後、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏、東京芸術大学卒業生によるコントラバス独奏、上野学園大学卒業生によるソプラノ独唱をお聴きになる。故雍仁親王妃勢津子・容子内親王のほか、元皇族・御縁故者が陪聴する。終わって御休所脇廊下において、各大学の学長・担当教員等の拝謁をお受けになる。ついで出演者一同のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。なお、この日の出演者十一名に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、音楽大学卒業生演奏会、恩賜録、発表綴

六日 日曜日 この日バザーを開催する常磐会へ切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

昭和五十五年四月

八日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のエジプト国駐筭特命全権大使山崎敏夫及び同夫人、ガーナ国駐筭特命全権大使檜垣正忠及び同夫人、ホンジュラス国駐筭特命全権大使石川賢治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、

宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、スウェーデン国駐筭特命全権大使滝川正久より同国に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のザイル国特命全権大使ロンボ・ロ・マンガマンガ、ギリシャ国特命全権大使クレオン・G・カトサンビス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、昨十三日に英国及びヨルダン国・シリア国訪問より帰国した崇仁親王・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、国賓スウェーデン国王カール十六世グスタフ及び王妃シルヴィアと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にセラファン勲章が贈られる。この来訪に際し、天皇・皇后より国王・王妃に御贈進の品があり、国王に七宝花瓶^{紺地 菊文}を、王妃に佐賀錦ハンドバッグをそれぞれ御贈進になる。国王・王妃からは天皇・皇后に花卉文ガラス鉢^{コスタ製、リーサ・バウエルデザイン}等が贈られる。なお、国王・王妃の入京に際し、皇后より王妃に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

十五日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、新任の侍医星川光正の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

この日、メキシコ国大統領夫人カルメン・ロマン・デ・ロペス・ポルティエリヨ来日この日より二十二日に
まで非公式に来訪

つき、入京に際し、皇后より夫人に花束を御贈進になる。後日、夫人より天皇・皇后に礼電が寄せられる。○外交贈答録

十六日 水曜日 午後、宮殿北溜において、財団法人結核予防会総裁表彰の市町村代表者等五十三名の拝謁をお受けになる。代表の玉野市長杉本通雄の挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。なお、同会総裁から表彰された者の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のパキスタン国駐箚特命全權大使鈴木干夫及び同夫人、オーストラリア国駐箚特命全權大使黒田瑞夫及び同夫人、デンマーク国駐箚特命全權大使高橋展子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

寛仁親王の婚姻に関する件について、皇室会議が開催され、同親王と麻生信子麻生太賀吉の息女との婚姻が可決

される。これを受け午後、天皇と共に吹上御所において寛仁親王と御対面になり、同親王より婚姻についてのお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇室会議録、宮内庁庁報、

官報

昭和五十五年四月

昭和五十五年四月

夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁序報

十九日 土曜日 午前、宮殿北溜において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁表彰又は会長表彰の愛育班員及び愛育班育成功労者等二十九名の拝謁をお受けになる。代表の飯田川町長淡路竜より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁

報

午後、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、皇太子・同妃主催の皇后喜寿奉祝の内宴に御臨席になる。

皇太子・同妃始め皇族・元皇族等が出席する。皇太子による祝詞言上の後、宣仁親王が乾杯の発声を行う。ついで午餐を御会食になり、鷹司和子・池田厚子と共に唱歌「花」を合唱される。さらに徳仁親王の独唱等を楽しまれた後、吹上御所に還御される。なお、天皇・皇后より内宴の招待者にボンボニエールを賜う。また後日、喜寿を祝して皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、鷹司和子、池田隆政・

同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子より御歌謹書額入り、昭和四十六年歌会始の御歌「鴨川の堤のほとりなつかしみをさなきころにすみしかの家」を大石隆子が謹書、料紙は安部栄四郎謹製が

皇后に贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族雑録、恩賜録、贈賜録、東宮録、内

廷皇族誕生日綴、発表綴、ボンボニエール

二十二日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍医星川光正始め六名、及び先般宮

内庁御用掛の委嘱を解かれた加瀬寿始め三名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌

正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓オランダ国首相アンドリース・アントニウス・マリ

ア・ファン・アフト及び同夫人ウージェニーを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には首相夫人よりクリスタルガラス製花瓶が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子英国及びヨルダン国・シリア国訪問の随員長門保明の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十四日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この度英国日本航空ロンドン支店に赴任する壬生基博御孫・同夫人幸子・同子息基成の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族雑録

天皇と共に鳳凰の間において、オランダ国新女王ベアトリックスの即位式参列等のため、来る二十七日より五月四日まで同国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。ついで天皇と共に随員山下和夫式部副長の拝謁をお受けになる。また、崇仁親王を通じ、天皇・皇后より同女王に九谷焼花瓶極彩色金欄手更紗を御贈進になる。これに対し後日、天皇・皇后への謝意を伝える同女王の親書五月三日付が寄せられる。小文様

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交贈答録、恩賜録、外交雑録、贈賜録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において、宮内庁長官以下総代、続いて女官長始め女官等の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御

昭和五十五年五月

縁故者の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に花の間前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、鳳凰の間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。さらに、皇后お一方にて再び花の間において、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報

天皇誕生日一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。また、宮内庁より誕生日を迎えられた天皇の御感想について、皇后が喜寿を迎えたことを嬉しく思い、これからいつまでも元気で健康でいてほしいと思っている旨が発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、内廷皇族誕生日綴

五月

一日 木曜日 第二十五回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○発表綴、宮内庁庁報

六日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、一昨四日にオランダ国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

七日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、発表綴

午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。更生援護功労者佐山節の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子オランダ国訪問の随員山下和夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 日曜日 母の日につき、皇太子妃より盛花^鉢植が贈られる。○女官長日記、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌

十二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の成育状況を御覧になる。また御給桑になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 金曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓フィジー国首相カミセセ・ツイマシライ・マラ及び同夫人ララを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また同首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には黒珊瑚の装身具^{ネックレス及びイヤリング}が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外賓接待録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 土曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

昭和五十五年五月

来る十九日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の成育状況を御覧になる。また御給桑になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

明治神宮会館において開催の昭和五十五年度全国赤十字大会へ、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日ここに、昭和五十五年度全国赤十字大会が盛大に開催されたことを大変うれしく思います。

赤十字は、国際的な強い絆のもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために、大きな力となっておりませんが、日本赤十字社が各国赤十字社と互いに手を携えて、立派にその使命を果たしていることは、皆さんのご尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の使命は、今後ますます重要さを加えることと思いますので、皆さんの一層のご協力によつて、さらに業績をあげられるよう希望してやみません。

正午過ぎ、吹上御所において、同大会への臨席を終えた皇太子妃より復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十一日 水曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この日納采の儀を終えた寛仁親王、及び崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、お礼をお受けになる。納采の儀に当たり、天皇・皇后が寛仁親王に鮮鯛を、崇仁親王・同妃に三種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、入江相政日記

翌二十二日から二十七日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十五日にも御出品になる。

○女官長日記、贈賜録、發表綴

二十二日 木曜日 天皇と共に三重県において開催される第三十一回全国植樹祭に御臨場、併せて神宮御参拝及び地方事情御視察のため、同県に行啓される。天皇と共に、午前九時三十三分御出門になり、東京駅より賢島駅を経て、午後二時二十二分志摩郡阿児町の御泊所志摩観光ホテルに御到着になる。御着後、御説明室において、三重県知事田川亮三より県勢概要の説明及び斎宮跡の保存等についてお聞きになる。ついで御料車にて御泊所近くの景勝地である宝生の鼻に向かわれ、付近を御散策になり、御泊所へお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、

地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌第三十一回全国植樹祭、みえの天皇皇后両陛下、道をひらく、伊勢新聞

二十三日 金曜日 天皇と共に、午前九時五分御泊所の志摩観光ホテルを御出発になり、豊受大神宮^{外宮}に御到着になる。外宮齋館御座所にて御潔斎になり、天皇の御拝礼の後、正殿階下の御拝座にお進みになり、御拝礼になる。ついで皇大神宮^{内宮}に御移動になる。内宮齋館御座所において、神宮祭主鷹司和子と共に御昼餐を御会食になる。御潔斎になり、天皇の御拝礼の後、正殿階下の御拝座にお進みになり、御拝礼になる。終わって齋館御座所において神宮祭主の挨拶をお受けになり、続いて大宮司二条弼基・少宮司慶光院俊の拝謁、神宮責任総代始め神宮関係者の拝謁をお受けになる。また同所で、かつて皇后がお手植えになったクロマツ 大正十二年、御成婚前に神宮参拝の折
神宮如雪園にお手植えになったもの の成長した写真等を御覧になる。こ

昭和五十五年五月

の度の御参拝に際し、天皇・皇后が神宮両宮に幣帛料及び神饌料をそれぞれお供えになる。その後宇治山田駅・榊原温泉口駅を経て、午後五時三分久居市の御泊所白雲荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、臨時祭祀録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、みえの天皇皇后両陛下、神宮彙報、瑞垣、伊勢新聞

二十四日 土曜日

午前中はお出ましにならず、津市

日本鋼管株式会社技術研究所津研究所及び津市役所を御視察

へ御出発になる天皇をお見

送りになった後、御泊所の白雲荘においてお一方にてお過ごしになる。正午過ぎ、御視察よりお戻りになった天皇と御昼餐の後、午後二時十六分天皇と共に御泊所を御出発になり、一志郡白山町の三重県林業技術センター お手播き会場及び林業展示会場 に向かわれる。御着後、お手播き床に進まれ、白山町婦人代表谷美也の介添えでケヤキの種子をお手播きになる。天皇はジングウスギの種子をお手播きになる。ついで高齢者・みどりの少年隊による記念播種を御覧になりつつ林業展示会場に御移動になり、展示等を巡覧される。終わって榊原温泉口駅より御乗車になり、湯の山温泉駅を経て、四時三十九分三重郡菰野町の御泊所グランドホテル向陽に御到着になる。なお、宮内庁よりこの日の皇后の御様子について、展示会場で伊勢型紙の彫刻実演を非常に熱心に御覧になっていたことなどが発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、津市役所所蔵資料、行幸啓誌第三一回全国植樹祭、みえの天皇皇后両陛下、国土緑化、緑と太陽豊かなくらし第三一回全国植樹祭記録誌、伊勢新聞

二十五日 日曜日

天皇と共に、午前十時三分御泊所のグランドホテル向陽を御出発になり、全国植

樹祭の会場である三重郡菰野町の三重県民の森に向かわれる。御着後、お野立所に着席され、表彰・天皇のお言葉・第三十一回全国植樹祭大会会長灘尾弘吉による答辞の後、お手植え地に移られる。菰

昭和五十五年六月

報

三十日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のハイチ国特命全権大使レーモン・マチュー及び同夫人、エクアドル国特命全権大使アンドレス・クレスポ・レインベルグ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、去る四日オランダ国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子のために御晩餐を催される。崇仁親王・同妃のほか、皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、容子内親王が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報

六月

二日 月曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍従齋藤誠治及び前任の侍従角田素文の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報、

齋藤誠治業務日誌

三日 火曜日 午後、正殿梅の間において、新任のスイス国特命全権大使フリッツ・ルドルフ・シュテーヘリン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、前侍従角田素文の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に、同人及び女官長、上直の女官・侍従・侍医と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、御写真録

九日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きを行われる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

寛仁親王の婚約に際し、この日天皇・皇后が三笠宮に特別御内帑金を賜う。○贈賜録

十二日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新たに宮内庁御用掛の委嘱を受けた太田正利

外務省大臣官
房文書課長

及びこの日同職の委嘱を解かれた井口武夫在ポストン日本国
総領事館総領事の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

この日、内閣総理大臣大平正芳死去につき、天皇・皇后が弔問使として侍従田中直を同人邸に差し遣わされ、果物を賜う。翌十三日には、天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従安楽定信を同人邸に差し遣わされ、祭染料・供物・生花を賜う。また、柩前への拝礼を仰せ付けられる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、「故大平正芳」内閣・自由民主党合同葬儀関係、贈賜録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、故大平正芳内閣・自由民主党合同葬儀記録

七月

一日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、發表綴

天皇と共に鳳凰の間において、この度宮内庁御用掛の委嘱を解かれた太田博在アメリカ合衆国日
本国大使館参事官始め二名の
拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に宮殿西車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び

昭和五十五年七月

昭和五十五年七月

助手四名・前主任一名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

二日 水曜日 天皇と共に御旅行のため、神奈川県足柄下郡箱根町に行啓される。この行幸啓は私的なお出ましとして行われる。午前九時四十七分御出門になり、原宿駅より小田原駅を経て、御泊所の箱根プリンスホテルに御到着になる。同所において御昼餐の後、箱根樹木園に向かわれ、園内の植物を御覧になる。午後四時三十八分御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、箱根方面行幸啓録、發表綴、宮内庁庁報、官報、富田メモ

三日 木曜日 天皇と共に、午前九時三十分御泊所の箱根プリンスホテルを御出発になり、箱根神社に向かわれる。御着後、天皇の御拝礼に続いて、御拝座に進まれ、御拝礼になる。ついで神社内の植物を御観察になる。次に日本電信電話公社双子無線中継所に向かわれ、同所の植物を御覧になる。ついで愛林日記念植樹式場跡地に御移動になり、天皇・皇后がかつて同所にお手植えになったヒノキ

昭和二十
四年四月四
日御植樹

等^二を御覧になる。御泊所にお戻りになり御昼餐の後、同所を御出発になり、小田原駅より原宿駅を経て、午後四時二分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供

奉日誌、幸啓録、箱根方面行幸啓録、神宮及神社諸件、發表綴、宮内庁庁報、官報、箱根神社所蔵資料、箱根神社、双子四十年のあゆみ、富田メモ

七日 月曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部職員の洋楽演奏会に御臨席になる。御着後、楽長等のお出迎えをお受けになり、御休所において皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。演奏会では、ベートーヴェン作曲交響曲第八番などをお聴きになる。演奏終了後、

御休所において樂長始め三名の拝謁をお受けになる。ついで皇太子妃・正仁親王妃・故雍仁親王妃のお見送りを受けて御発、吹上御所へ還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、發表綴

八日 火曜日 午後、正殿梅の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使ガブリエル・ヌンシオ・オリヴァ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来る八月三日の光明天皇六百年式年祭に先立ち、青山学院大学教授貫達人より光明天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、「故大平正芳」内閣・自由民主党合同葬儀が日本武道館において行われるに当たり、天皇・皇后が葬場使として侍従卜部亮吾を同所に差し遣わされ、拝礼させられる。また葬儀に際し、天皇・皇后が生花をお供えになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、「故大平正芳」内閣・自由民主党合同葬儀関係、發表綴、宮内庁庁報、故大平正芳内閣・自由民主党合同葬儀記録

十日 木曜日 午前、天皇が故内閣総理大臣大平正芳の葬儀に参列した外国首脳九名を御引見になる。この来訪に際し、フィリピン国大統領夫人イメルダ・ロムアルデス・マルコスより天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后へは造花<sup>貝殻製
籠入り</sup>が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交

贈答録、發表綴、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のコロンビア国特命全権大使グスタボ・メディナ・オルドニエス及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、

昭和五十五年七月

宮内庁庁報

十五日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフィンランド国駐節特命全權大使山口孝一郎及び同夫人、ザイル国駐節特命全權大使大嶋鋭男及び同夫人、クウェート国駐節特命全權大使今井隆吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に鳳凰の間において、この日宮内庁御用掛の委嘱を解かれた西村元彦在大韓民国日本大使館参事官の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

十九日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御対面になり、お礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十三日 水曜日 東久邇成子の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 木曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、国際オリンピック委員会^{IO}委員竹田恒徳より、去る十九日より開催中のオリンピック Moskva 大会に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

八月

三日 日曜日 午前、光明天皇六百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

四日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日宮内庁御用掛の委嘱を解かれた福田博^{在アメリ}カ合衆国日本国大使館参事官の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

天皇と共に鳳凰の間において、東宮侍従曾我剛^{来る十一日より二十四日までニュージーランド国を旅行する文仁親王に随従}の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

五日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時三十九分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、発表綴、宮内庁庁報、宮中門前学派

午後、天皇と共に御用邸内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮中門前学派

六日 水曜日 広島原爆の日につき、午前、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、宮中門前学派

九日 土曜日 長崎原爆の日につき、午前、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌

昭和五十五年八月

十一日 月曜日 北白川房子の祥月命日につき、午前、御用邸にて静かに過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十四日 木曜日 天皇と共に、午後零時五十三分那須御用邸を御出門になり、三時五十三分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、発表綴、宮内庁庁報

十五日 金曜日 天皇と共に、午前十一時四十八分御出門になり、政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため日本武道館に行啓される。御着後、式場に臨まれ、正午の時報に合わせて天皇と共に一分間黙禱される。午後零時二十七分還啓される。黙禱のため御自席から式壇中央に移動される際、中途でお止まりになり、その場で黙禱され、天皇のお言葉の後、御自席にお戻りになる。還啓後、この件に関して宮内庁より、御起立がお遅れになったため天皇のお近くまでお進みになれなかったようであるとのことが発表される。なお、同追悼式が行われるに当たり、去る十三日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。皇后の全国戦没者追悼式への御臨席は、この年が最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、恩賜録、天皇記者会見、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌、富田メモ、昭和天皇最後の侍従日記

十九日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時三十九分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報

二十日 水曜日 去る十六日静岡市において発生したガス爆発事故により甚大な被害を受けた静岡県

に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、發表綴、宮内庁庁報
元連合国最高司令官総司令部外交局長ウィリアム・ジョセフ・シーボルト去る十日死去につき、天
皇・皇后から弔意を同夫人エデイスに伝えるよう御下命があり、この日、侍従長より同夫人に弔電が
送られる。○外交慶弔録

九月

一日 月曜日 関東大震災の日につき、午前、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、宮中門前学派

昭和四十四年に定められた信任状捧呈及び任命状提出後の謁見に関する内規が改正され、この日より施行される。これにより、従来信任状捧呈式の後日に行われてきた本邦駐在外国特命全權大使の皇后への謁見は、信任状捧呈式に引き続き行われることとされる。○例規録、重要雑録

四日 木曜日 永久王四十年式年祭につき、午前、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、旧皇族録、贈賜録、宮中門前学派

五日 金曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、十一時四十八分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、發表綴、宮内庁庁報、宮中門前学派

午後、天皇と共に吹上御所において、同所の改修工事が行われた箇所を御視察になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、特営各中

昭和五十五年九月

昭和五十五年九月

八日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新たに宮内庁御用掛の委嘱を受けた荻田吉夫外務省北

米局北米第一課長・柳井俊二外務省条約局長・法眼健作外務省欧亜局長の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、典式録

九日 火曜日 久邇倂子御母の祥月命日につき、午前、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、翌十一日の後水尾天皇三百年式年祭に先立ち、

東京大学教授尾藤正英より後水尾天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午前、後水尾天皇三百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十二日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のウガンダ国特命全権大使ディヴィッド・アレク

サンダー・ウィリアム・ヌスブガ・バーロウ及び同夫人、ラオス国特命全権大使サリー・カムシを順

次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十三日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ザンビア国駐劬特命全権大使西宮一より同

国に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、

斎藤誠治業務日誌

十五日 月曜日 敬老の日につき、皇太子妃より鉢植が贈られる。○女官長日記

十六日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のギニア国特命全権大使マンディウ・トゥレ、ヨルダン国特命全権大使ズハイル・アル・ムフティ及び同夫人を順次御引見になる。なお、翌十七日にはギニア国特命全権大使を通じ、同国大統領アーメド・セクー・トゥーレより天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后へは飾り額が贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓ザンビア国大統領ケネス・デエイヴィツド・カウ ندا及び同夫人ベアトリスと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領に七宝花瓶クリム 丸形紫紺菊文、同夫人に七宝宝石箱地牡丹文を御贈進になる。また大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品

があり、皇后へは大統領夫人より銅製果器・銅製盆が贈られる。なお、大統領夫妻の入京に際し、皇后より夫人に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、官報、斎藤誠治業務日誌

十九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、新任のアルジェリア国駐箚特命全権大使宮沢泰及び同夫人、スリランカ国駐箚特命全権大使千葉一夫及び同夫人、アラブ首長国連邦駐箚特命全権大使中平立及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

夕刻、天皇と共に吹上御所において鷹司和子と御対面になり、この度行われた鷹司邸赤坂御用地内第百七十号建物の増築・改修及び家具等御下賜のお礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、施設各中、斎藤誠治業務日誌

昭和五十五年九月

二十三日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のビルマ国特命全権大使ソウ・トン及び同夫人、

イスラエル国特命全権大使アムノン・ベン・ヨハナン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された第三十二回保健文

化賞受賞者等十六名の拝謁をお受けになる。厚生事務次官八木哲夫の挨拶をお受けになり、天皇に続

いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁

報

正殿梅の間において、新任の大韓民国特命全権大使崔慶祿及び同夫人、スーダン国特命全権大使モハ

メド・エル・アミン・アブダラ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十五年度国民たすけあい共同募金運

動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事

業、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のオーストリア国特命全権大使クレメンス・ヴァ

イヒス・アン・デア・グロン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に連翠において、昭和四十六年の御訪欧及び昭和五十年の御訪米の首席随員福田赳夫始め随員・随行員をお召しになり、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、勤務日誌、典式録、宮殿行事録

十月

二日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のイラク国特命全権大使モハンメド・アミーン・アル・ジャフ及び同息女、タイ国特命全権大使ウィチアン・ワタナクン及び同夫人を順次御引見になる。
○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、去る八月二十五日にカナダ国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子のために御晩餐を催される。崇仁親王・同妃のほか、皇太子・同妃・徳仁親王、故雍仁親王妃勢津子、寛仁親王・容子内親王が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

三日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のスリランカ国特命全権大使ワッタナティリゲ・スサンタ・レスリー・デ・アルウイス及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

四日 土曜日 午前、正殿梅の間において、新任のシンガポール国特命全権大使ウィー・キム・ウィー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 木曜日 午後、天皇がスリランカ国首相ラナシンハ・プレマダーサ及び同夫人へメールを御引

昭和五十五年十月

見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が同首相夫妻へ七宝花瓶^{青磁}を賜う。また首相夫妻より天皇・

皇后に献上の品があり、皇后には金製ブレスレット^{宝石七}・壁飾り^{バティック}が献上される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

十一日 土曜日 天皇と共に地方事情の御視察及び那須御用邸に御滞在のため、栃木県に行啓される。

午前九時四十分御出門になり、原宿駅・宇都宮駅を経て、栃木県公館に御到着になる。御着後、拝謁・御説明室において栃木県知事船田譲による県勢概要の説明をお聞きになる。同館において御昼餐の後、宇都宮市福祉の里老人福祉センターふれあい荘を御訪問になり、施設内で開催中の教養講座を御視察になる。午後二時三十三分、御泊所の宇都宮ロイヤルホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、栃木県下行幸啓、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、下野新聞、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

十二日 日曜日 午前九時五十分お一方にて御泊所の宇都宮ロイヤルホテルを御出発になり、宇都宮

駅・黒磯駅を経て、十一時十五分那須御用邸に御到着になる。天皇は宇都宮市文化会館の御視察・第三十五回国民体育大会秋季大会開会式への御臨場を終えられた後、那須御用邸に御到着になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、栃木県下行幸啓、地方行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、官報、下野新聞、朝日新聞、読売新聞

十五日 水曜日 午前、天皇と共に澄空亭にお出ましになり、同亭において御昼餐の後、付近を散策

され、植物を御調査になる。皇后は天皇より先に御用邸へお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舍人供奉日誌、栃木県下行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、官報、富田メモ

来る二十日、パプアニューギニア国東ニューブリテン州ラバウル市において、厚生省主催の南太平洋戦没者の碑竣工並びに追悼式が行われるにつき、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、發表綴、宮内庁序報

十六日 木曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、十一時五十分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、栃木県下行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁序報、官報

翌十七日から二十二日まで新宿小田急百貨店において開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」へ、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十日にも御出品になる。

○女官長日記、贈賜録、發表綴

十七日 金曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において神宮及び賢所を御遙拝になる。○女官長日記、

女官日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

十八日 土曜日 午前、正殿梅の間において、新任の英国特命全権大使ヒュー・コータツツイ及び同夫人、エルサルバドル国特命全権大使ギリエルモ・パス・ラリン及び同夫人を順次御引見になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十日 月曜日 皇太子妃誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子妃と御対面になり、お礼をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁序報

この日ブラジル国大統領夫人ドウルセ・マリア・デ・カストロ・フィゲイレード来日 二十日から二十五日まで非公式に來訪 に

昭和五十五年十月

つき、入京に際し、皇后より夫人に花束を御贈進になる。後日、夫人より皇后に礼電が寄せられる。

○外交贈答録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、天皇と共に松風の間に於いて、松栄会会員二十九名の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間に於いて、近く赴任のビルマ国駐節特命全権大使橋

正忠及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

翌二十四日から二十六日まで山口県宇部市において開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会九州支部展」へ、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○贈賜録、発表綴

二十五日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間に於いて、スペイン国駐節特命全権大使横田弘より

同国に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間に於いて、国賓スペイン国王ホアン・カルロス一

世及び同王妃ソフィアと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より国王に七宝花瓶緑地光琳菊文を、王

妃に七宝宝石箱丸形クリーム地紺唐草文を、また皇后より王妃に絹地紅葉山御養蚕所産繭により織立を御贈進になる。国王・王妃からも

天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には金製ネックレスサファイアのペリダント付きが贈られる。なお、国王・王妃

の入京に際し、皇后より王妃に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌、読売新聞

十一月

一日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の皇宮警察本部長藤巻清太郎及び前任の皇宮警察本部長松井三郎の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校表彰会で表彰された健康優良学校代表等の拝謁をお受けになる。同会会長渡辺誠毅朝日新聞社長の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿

行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

六日 木曜日 明治神宮鎮座六十年祭につき、天皇と共に御参拝のため、午前九時三十二分御出門になり、明治神宮に行啓される。御着後、御休所貴賓館において天皇が御参拝になるのをお待ちになり、続いて外拝殿西側において御修祓の後、内拝殿の御拝座において御拝礼になる。終わって御休所において、宮司高沢信一郎・名誉宮司伊達巽始め十一名の拝謁をお受けになる。その後、南神門内東側において、明治神宮崇敬会ブラジル支部会員約二十名の奉迎にお応えになり、十時五十五分還啓される。

また明治神宮鎮座六十年に当たり、これに先立つ十月二十二日、皇后が明治神宮に網戸付茶棚肥後象嵌入、明治二を賜う。なお本祭に当たり、昭憲皇太后をお偲びになり、次の御歌をお詠みになる。

世にひろく蚕飼のわざをすすめむとつとめましけるみ心を思ふ

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、贈賜録、発表綴、宮内庁庁報、官報、入江相政

昭和五十五年十一月

日記、斎藤誠治業務日誌

七日 金曜日 この日寛仁親王結婚につき、午後、天皇と共に正殿松の間に出御され、寛仁親王結婚式中の朝見の儀に臨まれる。式中、天皇に続いて、妃信子と共に参進の寛仁親王より謝恩の辞をお受けになり、お言葉を賜う。ついで天皇に続いて寛仁親王へ御盃をお授けになる。同様の手順で同妃にも御盃をお授けになる。終わって天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・同妃と御対面になる。この度の寛仁親王の結婚に当たり、天皇・皇后が同親王に特別御内帑金を賜い、崇仁親王に清酒並びに鮮鯛代料を、寛仁親王に白羽二重並びにお品を、三笠宮家にお品をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、贈賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、東京新聞

十四日 金曜日 天皇と共に多摩陵^{大正天皇陵}及び多摩東陵^{貞明皇后陵}に御参拝、併せて青梅市を御訪問のため、

午前十時二分御出門になり、陵所に行啓される。御着後、天皇に続いて多摩陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。御休所において御昼餐の後、青梅市に向かわれ、青梅鉄道公園に御到着になる。同公園内のお手植樹管理地において、お手植え時に御使用になった道具やお手植えのヒノキを御覧になる。

なお、このヒノキは第一回東京都山の植樹祭^{森林愛護連盟及び全日本観光連盟共催、昭和二十三年四月四日挙行}の際に式場となった永山公園にお

手植えになったもので、鉄道公園建設に伴い昭和三十七年に同公園内に移植された。御少憩の後、近接する永山公園遊歩道入口に移動され、遊歩道を散策される。ついで展望台から市街地を御展望になり、眼下の同市陸上競技場に集まった市民等の奉迎にお応えになる。午後四時十三分還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、臨時祭祀録、発表綴、宮内庁庁報、官報、東京都

庁所蔵資料、広報おうめ、えこう、読売新聞

十五日 土曜日 去る八日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより、同国皇太子アンリの婚約を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。これに対し、この日天皇・皇后が同大公・同妃に祝電をお送りになる。十七日には大公より天皇に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十七日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、結婚後初参内した寛仁親王・同妃信子と御対面になり、お礼をお受けになる。また天皇・皇后が同親王にお品を、同妃にお品及び洋服地^{紅葉山御養蚕所産}を、同親王・同妃に万那料及び菓子をそれぞれ賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十八日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のルワンダ国特命全権大使サンフォリアン・ンテジリザ及び同夫人、ニカラグア国特命全権大使ホルヘ・ウエソ・カストリーリョ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 土曜日 午前、宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧になる。同展には日本画の御作品「高原初秋―たらのき」・「山麓の秋日―がまずみとつくばね」を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、発表綴、文化祭目録、香淳皇后のご生涯と作品

二十六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のニカラグア国駐節特命全権大使松岡康弘及び同夫人、バングラデシユ国駐節特命全権大使大塚博比古及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和五十五年十二月

二十七日 木曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会へ御臨席になる。楽部玄関に御着後、同会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会では、双調音取、入破、鳥急、胡飲酒破<sup>残楽
三返</sup>、武徳楽、貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。演奏終了後、御休所脇廊下において同会会員十五名及び首席楽長東儀信太郎<sup>糸竹会
講師</sup>・楽長上近正^同上の拝謁をお受けになる。その後、同会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、糸竹会

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

天皇と共に春秋の間において、文部大臣から表彰された昭和五十五年度教育者表彰被表彰者等の拝謁をお受けになる。代表の巽幸彦<sup>岐阜県立長良
高等学校校長</sup>より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二月

一日 月曜日 午後、正殿梅の間において、初代キプロス国特命全権大使ディノス・ムスフータス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時五十一分須崎御用邸に行啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

三日 水曜日 寛仁親王妃信子の父麻生太賀吉昨二日死去につき、天皇・皇后が靈前に菓子を賜う。

○女官長日記、贈賜録、毎日新聞

四日 木曜日 午前、天皇と共にミカン園から展望台道付近を散策され、植物を御調査になる。皇后は天皇より先に御用邸へお戻りになる。御用邸御滞在中、十日まで毎日、天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

雍仁親王例祭につき、午後、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十日 水曜日 歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○恩賜録

十一日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、發表綴、宮内庁庁報

御風気のため、この日より二十三日まで吹上御所外へのお出ましをお控えになり、御静養になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十三日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十五日 月曜日 この年の冷害により、農作物に特に甚大な被害を受けた北海道・青森県・岩手県・宮城県・福島県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、發表綴、宮内庁庁報

十六日 火曜日 去る十一月三日の天皇及び共著者五名による御著書『伊豆須崎の植物』保育社刊刊行につ

昭和五十五年十二月

き、午後、天皇と共に吹上御所において、宮内庁長官富田朝彦、及び共著者の東京大学名誉教授本田正次始め四名<sup>京都大学名誉教授
北村四郎は欠席</sup>の拝謁をお受けになる。なお、当初は祝賀として林鳥亭において皇后主催のお茶の会が予定されていたが、天皇・皇后共に御風気のため、吹上御所における拝謁及び林鳥亭でのお茶の会<sup>天皇・皇后のお出まし
はお取りやめになる</sup>に変更された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、伊豆須崎の植物、北村四郎選集

十九日 金曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 火曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に吹上御所において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元女官等の祝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になり、お礼をお受けになる。なお、当初は宮殿において祝賀をお受けになる予定であったが、天皇・皇后の御風気のため、吹上御所で行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十四日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、京都在住堂上会総代冷泉為安の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

正殿梅の間において、新任のパプアニューギニア国特命全権大使ジョゼフ・カール・ノンブリ及び同夫人、ドミニカ共和国特命全権大使カルロス・ゴルドン・グスマンを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて

静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、正殿梅の間において、新任のガボン国特命全権大使マルタン・ンズエ・ンコゲを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十七日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、翌年一月十一日の清和天皇千百年式年祭に先立ち、国学院大学教授林陸朗より清和天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者より歳末の祝詞言上をお受けになる。終わって芳菊の間において、文仁親王・清子内親王の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、昨二十九日にタイ国訪問より帰国した徳仁親王と御対面になる。続いて天皇と共に同所において、同親王に随行した東宮職御用掛石井米雄・東宮侍従八木貞二の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

昭和五十六年一月

昭和五十六年（西暦一九八一年） 七十八歳

一月

一日 木曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王・容子内親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等、各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の具合に変化はないこと、絵はスケッチや小品だけ描かれていることなどが発表される。○年末年始行事、サンケイ、東京新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 金曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後四回の計七回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官

報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

三日 土曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録、入江相政日記

七日 水曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。その後、皇后お一方にて、花の間において御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、入江相政日記

九日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

十日 土曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第二十四回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}入賞者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。読売新聞社代表取締役副社長原四郎より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、読売新聞

十一日 日曜日 午前、清和天皇千百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

昭和五十六年一月

十三日 火曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は御欠席になる。この年のお題は「音」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

朝日岳の裾にひろがる笹原をさわわたる風の音をきく

○女官長日記、女官日誌、儀式録、典式録、年末年始行事、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

十四日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

二十日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日新たに宮内庁御用掛を委嘱された佐藤裕美外務省大臣官房調査企画部企画課企画官及び同職の委嘱を解かれた村田光平在大韓民国日本国大使館参事官の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

二十一日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、寛仁親王妃信子と御対面になり、同妃の父麻生太賀吉死去昨五十五年十二月二日に伴う喪明け第二の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、御身位録

午後、正殿梅の間において、新任のエジプト・アラブ共和国特命全権大使アブデル・ファッターハ・ハッサン・シャバーナ及び同夫人、ザンビア国特命全権大使ジョセファット・バーナード・アカヨンボクワ・シヨムンジ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮内庁庁報

天皇と共に芳菊の間において、この度米国の大学に入学する島津禎久貴子の
子息を伴い参内した島津貴子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十二日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 火曜日 邦彦王御父の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌

三十日 金曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報、入江相政日記

二月

三日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来る六日の高倉天皇八百年式年祭に先立ち、東京大学教授山中裕より高倉天皇の御事蹟に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

四日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のノルウェー国駐節特命全権大使有本富三及び同夫人、ケニア国駐節特命全権大使小杉照夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和五十六年二月

昭和五十六年二月

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・靈鑑寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

六日 金曜日 午前、高倉天皇八百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、東宮録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌、入江相政日記

九日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のキューバ国駐筭特命全権大使塚本政雄及び同夫人、パラグアイ国駐筭特命全権大使大鷹正及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌、富田メモ

十二日 木曜日 午前、天皇と共に御車寄からお出ましになり、三井浜まで植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、入江相政日記

十四日 土曜日 ルクセンブルク国皇太子アンリこの日結婚につき、天皇・皇后が同国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテに祝電をお送りになる。これに対し、二十一日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、斎藤誠治業務日誌

二十一日 土曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、来る二十七日より三月七日までサウジアラビア国及びスリランカ国を訪問する皇太子・同妃の首席随員鹿取泰衛及び随員九名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、入江相政日記

二十三日 月曜日 午後、正殿梅の間において、ポーランド国特命全權大使ズジスワフ・ルラシュ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮内庁庁報
天皇と共に鳳凰の間において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長林敬三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に吹上御所において、翌二十七日よりサウジアラビア国・スリランカ国を訪問
タイ国・シンガポールに立ち寄りする皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、空港行事録、外交雑録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

英国皇太子チャールズ去る二十四日婚約につき、天皇・皇后が同国女王エリザベス二世に祝電をお送りになる。これに対し、三月三日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

昭和五十六年三月

三月

三日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のグアテマラ国駐箚特命全権大使浅田泰三及び同夫人、チュニジア国駐箚特命全権大使滝口吉亮及び同夫人、フィジー国駐箚特命全権大使池部健の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

元歌会始詠進歌選者松村英一去る二月二十五日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。松村は昭和三十三年から四十年、四十三年から四十四年まで選者を務めた。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

五日 木曜日 翌六日に満七十八歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千二百九十一本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

東久邇聡子三年式年祭につき、豊島岡墓地における霊舎祭及び墓所祭の御代拝を女官市村菊重に仰せ付けられる。また、天皇・皇后が、霊舎に菓子をも、墓所に榊をお供えになり、さらに、お尋ねとして東久邇稔彦^{聡子の夫君}・同信彦^{稔彦の孫}に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

六日 金曜日 満七十八歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、参与宇佐美毅・森永貞一郎、続いて徳仁親王始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、芳菊の間において元側近奉仕者、続いて元皇后宮女官・元女官・

元皇太后宮女官等の祝賀を、御車寄内において元女嬬等の祝賀を、花の間において元御用掛有島暁子、続いて御学友・御同級生七名、東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。正午、正殿梅の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に吹上御所において、文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、東宮録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、富田メモ

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、痛められた腰の経過は順調であるがコルセットを着用されていること、御散策では時々木の実を拾われるなどかなり御自由にお歩きになっていること、室内では主に静物をスケッチされ、色を塗らないデッサンのようなものをお描きになっていることなどが発表される。○内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、読売新聞

七日 土曜日 御夕食後、天皇と共に吹上御所において、この日サウジアラビア国及びスリランカ国訪問から帰国した皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子・同妃のサウジアラビア国及びスリランカ国訪問における首席随員鹿取泰衛及び随員九名の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に宮殿御車

昭和五十六年三月

寄内において、随員九名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

宮内庁庁報

この日、侍従職御用掛富山一郎死去につき、天皇・皇后が祭装料を賜い、霊前に切り花・押物等をお供えになる。また別に天皇・皇后がお品を賜う。富山は、長年にわたり天皇の御研究に奉仕した。○

女官長日記、侍従日誌、恩賜録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、おほうなばら、魚類学雑誌、動物学雑誌、毎日新聞、読売新聞

十三日 金曜日 正午、天皇と共に正殿竹の間において、タイ国王妃シリキット、第三王女チュラポー

ン及び王族パヌ・ユガラと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后よりタイ国王妃に銀製宝石箱を、王女に佐賀錦ハンドバッグ 金漆ブルー地カーネーション唐草模様 を、王族パヌ・ユガラに七宝花瓶 下蕪水色桃文様 を御贈進にな

る。これに対し、タイ国王妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には扇子が贈られる。また別

に、十五日には王妃より皇后にバラの切り花の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、真崎秀樹英

文日記

十四日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、タンザニア国駐筭特命全権大使津田天瑞よ

り同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿

行事録、東宮録、斎藤誠治業務日誌

十六日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のシリア国駐筭特命全権大使多田

利雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿

行事録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日学習院中等科を卒業した文仁親王と御

対面になる。なお、天皇・皇后より同親王に万那料及びお品料を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、皇族御身分録、東宮録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌、昭和天皇最後の侍従日記

十八日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国賓タンザニア国大統領ジュリアス・カン

バラゲ・ニエレレ及び同夫人マリアと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領に七宝

花瓶 赤透袖四君子文 を、同夫人に七宝宝石箱 クリム地花唐草文 を御贈進になる。また大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進

の品があり、皇后にはウリ科の植物の実で作った壺及び人物像の版画 額入 が贈られる。なお、昨十七日

大統領夫妻が入京した際に、皇后より夫人に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、タンザニア国大統領閣下同夫人接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、齋藤誠治業務日誌、

真崎秀樹英文日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

午後、天皇と共に吹上御所において、来る二十七日より四月十六日までカナダ国・ノルウェー国・英
国・オーストリア国を旅行する寛仁親王・同妃信子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、寛仁親王同妃両殿下カナダ・ノルウェー・英国・オーストリア御旅行関係記録、贈賜録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 来る二十八日、ビルマラングーン市のチャンドウ日本人墓地において、厚生省主
催の「ビルマ平和記念碑竣工並びに追悼式」が行われるにつき、天皇・皇后が生花を賜う。○恩賜録、

発表綴

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、東宮録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌

昭和五十六年三月

二十三日 月曜日 午前、正殿梅の間において、新任のマレーシア国特命全権大使ダトウ・ジャマル
ディン・ビン・ハジ・アブ・バカル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職
日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮内庁庁報

去る七日にサウジアラビア国及びスリランカ国訪問より帰国した皇太子・同妃のために、天皇と共に
吹上御所において、徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、
崇仁親王・同妃百合子・容子内親王、鷹司和子と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、
侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、斎藤誠治業務日誌

二十四日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓され
る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、
斎藤誠治業務日誌

二十六日 木曜日 午後、三井浜にお出ましになり、先着された天皇と合流の上、附属邸付近まで植
物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日
記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、入江相政日記

三十一日 火曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓され
る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、
ト部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

四月

二日 木曜日 御風気につき御仮床に就かれ、この日予定されていた、財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者の拝謁はお取りやめになる。十四日より平常に復される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、拝謁録、発表綴、皇太后陛下御健康

四日 土曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花を賜う。○贈賜録

七日 火曜日 この度学習院中等科を卒業し高等科へ進学する文仁親王に、天皇・皇后が万那料・お品料を賜う。また、皇太子・同妃に五種交魚代料を賜う。○女官長日記、贈賜録、皇族御身分録

十日 金曜日 桃華樂堂においてこの日行われた昭和五十五年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十二名に、御紋付銀製スプーンを賜う。なお、皇后は御風気により御臨席をお取りやめになる。○恩賜録、

音楽大学卒業生演奏会、発表綴

十三日 月曜日 朝香鳩彦御父邦彦
王の弟 昨十二日死去につき、この日より七日間服喪される。天皇・皇后が

弔問使として侍従田中直を静岡県熱海市の朝香邸に差し遣わされ、霊前に盛花をお供えになる。また別に皇后が果物をお供えになる。これより先、七日には、病氣お尋ねとして天皇・皇后が果物を賜う。

十五日には、天皇・皇后が賜物使・枢前使として侍従卜部亮吾を本通夜が行われる白金迎賓館本館旧朝
香宮

邸に差し遣わされ、朝香孚彦鳩彦の
子息に祭資を賜い、また霊前に白羽二重・榊・菓子をお供えになる。十

七日には、皇后が葬場使として侍従小林忍を豊岡墓地に差し遣わされる。

朝香鳩彦は、朝彦親王の第八王子として明治二十年に誕生、三十九年に朝香宮の称号を下賜され、四

昭和五十六年四月

十三年に明治天皇第八皇女允子内親王と結婚する。近衛師団長などの諸職を経て昭和十四年に陸軍大將となる。二十二年に皇族の身分を離れ、朝香姓を名乗る。享年九十三。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、贈賜録、大勲位朝香鳩彦殿葬儀録、墓誌銘録、発表綴、斎藤誠治業務日誌

正午前、天皇がモナコ国大公レーニエ三世及び同妃グレースと御会見になる。この来訪に際し、天皇・

皇后より大公に有田焼花瓶色鍋島菊唐花文を、同妃に七宝宝石箱クリーム地紺唐草文を御贈進になる。また大公・同妃より

天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には押し花の絵入り書籍、ハンドバッグ、スカーフが贈られる。

なお、去る十一日に大公・同妃が入京した際に、皇后より同妃に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、天皇が外務省賓客ニュージーランド国首相ロバート・デイヴィッド・マルドゥーン及び同夫人セアを御引見になる。この来訪に際し、同国首相及び同夫人より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には手織りのショールが献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、真崎秀樹英文日記

十七日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、デンマーク国駐劄特命全権大使高橋展子より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

二十日 月曜日 午前、正殿梅の間において、新任のオーストラリア国特命全権大使ジェームス・プリムソル、ベトナム国特命全権大使グエン・ティエン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮内庁庁報

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のドイツ連邦共和国特命全權大使クラウス・ブレツヒ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報
天皇と共に吹上御所において、去る十八日に誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。なお、御対面がこの日になったのは、朝香鳩彦死去に伴い皇后が七日間服喪されたことによる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓デンマーク国女王マルグレーテ二世及び王配ヘンリックと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后には白象勲章デンマーク国の最高勲章、天皇は大正十

三年に同章を御受領が贈られる。この来訪に際し、天皇・皇后より女王に九谷焼飾壺極彩色吉野山絵文様を、王配に有田焼飾

皿色鍋島露草文を御贈進になる。さらに皇后より女王に絹地菊の花模様、紅葉山御養蚕所産を御贈進になる。また女王・王配より

天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはミンクのストールが贈られる。なお、女王・王配が入京した際に、皇后より女王に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、国公賓綴、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

二十二日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の皇宮警察本部長橋本佑三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、入江相政日記

二十三日 木曜日 午前、波の間において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁又は会長表彰の愛育班員及び愛育班育成功労者等十九名の拝謁をお受けになる。代表の金子忠子より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。なお、同会総裁又は会長から表彰された者の拝謁をお受けになるのは、この年が

昭和五十六年四月

最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、発表綴、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、去る十六日にカナダ国・ノルウェー国・英国・オーストリア国旅行より帰国した寛仁親王・同妃信子と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 天皇誕生日につき、午前、天皇と共に芳菊の間において、侍従長及び女官長始め側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において皇太子・同妃始め皇族・元皇族・御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に花の間前において女嬬・雑仕の祝賀を、鳳凰の間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。さらに同所において、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、恩賜録、宮殿行事録、天皇陛下満八十歳祝賀行事関係、天皇陛下八十歳記念行事、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、真崎秀樹英文日記

天皇誕生日一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子とお祝いの御夕餐を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、内廷皇族誕生日天皇陛下

五月

一日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のイラン国駐筭特命全權大使高橋正太郎及び同夫人、大韓民国駐筭特命全權大使前田利一及び同夫人、モロッコ国駐筭特命全權大使内田園生及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日より十月三十一日まで第二十六回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○社会事業、発表綴、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、発表綴、斎藤誠治業務日誌

七日 木曜日 天皇と共に、午前十時二分御出門になり、多摩陵^{大正天皇}及び多摩東陵^{貞明皇后}に行啓される。天皇の御拝礼が終わった後、続いて皇后が多摩陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。天皇と共に、御休所において御昼餐の後、午後二時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、臨時祭祀録、典式録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十一日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御給桑になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、斎藤誠治業務日誌

十二日 火曜日 ドイツ連邦共和国元大統領夫人ヴィルヘルミーネ・リュプケ去る三日死去につき、天皇・皇后から弔意を遺族に伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。○外交慶弔録

昭和五十六年五月

十三日 水曜日 午後、花の間において前田すゑ故前田青邨夫人、五代目萩江露友・平山郁夫の拝謁をお受けになる。なお

前田は、過日米寿を迎えた際に、皇后より賜りがあつたことへのお礼のため参内した。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十六日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る十四日に退職した前皇室経済主管中野晟の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、御写真録、宮内

庁庁報

十七日 日曜日 貞明皇后三十年式年祭につき、午前、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、

女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

貞明皇后三十年式年祭に当たり、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司和子、池田厚子、島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東

宮録、斎藤誠治業務日誌

十八日 月曜日 正午前、天皇と共に正殿竹の間において、ベルギー国王弟アルベールと御会見になる。なお、皇后の外国賓客との御会見・御引見は、これが最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外賓接待録、皇族雑録、宮殿行事録、宮内庁庁報、真崎秀樹英文日記

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、四齡の蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌

二十日 水曜日 この日、翌二十一日より二十六日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日

本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。
二十三日にも御出品になる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、発表綴

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ドイツ民主共和国駐劄特命全權大使山田淳治より同国に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、
宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

午後、正殿梅の間において、新任のスペイン国特命全權大使エドゥアルド・イバニェス・イ・ガルシア・デ・ヴェラスコ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、発表綴、宮内庁庁報

来る二十五日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 奈良県において開催される第三十二回全国植樹祭に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に奈良県及び兵庫県に行啓される。天皇と共に、午前九時三十三分御出門になり、東京駅より京都駅を経て近鉄橿原神宮前駅に御到着になる。それより神武天皇陵（畝傍山東北陵）を天皇に続き御拝礼になる。終わって近鉄橿原神宮前駅より近鉄吉野駅を経て、午後四時十九分吉野郡吉野町の御泊所竹林院群芳園に御到着になる。御少憩後、奈良県知事上田繁潔より天皇と共に県勢の概要についてお聞きになる。その後、天皇と共に竹林院群芳園主福井良盈の案内により庭園を御散策になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、奈良県・兵庫県下行幸啓綴、臨時祭祀録、畝傍陵墓監区事務所所蔵資料、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、第三十二回全国植樹祭

昭和五十六年五月

二十三日 土曜日 天皇と共に、午前九時十五分御泊所竹林院群芳園を御出発になり、吉野木材協同組合連合会の木材展示場を御視察になる。終わって近鉄吉野駅より近鉄奈良駅を経て、御泊所奈良ホテルに御到着になる。御昼餐の後、天皇と共に春日奥山に向かわれ、国の特別天然記念物に指定されている春日山原始林内を御散策になる。ついで東大寺に御着になり、御少憩後、昨五十五年に大修理を終えた大仏殿内に進まれ、盧舎那仏の蓮華台前までお登りになる。午後四時三十七分御泊所奈良ホテルにお戻りになる。その後、お一方にて円照寺門跡の山本静山・中宮寺門跡の日野西光尊の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、奈良県・兵庫県下行幸啓綴、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、吉野町役場所蔵資料、東大寺所蔵資料、入江相政日記、第三二回全国植樹祭

二十四日 日曜日 天皇と共に、午前九時十五分御泊所奈良ホテルを御出発になり、奈良公園内の飛火野に御到着になる。明治四十一年陸軍特別大演習時の明治天皇玉座跡を御覧になった後、天幕内のお席において鹿寄せを御覧になる。次に全国植樹祭会場である平城宮跡に御臨場になり、お野立所に着席され、表彰・天皇のお言葉・第三十二回全国植樹祭大会会長福田一の答辞の後、お手植え地に進まれる。奈良県婦人代表小出縫・林業後継者代表小林千代香・みどりの少年団代表川口美帆の介添えにより、イチイガシの苗木一本をお手植えになる。天皇もイチイガシの苗木一本をお手植えになる。続いてお手播き床に進まれ、奈良県婦人代表増田清子の介添えによりヤマザクラの種子をお手播きになる。天皇は吉野スギの種子をお手播きになる。次に法華寺を御訪問になり、本堂の国宝木造十一面観音立像等を御覧になる。終わって近鉄奈良駅より新神戸駅を経て、午後零時五十分御泊所神戸ポートピアホテルに御到着になる。御昼餐後、拝謁室において兵庫県知事坂井時忠より県勢の概要につい

てお聞きになる。ついで神戸ポートアイランド博覧会場のテーマ館に臨まれ、各展示等を御覧になる。続いて兵庫県館に移られ、御着後、天皇とお別れになり、先にお一方にて御泊所神戸ポートピアホテルにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、奈良県・兵庫県下行幸啓綴、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、奈良県庁所蔵資料、春日大社所蔵資料、法華寺所蔵資料、入江相政日記、神戸ポートアイランド博覧会公式記録、第三二回全国植樹祭天皇皇后両陛下来県写真集、春日、奈良県民日より、奈良市民日より、第三二回全国植樹祭

二十五日 月曜日 天皇と共に、午前九時二十分御泊所神戸ポートピアホテルを御出発になり、神戸新交通ポートアイランド線の市民広場駅に向かわれる。同駅よりポートライナーに御乗車、車中から博覧会会場・神戸港・神戸市街を御覧になり、中公園駅に御到着になる。それよりお一方にて御泊所神戸ポートピアホテルにお戻りになる。午後一時六分御泊所を御出発になり、新神戸駅で天皇と合流され、午後五時二十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、奈良県・兵庫県下行幸啓綴、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

二十六日 火曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。更生援護功労者石井春教より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。なお、皇后が身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十七日 水曜日 午前、天皇が国賓ドイツ民主共和国国家評議会議長エーリヒ・ホネカーと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より同議長夫人に凶録『宮殿』普及版を御贈進になる。また同議長

昭和五十六年五月

より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはマイセンのオウムの置物が贈られる。また、皇后より同議長夫人に『桃苑画集』を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、ドイツ民主共和国国家評議会議長閣下接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報
明治神宮会館において開催の昭和五十六年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日ここに、昭和五十六年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。赤十字は、国際的な強いきずなのもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となっておりですが、日本赤十字社が国際赤十字の一員として、立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の役割は、これからますます大きくなっていくものと思いますので、皆さんが互いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

正午過ぎ、吹上御所において、同大会への臨席を終えた皇太子妃より復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

三十日 土曜日 皇太子・同妃が主催する天皇の傘寿の奉祝会に御臨席のため、天皇と共に花蔭亭にお出ましになる。天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王始め皇族・元皇族等と御昼餐を御会食になる。御食後、東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ会員等による手品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、発表綴、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、

TAMC五〇年のあゆみ

三十一日 日曜日 故朝香鳩彦五十日祭に当たり、午後、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官
長日記、女官日誌

六月

三日 水曜日 天皇と共に、午前九時五十分御出門になり、群馬県に行啓される。原宿駅より渋川駅
を経て、伊香保町の御泊所木暮旅館に御到着になる。御昼餐後、榛名湖畔に向かわれ湖の景色を御展
望になり、ついで榛名山沼ノ原に移られ植物を観察される。それより群馬県立伊香保森林公園に臨ま
れる。御休所^{棟管理}において群馬県知事清水一郎より、大正十三年の御成婚を記念して群馬県に下賜され
た旧御料地の模範林内に、去る昭和五十四年に完成した同公園の概要についてお聞きになる。ついで
天皇がお一方にて園内を御巡覧の間、皇后は御休所において休憩される。天皇と共に午後五時九分、
御泊所木暮旅館にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓
録、群馬県行幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、群馬県庁所蔵資料、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、昭和

四日 木曜日 天皇と共に、午前十時二十九分御泊所木暮旅館を御出発になり、渋川市の群馬県立榛
名養護学校を訪問され、校内を御視察になる。なお、この度の御視察につき、天皇・皇后が同養護学
校に菓子を賜う。御泊所に戻られ御昼餐の後、北群馬郡榛東村の群馬県林業試験場を御視察になる。
ついで同村の群馬県椎茸農業協同組合長清水次郎宅の温室を訪問され、シイタケ等の栽培状況を御覧
になる。午後三時五十三分、再び御泊所木暮旅館にお戻りになり、御少憩後、引き続き旧伊香保御料
地の御視察に向かわれる天皇をお見送りになる。夕刻、御泊所にお戻りの天皇と共に、玄関前の野鳥

昭和五十六年六月

舎を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、群馬県行幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、群馬県庁所蔵資料、群馬県林業試験場所蔵資料、入江相政日記、群馬県立榛名養護学校行幸啓記念誌、榛養PTA会報、教育ぐんま、林業試験場三十年のあゆみ、林業ぐんま

五日 金曜日 天皇と共に、午前十時二十九分御泊所木暮旅館を御出発になり、勢多郡富士見村の富士見村中央公民館を訪問され、下仁田町立西中学校校長里見哲夫より赤城山の植生に関する説明をお聞きになる。御昼餐の後、緑の週間記念植樹式跡地^{昭和二十六年四月開催の植樹行事の会場跡}にお着きになり、かつてお手植えになったクロマツ等を御覧になり、クロマツ林を御散策になる。終わって前橋駅より原宿駅を経て、午後三時五十三分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、群馬県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、群馬県庁所蔵資料、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

六日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

八日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のオランダ国駐節特命全権大使中島信之及び同夫人、カタール国駐節特命全権大使野草茂基及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十二日 金曜日 天皇と共に連翠北において、皇太子・同妃始め菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐を催される。席上、同親睦会より天皇の八十歳、皇后の七十七歳のお祝いの献上品目録をお受けになる。ついで連翠南においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

十六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のスウェーデン国駐劔特命全權大使大和田涉及び同夫人、ジンバブエ国駐劔特命全權大使佐々木正賢及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

天皇と共に鳳凰の間において、新任の皇室経済主管宮尾盤始め三名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、例規録、宮内庁庁報、官報

十七日 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十八日 木曜日 午後、天皇と共にお成道付近を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌

二十三日 火曜日 東京プリンスホテルにおいて開催の第二十八回フーレンス・ナイチンゲール記章授与式に、御名代として皇太子妃を差し遣わされる。元日本赤十字社熊本支部救護看護婦長松守敏、元国立松山病院総看護婦長梅本勝子、元国立大分病院総看護婦長津末ミズエ、別府市私立畑病院長看護婦の三名にナイチンゲール記章及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日ここに、第二十八回フーレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、大変うれしく思います。

このたび、松守敏、梅本勝子、津末ミズエの三名の方々が、赤十字国際委員会から看護婦とし

昭和五十六年七月

て最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる献身的努力のたまものであり、本人の榮譽はもとより、我が国にとりまして、誠に喜ばしいことであります。

受章された方々は、今後も健康に注意され、博愛と人道のため、看護の道に力を尽くすとともに後進の指導に当たり、広く内外の人々に信頼され、感謝されることとなるよう切に希望いたします。

○幸啓録、發表綴、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十五日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌

七月

一日 水曜日 元正倉院懇談会会員岡田譲去る六月二十六日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。

○恩賜録、宮内庁庁報

二日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、發表綴、斎藤誠治業務日誌、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

三日 金曜日 午前、天皇と共に宮殿西車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

九日 木曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部職員による洋楽演奏会に御臨席になる。演奏会には、故雍仁親王妃勢津子・鷹司和子が出席する。楽部玄関に御着後、式部副長松平潔の先導により御休所にお入りになり、御休所において鷹司和子と御対面になる。ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、ベートーヴェン作曲弦楽三重奏曲「セレナード」などをお聴きになる。演奏終了後、御休所において指揮者甲斐正雄・首席楽長東儀信太郎・楽長上近正の拝謁をお受けになる。その後、出演者一同のお見送りを受けて御発、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、発表綴、斎藤誠治業務日誌

十日 金曜日 午後、正殿梅の間において、初代フィジー国特命全権大使ジョージ・コトバラヴ及び同夫人、初代イエメン・アラブ共和国特命全権大使アハメッド・カーイッド・バラカートを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午後、正殿梅の間において、新任のスウェーデン国特命全権大使グンナー・ニコラウス・ロネウスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報
十五日 水曜日 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時三十九分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十六日 木曜日 午前、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、入江相政日記

昭和五十六年七月

十九日 日曜日 寛仁親王妃信子の内着帯につき、天皇・皇后が寛仁親王・同妃信子に万那代料を賜う。○侍従職日誌、贈賜録、彬子女王殿下御誕生記録

二十日 月曜日 故朝香鳩彦百日祭に当たり、終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、大勲位朝香鳩彦殿葬儀録、贈賜録、入江相政日記

二十二日 水曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、十一時四十七分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、斎藤誠治業務日誌

二十三日 木曜日 東久邇成子没後二十年の祥月命日につき、天皇と共に、午後三時二十九分御出門になり、豊島岡墓地に行啓される。御着後、東久邇家墓所前の御拝座において、天皇に続き御拝礼になる。終わって天皇と共に東久邇信彦・同夫人吉子のお礼言上をお受けになり、三時五十七分還啓される。なお行幸啓に先立ち、東久邇成子二十年式年祭霊舎祭の儀及び墓所祭の儀が執り行われ、天皇・皇后が東久邇成子の霊舎豊島岡参集所に菓・榊を、同墓所に果物・榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子・同妃の英国訪問における首席随員中川融及び随員五名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕食を御会食になる。皇太子・同妃は、英国皇太子チャールズの結婚式二十日に参列のため、来る二十六日より八月二日

まで同国を訪問する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、臨時祭祀録、東宮録、宮内庁
庁報

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のハンガリー国駐劔特命全権大使
使角谷清及び同夫人、ザンビア国駐劔特命全権大使関栄次及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長
日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のタンザニア国駐劔特命全権大
使浅羽満夫及び同夫人、ボリビア国駐劔特命全権大使吉水通及び同夫人、ガボン国駐劔特命全権大使
井上吉三郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁
録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

午後、沖縄県の児童・生徒による「沖縄の民謡・舞踊の催し」に御臨席のため、天皇と共に桃華楽堂
にお出ましになる。琉球舞踊・沖縄民謡等を御鑑賞になった後、天皇と共に式部職業部御休所横の廊
下において出演者等の拝謁をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。なお、この度の催しは昭和三十
七年から行われている本土と沖縄の小中学生の「豆記者交歓会」がこの年二十年目を迎えるに当た
り、その記念として行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恩賜録、発表綴、入江相政
日記、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇をお偲びして、昭和

英国皇太子チャールズがダイアナ・フランセス・スペンサーと結婚するに当たり、天皇・皇后が同国
女王エリザベス二世へ祝電をお送りになる。これに対し八月一日に答電がある。なお結婚式に際し、
去る二十七日、天皇・皇后よりチャールズ皇太子へ九谷焼飾皿金欄手花弁
小紋文様を、式に参列の皇太子・同妃に

昭和五十六年八月

託され御贈進になる。これに対し後日チャールズ皇太子より天皇に礼状^{九月九日付}が寄せられる。○外交慶弔

録、外交贈答録、外交雑録、恩賜録、發表綴、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

三十一日 金曜日 天皇と共に、午前九時四十七分御出門になり、午後零時三十九分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、那須

御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

八月

十日 月曜日 午前、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行

幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、斎藤誠治業務日誌

十一日 火曜日 北白川房子の祥月命日につき、午前中、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長

日記、女官日誌、那須御用邸管理事務所日誌、斎藤誠治業務日誌

午後、宮内庁より、皇后は腰が十分に良い状態ではない上に御風気気味でもあるため、来る十五日の全国戦没者追悼式には御臨席にならず、引き続き那須御用邸において御静養になること、皇后は脊椎障害を再発され、昭和五十二年に痛められた腰椎とは別の箇所である、腰に近い胸椎を痛められたこと、病名は脊椎の一部が潰れるキヌメル氏病であり、原因は骨の老化によること、御静養の期間は

一、二箇月間となる見込みであることなどが発表される。なお、全国戦没者追悼式には、この年以降毎年、腰あるいは膝に御負担の掛かる御行動を避けていただくために御臨席にならないこととされる。

なお、天皇は全国戦没者追悼式に御臨席になるため、十三日にお一方にて那須御用邸から皇居に還幸され、二十日に再び那須御用邸に行幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍

人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、發表綴、皇太后陛下御健康、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、昭和天皇最後の侍従日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

十五日 土曜日 全国戦没者追悼式のテレビ中継を御覧になり、黙禱される。同追悼式が行われるに当たり、昨十四日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、幸啓録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、昭和天皇最後の侍従日記

二十一日 金曜日 去る三日から六日にかけて発生した豪雨により甚大な被害を受けた北海道に対し、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、読売新聞

九月

一日 火曜日 関東大震災の日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌

二日 水曜日 午前、天皇が嚶鳴亭前において宮内記者会会員二十一名とお会いになり、記者からの質問にお答えになる。その際に、皇后の御健康についての質問をお受けになり、適当な運動をするこ
とは良いとしているので、時間の許す範囲において御運動をされており、その時には歩行等について

昭和五十六年九月

御注意になつてゐる旨をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用

邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、天皇記者会見、昭和天皇と私達

九日 水曜日 久邇^御親子の祥月命日につき、終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍

従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、ト部亮吾侍従日記

十日 木曜日 天皇と共に、午前八時五十二分那須御用邸を御出門になり、十一時四十六分皇居に還啓される。なお、今夏の那須御用邸御滞在について、この年、次の歌をお詠みになる。

しのぎよき那須の成宮^{なりみや}夏^{なつ}ごとにあつさのがれて幾年もきぬ

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、年末年始行事、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

来る十六日、パプアニューギニア国東セピック州ウエワクにおいて、厚生省主催のニューギニア戦没者の碑竣工並びに追悼式が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る八月二日英国訪問より帰国した皇太子・同妃の首席随員中川融及び随員五名の拝謁を、続いて天皇と共に宮殿御車寄内広間において、随行員五名の拝謁をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において皇太子・同妃より帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

天皇と共に鳳凰の間において、ニューヨーク日本協会創立七十五周年記念式典に出席のため、翌十二日より二十四日まで米国を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になる。これより先、天皇と共に同所において首席随員齊藤鎮男^{宮内庁御用掛}の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、正仁

親王同妃両殿下アメリカ合衆国御訪問関係記録、正仁親王同妃両殿下アメリカ合衆国御訪問、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のスペイン国駐劔特命全権大使林屋永吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、この日宮内庁御用掛の委嘱を解かれた法眼健作の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

天皇と共に鳳凰の間において、留学先のカナダ国より欧州諸国訪問を経て去る八月三十日に帰国した憲仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、憲仁親王殿下カナダ御留学関係記録、憲仁親王殿下カナダ御留学終了、宮内庁庁報

十六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のネパール国駐劔特命全権大使西沢憲一郎及び同夫人、スーダン国駐劔特命全権大使栗山明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十七日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のイスラエル国駐劔特命全権大使賀陽治憲及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十八日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のポルトガル国特命全権大使フランシスコ・マヌエル・バルタザル・モイタ及び同夫人、インド国特命全権大使キザケ・パラート・シヤンカラ・メノン及び同夫人を順次御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、

昭和五十六年九月

宮内庁庁報

二十三日 水曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

二十五日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された第三十三回保健文

化賞受賞者等の拝謁をお受けになる。厚生大臣村山達雄より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。なお、皇后が保健文化賞受賞者等の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

二十六日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、去る二十四日に米国訪問から帰国した正仁

親王・同妃華子と御対面になる。また、二十九日午前には、天皇と共に鳳凰の間において、正仁親王・

同妃華子の首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、正仁親王

同妃両殿下アメリカ合衆国御訪問、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十六年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事

業、宮内庁庁報

三十日 水曜日 昭和四十六年の御訪欧から十周年に当たり、午後、天皇と共に正殿竹の間において、

御訪欧及び昭和五十年の御訪米の節の随員・随行員、訪問国の赴任大使・公使、御通訳等六十余名の拝謁をお受けになる。両度の御訪問の節の随員宇佐美毅より挨拶をお受けになる。ついで正殿梅の間

において、記録映画「天皇皇后両陛下ヨーロッパご訪問の旅」毎日映画社製作を一同と共に御覧になる。その後、天皇と共に連翠において、お茶の席を設けられ御歓談になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、真崎秀樹英文日記

十月

一日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された林安秀始め三名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のインド国駐劄特命全權大使原栄吉及び同夫人、中華人民共和国駐劄特命全權大使鹿取泰衛及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

九日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る十七日より二十八日まで英国を訪問する故雍仁親王妃勢津子の首席随員吉川重国の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、雍仁親王妃勢津子殿下英国及びスイス御訪問関係記録、雍仁親王妃勢津子殿下英国御訪問、宮内庁庁報、入江相政日記

十二日 月曜日 天皇と共に地方事情を御視察のため、滋賀県及び京都府に行啓される。午前九時三十分御出門になり、東京駅より京都駅を経て、大津市の滋賀県庁に御到着になる。御休所^{知事室}において、滋賀県知事武村正義等の拝謁をお受けになり、同知事より県勢の概要をお聞きになる。午後二時一分御泊所琵琶湖ホテルに御到着になる。それより同ホテル新館の物産展示会場の間^{瑞璃}において、天皇と

昭和五十六年十月

共に滋賀県の物産等の展示を、また一階ギャラリーにおいて、杉浦重剛^{大正三年東宮御学問所御用掛を仰せ付けられ、同七年良子女王の修身科を囑託される}の遺墨などを展示した「杉浦重剛展」を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供

奉日誌、幸啓録、発表綴、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、滋賀県庁所蔵資料、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、行幸啓誌、琵琶湖ホテル五〇年のあゆみ、湖国と文化

十三日 火曜日 天皇の御視察に同行されず御静養になる。午前は御泊所琵琶湖ホテルにおいて湖のスケッチをされる。午前の御視察を終えて一旦御泊所にお戻りの天皇と御昼餐を共にされ、午後は天皇が御臨場になる第三十六回国民体育大会秋季大会開会式のテレビ中継放送を御覧になる。○女官日誌、

侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、発表綴、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、琵琶湖ホテル五〇年のあゆみ

十四日 水曜日 この日も天皇の御視察に同行されず御静養になる。御朝餐後、御泊所琵琶湖ホテルの物産陳列室にお出ましになり、信楽焼の狸を御写生になる。午後一時、お一方にて琵琶湖ホテルを御出発になり、同二十八分御泊所ホテルレークビワに御到着になる。夕刻、天皇が御泊所に御到着の際、御座所のある十三階にてお出迎えになる。なお、滋賀県行啓に寄せて、この年、次の歌をお詠みになる。

秋の日は比叡のかなたへ落ちゆきて琵琶湖大橋に灯のともる見ゆ

○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、発表綴、地方行幸啓、年末年始行事、宮内庁庁報、官報、ホテルレークビワ所蔵資料、卜部亮吾侍従日記、行幸啓誌

この日、来る十六日より十九日まで福岡県福岡市玉屋デパートにおいて開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○贈賜録、

発表綴

十五日 木曜日 天皇と共に、午前九時十九分御泊所ホテルレークビワを御出発になり、この日の御泊所である京都大宮御所に向かわれる。途中、車中から久邇宮邸跡地を御覧になる。京都大宮御所に御着の後、御車寄内において旧華族及び門跡寺院・尼門跡寺院・御由緒神社の関係者に、二回に分けて御会釈を賜う。続いて同所において元奉仕者に二回に分けて御会釈を賜う。終わって謁見室において東伏見慈治^{御弟}・同夫人保子、九条成子、渋谷有教・同夫人笑子の拝謁をお受けになる。

午後、京都御所内の新御車寄において、近畿在住の行幸啓関係尽力者等を招かれ、天皇・皇后御主催の茶会が行われる。皇后は御静養のため御臨席にならず、天皇お一方にてお出ましになる。天皇が京都大宮御所にお戻りになった後、御一緒に仙洞御所を御散策になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、京都茶会、発表綴、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、滋賀県庁所蔵資料、ホテルレークビワ所蔵資料、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、行幸啓誌、濟寧

タイ国王女チュラポーン婚約につき、天皇・皇后より同国王王ラーマ九世^{プミポン・アドゥンヤデート}・王妃シリキツトへ祝電をお送りになる。これに対し二十七日、チュラポーン及び婚約者より天皇・皇后へ礼電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十六日 金曜日 天皇と共に、午前十時二十分御泊所大宮御所を御出発になり、桃山陵墓地に向かわれる。天皇の御拝礼後、御休所前においてお一方にて明治天皇陵及び昭憲皇太后陵を御遙拝になる。ついで京都駅より東京駅を経て、午後三時五十七分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、臨時祭祀録、発表綴、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日

昭和五十六年十月

誌

来る二十五日、ソロモン国ガダルカナル島ホニアラ市郊外において、財団法人南太平洋戦没者慰霊協会の主催により南太平洋戦没者慰霊塔の除幕並びに追悼式が行われるにつき、天皇・皇后が同協会に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌
二十日 火曜日 午前、吹上御所において、この日誕生日を迎えた皇太子妃と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 夕刻、御風気味のため吹上御所にて御静養になる。○女官日誌

二十五日 日曜日 この日夕刻、タイ国王妃シリキットが米国訪問の途次に新東京国際空港にお立ち寄りになるにつき、天皇・皇后が御使として式部副長山下和夫を同空港に差し遣わされ、同国王女チュラポーンの婚約に対する祝意を伝達させられる。その際、皇后から王妃に菊の花束を贈られ、王妃からは皇后にランの花束が贈られる。○外交雑録、外交贈答録、贈賜録

二十六日 月曜日 午前、正殿梅の間において、新任のセネガル国特命全権大使ケバ・ビラン・シセ及び同夫人、チュニジア国特命全権大使モンセフ・ジャファー及び同夫人を順次御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のガーナ国特命全権大使アルフレッド・ゲイジー及び同夫人、カナダ国特命全権大使バリー・コネル・ステイアース及び同夫人を順次御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌

三十日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、去る二十八日英国から帰国した故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、雍仁親王妃勢津子殿下英国及びスイス御訪問関係記録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌

十一月

二日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のベトナム国駐劄特命全權大使矢田部厚彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 火曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校表彰会^{朝日新聞社社長}で表彰された健康優良学校代表等五十名の拝謁をお受けになる。同表彰会会長渡辺誠毅^{朝日新聞社社長}より挨拶をお受けになる。なお、皇后が健康優良学校代表等の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

五日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、故雍仁親王妃勢津子の英国訪問における首席随員吉川重国の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、雍仁親王妃勢津子殿下英国御訪問正午過ぎ、天皇が正殿竹の間において、公賓タイ国首相プレム・テインスラノンを御引見になる。この来訪に際し、同首相より天皇・皇后に貝の標本、古代の海草の化石が献上される。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

昭和五十六年十一月

六日 金曜日 英国訪問より帰国の皇太子・同妃、同じく英国訪問より帰国の故雍仁親王妃勢津子、米国訪問より帰国の正仁親王・同妃華子をお招きになり、天皇と共に吹上御所において、御晩餐を催される。徳仁親王、寛仁親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子も出席する。○女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録

十日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のホンジュラス国特命全權大使アルフレード・リヴェラを御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十三日 金曜日 去る九日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロットにより、第一王女アストリッドの婚約を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。これに対しこの日、天皇・皇后が大公・同妃に祝電をお送りになる。また、翌五十七年二月六日には同王女結婚につき、天皇・皇后が大公・同妃に祝電をお送りになる。これに対し同月十一日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、

官報

十六日 月曜日 寛仁親王妃信子この日着帯につき、天皇・皇后より寛仁親王・同妃へ万那料を御贈進になる。○贈賜録、彬子女王殿下御誕生記録

十八日 水曜日 去る十二日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロットより、大公の孫ギョーム^{皇太子アンリの王子}の誕生を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。これに対しこの日、天

皇・皇后が大公に祝電をお送りになる。○外交慶弔録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、ブラジル国より帰国の東作興・同夫人優子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

ベルギー国王王妃ファビオラの実母去る十六日死去につき、天皇・皇后から弔意を同国王・王妃に伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にその旨が通知される。これに対し翌月、同国王・王妃より天皇・皇后に謝辞が伝えられる。○外交慶弔録

二十五日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のカナダ国駐箚特命全権大使御巫清尚及び同夫人、ギリシャ国駐箚特命全権大使吉田長雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、文部大臣から表彰された昭和五十六年度教育者表彰被表彰者等の拝謁をお受けになる。同代表の荒川潤東京都立両国高等学校校長より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。なお、皇后が教育者表彰被表彰者等の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

侍従山本岩雄侍従職事務主管 昨二十四日死去につき、天皇・皇后が霊前に果物を賜う。翌二十六日には、天皇・皇后の御使として侍従小林忍を山本邸に差し遣わされ、祭料を賜う。二十八日の葬儀に際しては、

天皇・皇后が霊前に菓子・切り花を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報、官報、ト部亮吾侍従日記

二十六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のコートジボワール国駐箚特命全権大使杉谷好一及び同夫人、リベリア国駐箚特命全権大使室野邦彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午前、正殿梅の間において、新任のカタール国特命全権大使ムハンマド・アリ・アル・アンサーリ及

昭和五十六年十一月

び同夫人、ベルギー国特命全権大使ジャン・ヴェルヴィルゲン及び同夫人を順次御引見になる。○女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 午前、宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員総合文化祭の美術展を御覧になる。同展には日本画の御作品「伊豆の海」「さかりに咲く」を御出品になる。○侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、発表綴、文化祭目録

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

今般落成した葉山御用邸に行啓のため、天皇と共に、午後二時十五分御出門になり、三時四十三分同邸に御到着になる。天皇と共に玄関内ホールにおいて、この度の工事を請け負った株式会社大林組取締役社長大林芳郎・同常務取締役岡田幾太郎・同工事事務所長中山滋雄に御会釈を賜う。ついで新造の邸内各室を御巡覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、

行幸啓綴、宮内庁庁報、葉山物語、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

御夕餐後、天皇と共に二階の御展望室及びバルコニーにおいて、葉山町民による提灯行列に提灯を振ってお応えになる。また満艦飾にて海上を回航する漁船三隻を御覧になる。その後、同所において、葉山町が催す海上での新葉山御用邸落成祝賀の花火大会を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、

幸啓録、葉山行幸啓録、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

二十九日 日曜日 午前、天皇と共に御展望室及びバルコニーにおいて、新築後の葉山御用邸における初めての写真撮影をお受けになる。ついで御用邸前庭において同様に写真撮影をお受けになる。○

女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、葉山行幸啓録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

午後、天皇と共に、葉山御用邸再建後の周辺の状況を御覧になるため、下山川・南邸お庭等を散策される。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

三十日 月曜日 天皇と共に、午後一時四十七分葉山御用邸を御出門になり、三時十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、入江相政日記、齋藤誠治業務日誌

十二月

一日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、本日付で退職する侍医富家崇雄の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、翌五十七年一月十五日の光仁天皇千二百年式年祭に先立ち、東京大学教授土田直鎮より光仁天皇の御事蹟に関する進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌

午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、糸竹会会長三条実春の御先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会では、黄鐘調音取、鳥急、拾翠楽、越殿楽^{残楽、三返}、千秋楽、貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。演奏終了後、御休

所協廊下において、糸竹会会員十六名及び首席楽長東儀信太郎^{糸竹会講師}・楽長上近正^{同上}の拝謁をお受けになる。その後、糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官日誌、内

舎人日誌、吹上御所殿部日誌、糸竹会

昭和五十六年十二月

三日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のメキシコ国駐筭特命全權大使菊地清明及び同夫人、ペルー国駐筭特命全權大使野田英二郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 金曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、常陸宮家経済顧問中谷一雄・久邇家経済顧問密田博孝・同栄木忠常・池田家経済顧問野津克己・島津家経済顧問小笠原光雄・鷹司家経済顧問三谷信・前鷹司家経済顧問舟山正吉の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

七日 月曜日 久邇朝融^{御兄}の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る一日に退職した元侍医富家崇雄及び女官長、上直の侍従・侍医・女官二名と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

八日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、京都在住堂上会総代大宮司季の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、入江相政日記

十日 木曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十六分須崎御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

この日、向陽会に歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録

十二日 土曜日 午前、天皇と共にミカン園・移植地・お成道を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、

須崎御用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌

十四日 月曜日 去る八日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより、第二王女マルガレータの婚約を報じる親電が天皇・皇后に寄せられる。これに対しこの日、天皇・皇后が大公に祝電をお送りになる。また翌年三月二十日には同王女結婚につき、天皇・皇后が大公・同妃に祝電をお送りになる。これに対し同月二十六日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十七日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌

十八日 金曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。○社会事業、発表綴、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十日 日曜日 寛仁親王妃信子第一王女出産につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそれぞれ三種交魚代料を、また寛仁親王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した王女は、二十六日に彬子と命名される。命名の儀当日に、天皇・皇后より寛仁親王・同妃に鮮鯛代料を、また彬子女王に鮮鯛代料を御贈進になる。○侍従日誌、贈賜録、彬子女王殿下御誕生記録、宮内庁庁報、官報

二十三日 水曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元女官等の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、宮内庁庁報

昭和五十六年十二月

二十四日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任の中央アフリカ国特命全権大使ジョゼ・マリア・ペウア及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

二十五日 金曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舎人日誌、

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

管理部技術補佐員秋元末吉昨二十四日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。秋元は長年にわたり天皇の那須御用邸御滞在中における植物採集の案内役を務めた。○贈賜録、宮内庁庁報、那須の植物誌、那須の植物誌続編

二十六日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日古希の誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。また天皇・皇后が同妃にお品料・鮮鯛代料・洋服地^{紅葉山御養蚕所製}等を賜う。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官等より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、さらに文仁親王・清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典

式録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

昭和五十七年（西曆一九八二年）

七十九歳

一月

一日 金曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・容子内親王・憲仁親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等、各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、東宮録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌、サンケイ、毎日新聞

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰のために日曜日に一時間程度天皇と共に御散策になっていること、吹上御所内では平常どおり生活されているが、絵を描く頻度は減っていることなどが発表される。○年末年始行事、サンケイ、読売新聞

二日 土曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後四回の計七回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報、官報、ト部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

昭和五十七年一月

三日 日曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日喜寿の誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、お品料等を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 木曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。その後、皇后お一方にて、花の間において御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

タイ国王女チュラポーンこの日結婚につき、天皇・皇后が同国王ラーマ九世^{プミポン・アドゥンヤデート}及び同妃

シリキットに祝電をお送りになる。これに対し二月一日、答電がある。なお、十二日には天皇・皇后よりお祝いとして同王女に七宝宝石箱^{クリム}_{地牡丹文}を御贈進になり、また、タイ国駐劄特命全権大使小木曾

本雄を通じて王女に祝意を伝達される。○外交慶弔録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

八日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

九日 土曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第二十五回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}入賞

者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。読売新聞社代表取締役社長小林与三次より挨拶をお受

けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。なお、皇后が日本学生科学賞入賞者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになるのは、この年が最後となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、読売新聞

十二日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍医加藤健三の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十三日 水曜日 午前、歌会始の儀にお出ましにならず、吹上御所においてそのテレビ中継放送を御覧になる。この年のお題は「橋」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

鴨川のほとりにいでながめやる荒神橋はなつかしきかも

○女官日誌、儀式録、年末年始行事、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

十五日 金曜日 午前、光仁天皇千二百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十八日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、御夕餐を御会食にする。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

昭和五十七年一月

日誌

十九日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のノルウェー国特命全権大使ホーコン・ヴェクセルセン・フレイホーヴ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のユーゴスラビア国駐箚特命全権大使天羽民雄及び同夫人、ラオス国駐箚特命全権大使小高文直及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

二十二日 金曜日 午前、正殿梅の間において、新任の初代赤道ギニア国特命全権大使サルバドル・エラ・ンゼング・アベグエを御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフランス国駐箚特命全権大使内田宏及び同夫人、ルーマニア国駐箚特命全権大使長谷川孝昭及び同夫人の拝謁をお受けになる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、東宮大夫安嶋弥始め二名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の英国駐箚特命全権大使平原毅及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、

入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

二十八日 木曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、富田メモ

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に植栽地前・車庫前等を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、斎藤誠治業務日誌

二月

一日 月曜日 東久邇盛厚の祥月命日につき、終日御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、典式録

十日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十六分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のアイランド国駐筭特命全權大使武田実及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

昭和五十七年二月

天皇と共に鳳凰の間において、来る二十二日より三月三日までスキー大会に参加するためフィンランド国へ旅行する寛仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁序報

二十一日 日曜日 仁孝天皇例祭につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

二十二日 月曜日 来る三月三日彬子女王初節句につき、天皇・皇后より寛仁親王・同妃信子に三種交魚代料を、また彬子女王に三種交魚代料及び御台人形代料を御贈進になる。○贈賜録

二十三日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁序報

二十五日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二十七日より三月五日まで日米癌セミナーに出席するため米国ハワイ州へ旅行する正仁親王・同妃華子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁序報

午後、花の間において、寛仁親王妃信子と御対面になり、彬子女王誕生につきお礼言上をお受けになる。その際、同妃に白縮緬及び万那料を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、彬子女王殿下御誕生記録

二十六日 金曜日 午前、正殿梅の間において、新任のビルマ国特命全権大使チャー・マウン及び同夫人、メキシコ国特命全権大使ブラシド・ガルシア・レイノソ及び同夫人を順次御引見になる。また午後、同所において、ペルー国特命全権大使マヌエル・アウグスト・ロカ・セラ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報、斎藤誠治業務日誌

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光

寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

三月

一日 月曜日 来る六日に満七十九歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもつて日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千二百九十一本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

二日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の経済協力開発機構^{C O D E}日本政府代表部特命全権大使手島冷志及び同夫人、サウジアラビア国駐劔特命全権大使武藤利昭及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 水曜日 午後、花の間において、日本赤十字社社長林敬三の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

六日 土曜日 満七十九歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、参与宇佐美毅・森永貞一郎、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元侍従長始め元側近奉仕者、元皇后宮女官等の祝賀を、宮殿御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、御車寄内において元女嬬等の祝賀を、花の間において御学友・御同級生七名、東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。正午、正殿梅の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参

昭和五十七年三月

議院議長・最高裁判所長官等及び以上の者の配偶者の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に吹上御所において、文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王・憲仁親王、鷹司和子と御晩餐を御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、富田メモ

御晩餐に先立ち、天皇と共に吹上御所において、昨五日米国ハワイ州訪問を終え帰国した正仁親王・同妃より、帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、重要雑録、宮内庁庁報

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰は痛みがなく落ち着いた状態であり、それ以外はすこぶる御健康であること、腰にはコルセットをいつも着用されていること、御散策は杖をお持ちになって一時間程度されることなどが発表される。○内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

八日 月曜日 祐子内親王の祥月命日につき、午前、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌

十八日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日学習院初等科を卒業した清子内親王と御対面になる。なお、天皇・皇后より同内親王に万那料及びお品料を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録

十九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のソビエト連邦駐劄特命全権大使

高島益郎、ドイツ連邦共和国駐劄特命全權大使宮崎弘道及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、マレーシア国特命全權大使ダトウ・ジャマルディン・ビン・ハジ・アブ・バカル夫人より、前日に行われた天皇御主催の宮中午餐への招待のお礼として、皇后にランの花束が贈られる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日学習院大学を卒業した徳仁親王と御対面になる。また、天皇・皇后より同親王に万那料及びお品料を、皇太子・同妃に五種交魚代料を御贈進になる。なお、同親王は来る四月八日より皇族で初めて大学院に進学する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二十一日 日曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のパナマ国駐劄特命全權大使茂木良三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

正殿梅の間において、新任の中華人民共和国特命全權大使宋之光及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓され

昭和五十七年四月

る。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

二十六日 金曜日 午後、天皇と共にミカン園・移植地等を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、二十九日・三十日にも天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、斎藤誠治業務日誌

三十一日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

四月

一日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍従森猛始め十三名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報、官報

二日 金曜日 この日、財団法人結核予防会総裁及び社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁又は会長から表彰された者に対し、御紋付紙巻たばこ・菊焼残月を賜う。なおこれより先、両会の表彰者による皇后への拝謁がこの年以後お取りやめとなり、賜品のみ従前どおり行われることが決定される。○

恩賜録

桃華樂堂においてこの日行われた昭和五十六年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十二名に、御紋付銀製スプーンを賜う。○恩賜録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

三日 土曜日 午前、神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭
録、祭典録、宮内庁庁報

四日 日曜日 来る十二日にバザーを開催する常磐会に切り花を賜う。○贈賜録

八日 木曜日 来る十日北海道夕張市清水沢体育館において北炭夕張炭鉱株式会社殉職者昨五十六年十月十
六日に発生した同合同葬が執行されるに当たり、天皇・皇后が通商産業省を通じ生花を賜う。○災害お見舞い

社夕張新炭鉱
事故の犠牲者 十日 土曜日 清子内親王が学習院中等科へ進学するに当たり、天皇・皇后より同内親王に万那料及

びお品料を、皇太子・同妃に五種交魚代料を御贈進になる。○贈賜録、宮内庁庁報

十三日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のソビエト連邦特命全権大使ウラジミール・ヤコ
ヴレエヴィチ・パブロフ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、捧呈式録、

謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 木曜日 午前、天皇が国賓フランス国大統領フランソワ・ミッテラン及び同夫人ダニエルと
御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后に国家功績勲章大十字型章が贈られる。天皇は大正六年に
同国名誉勲章レジ

オン・ドヌール大綬章をお受けになつ
ているため今回勲章の御贈進はない この来訪に際し、天皇・皇后より大統領夫妻に御贈進の品があり、皇后よ

り大統領夫人に洋服生地紅葉山御養蚕所
産繭により織立を御贈進になる。また大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、

皇后にはレース製ハンカチの入ったガラスの置物が贈られる。なお、昨十四日に大統領夫妻が入京し
た際に、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内
録、フランス国大統領閣下同夫人接待書類、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、朝日新聞、東京新聞、毎日新聞、読

昭和五十七年四月

売新聞

十八日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のヨルダン国駐箚特命全権大使橋敬一及び同夫人、エチオピア国駐箚特命全権大使榎本助太郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

元宮内庁次長瓜生順良去る十七日死去につき、天皇・皇后が御使として侍従森猛を葬儀が行われる千日谷会堂に差し遣わされ、祭葬料を賜う。また、菓子及び切り花を賜う。瓜生は昭和二十八年に宮内庁次長となり、四十九年まで同職を務めた。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、官報

二十日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日初参内の彬子女王及び寛仁親王妃信子と御対面になる。初参内に際し、天皇・皇后より寛仁親王・同妃に三種交魚代料を、彬子女王に万那料・和服地^友を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十二日 木曜日 非公式で来日中のトンガ国王妃ハラエバル・マタアホに花束を御贈進になる。○外交贈答録

二十三日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のコスタリカ国駐箚特命全権大使橋爪三男及び同夫人、エジプト国駐箚特命全権大使中江要介及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

正殿梅の間において、新任のチリ国特命全権大使エドゥアルド・ブラーボ・ウッドハウス及び同夫人

を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 土曜日 この日、天皇が公賓米国副大統領ジョージ・ハーバート・ウオーカー・ブッシュ及び同夫人バーバラを御引見になる。この来訪に際し、副大統領夫人より皇后に陶製モッキンバードが献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午前、正殿梅の間において、新任の初代ジンバブエ国特命全権大使ハーバート・ニヤマヤロ・カテツザ及び同夫人を御引見になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に花の間前廊下において女婦・雑仕の祝賀を、鳳凰の間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。さらに、皇后お一方にて再び花の間において、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

天皇誕生日一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃とお祝いの御夕餐を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品を贈られる。○女官日誌

昭和五十七年五月

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五月

一日 土曜日 この日より十月三十一日まで第二十七回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報

元女官小川梅子死去につき、天皇・皇后が祭装料を賜い、また、霊前に菓子及び切り花を賜う。同人は昭和二十六年に女官に任命され、同四十二年から四十四年にかけて女官長事務代理を務めるなど、約二十年にわたり側近に奉仕した。○贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

四日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のインドネシア国駐箚特命全権大使山崎敏夫及び同夫人、ウルグアイ国駐箚特命全権大使平野文夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

六日 木曜日 天皇と共に、午前十時三十分御出門になり、十一時五十一分葉山御用邸に行啓される。

御着後、天皇と共に御車寄前において、葉山町住民十数名で構成された葉山太鼓保存会による太鼓演奏「海」をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、行

幸啓綴、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

七日 金曜日 天皇と共に、午前九時四十六分葉山御用邸を御出門になり、神奈川県立観音崎公園内にある観音崎ビーチホテルに向かわれる。御着後、御休所^{一〇一}の室外から東京湾・房総半島方面を御展望になる。ついで園内の案内板前において、神奈川県横須賀土木事務所長芳尾常善より公園の概要

についての説明をお聞きになる。続いて園内の植物を御観察になる。終わって、園内の丘の上にある戦没船員の碑戦没船員約六万人の慰霊のため、昭和四十六年三月完成に向かわれ、同碑に黙禱される。なお、同碑お立ち寄りにつき、天

皇・皇后が財団法人日本殉職船員顕彰会に生花を賜う。ついで園内の東京湾海上交通センター東京湾内の大型船舶交通をレーダーでコントロールする施設

を御訪問になり、御休所所長室において、第三管区海上保安本部長植村香苗より同施設についての説明をお聞きになる。終わって午後零時二十六分御帰邸になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉

日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、恩賜録、行幸啓綴、神奈川県立観音崎公園所蔵資料、斎藤誠治業務日誌

八日 土曜日 天皇と共に、午前十時三十分葉山御用邸を御出門になり、十一時五十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、葉山行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記、

斎藤誠治業務日誌

十日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、発表綴

十五日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。御養蚕所主任神戸礼二郎より蚕の生育状況についてお聞きになり、御給桑になる。その後天蚕・柞蚕を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

人日誌

十七日 月曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

島津季子 御叔父島津忠弘夫人、東宮女官長松村淑子母 去る十五日死去につき、天皇・皇后が霊前に菓子を賜う。○侍従職日誌、恩賜録、

昭和五十七年五月

贈賜録

十九日 水曜日 この日、翌二十日より二十五日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十日、二十四日にも御出品になる。○吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、贈賜録

二十一日 金曜日 栃木県において開催の第三十三回全国植樹祭に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時四十六分御出門になり、原宿駅より日光駅を経て、日光市の御泊所日光金谷ホテルに御到着になる。同所において御昼餐の後、栃木県知事船田譲より県勢の概要についてお聞きになる。終わって旧日光田母沢御用邸^{日光博物館}を御訪問になり、屋内及び庭園を御視察になる。それより日光二荒山神社に向かわれ、銅灯籠・大国殿等を御覧になる。次に日光山輪王寺に移られ、三仏堂を御覧になる。ついで日光東照宮に御着になり、陽明門・眠り猫の彫刻などを御巡覧になる。終わって社務所二階御休所において、お一方にて社務所北神苑の植生地に向かわれた天皇をお待ちになる。天皇が日光東照宮に戻られた後、午後五時十五分天皇と共に御泊所日光金谷ホテルに御到着になる。なお、皇后は侍従を通じて、旧日光田母沢御用邸について、利用されていた当時が懐かしいとの感想を述べられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、下野新聞、栃木新聞

二十二日 土曜日 午前、日光霧降高原に向かわれる天皇をお見送りの後、御泊所日光金谷ホテルにてお過ごしになる。御泊所に戻られた天皇と共に御昼餐の後、天皇と共に御出発になり、全国植樹祭のお手播き会場である宇都宮市の栃木県林業センターに向かわれる。御着後、お手播き床に進まれ、

林業後継者地元婦人代表柴田マサ子・みどりの少年団代表清水宏美の介添えにてトチ・ヒノキの種子をお手播きになる。天皇はトチ・スギの種子をお手播きになる。ついで高齢者・みどりの少年団による記念播種の模様を御覧になる。続いて展示館において、益子焼・結城紬・日光彫などの展示品を御覧になる。終わって午後三時二十四分御泊所宇都宮グランドホテルに御到着になる。御少憩の後、天皇と共にホテルの庭園を御散策になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、

官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、下野新聞、栃木新聞、毎日新聞

二十三日 日曜日 午前九時四十四分天皇と共に御泊所宇都宮グランドホテルを御出発、宇都宮駅より矢板駅を経て、第三十三回全国植樹祭の会場である矢板市の県民の森に向かわれる。御着後、お野立所のお席に臨まれ、国土緑化功労者への表彰等を御覧になる。続いてお手植え地に移られ、農林水産大臣賞受賞者山県睦・栃木県林業振興協会婦人代表加藤竹子・林業後継者代表阿久津洋子・緑の少年団代表阿久津香の介添えにて、トチノキの苗一本、ヒノキの苗二本をお手植えになる。天皇はトチノキの苗一本、スギの苗二本をお手植えになる。植樹祭参加者による植樹の模様を御覧になった後、天皇は栃木県知事船田譲の介添えにて、皇后は同県議会議長平山正二の介添えにて、お野立所の前に設けられた放鳥箱の紐をお引きになり、ヤマドリ約二百羽を放たれる。終わって県民の森総合管理センターに向かわれる。御休所にて御昼餐の後、皇后は昨二十二日から訴えられた膝の痛みのため、御視察をお取りやめになり、お一方にて宮川溪谷やセンター内の視察に向かわれた天皇をお待ちになる。その後、お戻りになった天皇と共に矢板公民館に向かわれ、同所において御少憩の後、午後三時五十分那須御用邸に御到着になる。夕刻、侍従より皇后の膝の痛みについて、昨日から痛みを訴えられ

昭和五十七年五月

ていたことなどが発表される。なお、皇后の全国植樹祭への御臨場は、この年が最後となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、地方行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、下野新聞、栃木新聞、読売新聞

二十六日 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和五十七年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日ここに、昭和五十七年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。赤十字は、国際的な強いきずなのもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となっておりですが、日本赤十字社が国際赤十字の一員として、立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の役割は、これからますます大きくなっていくものと思いますので、皆さんが互いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

○幸啓録、重要雑録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、赤十字新聞

二十七日 木曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、十一時四十七分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

二十八日 金曜日 来る三十一日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

六月

一日 火曜日 足の痛みのため、紅葉山御養蚕所へのお出ましをお取りやめになる。同所へのお出ましは翌二日に延期となったが、足の痛みのため再びお取りやめになる。○侍従職日誌、斎藤誠治業務日誌

七日 月曜日 この日宮内庁より、去る五日からの御風気が快方に向かわれているものの、御用心のためお休みになっていること、来る九日に開催される菊栄親睦会を御欠席になることが発表される。

○発表綴、卜部亮吾侍従日記

宮内庁楽部において開催される糸竹会例会へのお出ましをお取りやめになる。なお、糸竹会会員に菓子を賜う。○贈賜録、糸竹会

十四日 月曜日 紅葉山御養蚕所へのお出ましをお取りやめになる。○侍従職日誌

スウェーデン国王妃シルヴィア去る十日第二王女出産につき、十一日、同国王カール十六世グスタフより天皇に親電が寄せられ、この日、天皇・皇后が同国王に祝電をお送りになる。これに対し翌十五日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

この日、タイ国特命全権大使ウィチアン・ワタナクンより、天皇・皇后にドリアンが献上される。○

外交贈答録

十六日 水曜日 午前十時二分天皇と共に御出門になり、多摩陵^{大正天皇}並びに多摩東陵^{貞明皇后}に行啓される。

御着後、天皇に続いて多摩陵を御拝礼になり、ついで多摩東陵を御拝礼になる。なお、皇后の腰の具合を考慮し、この度より天皇・皇后共に両陵大階段の下に設置された御拝舎において御拝礼になる。御休所において御昼餐の後、午後二時七分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸

昭和五十七年七月

啓録、行幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

十七日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使ジェームス・マツク・ドナルド・ワーモンド及び同夫人、ウルグアイ国特命全権大使フリオ・ラカルテ・ムロ及び同夫人を順次御引見になる。なお、新任外国大使の皇后御引見は、これが最後となる。これ以降当分の間、大使の御引見はお取りやめとされ、宮殿での記帳をもって代替することとなるが、昭和六十一年一月に至り、その旨が宮内庁の内規において定められる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、捧呈式録、謁見録、皇族関係録、外交雑録、例規録、宮殿行事録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

二十二日 火曜日 英国皇太子チャールズの第一王子誕生につき、天皇・皇后が同国女王エリザベス二世に祝電をお送りになる。これに対し七月二十一日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報、ト部亮吾侍従日記

二十三日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の様子を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十六日 土曜日 去る二十一日より済生会中央病院に入院中の宣仁親王妃喜久子に、果物を賜う。○侍従職日誌、贈賜録、発表綴、宣仁親王略御年譜

七月

六日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。その後天皇と共に宮殿御車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賜与録、發表綴

七日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のレバノン国駐箚特命全權大使沢井昭之及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、入江

相政日記

八日 木曜日 午後、桃華樂堂にお出ましになり、樂部職員の洋樂演奏会に御臨席になる。演奏会には、皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子、及び鷹司和子始め元皇族・御縁故者五名が出席する。宮内庁樂部に御着後、皇太子妃・正仁親王妃・故雍仁親王妃と御対面になり、ついでホールに進まれる。演奏会では、ブルッフ作曲ヴァイオリン協奏曲第一番、モーツァルト作曲歌劇「後宮からの誘拐」序曲などをお聴きになる。演奏終了後、指揮者甲斐正雄・首席樂長東儀信太郎・樂長上近正等の拝謁をお受けになり樂部玄關を御発、吹上御所に還御される。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、發表綴、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十四日 水曜日 天皇と共に、午前九時三十九分御出門になり、午後零時十四分那須御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十五日 木曜日 午前、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在、中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

二十三日 金曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従

昭和五十七年八月

職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、典式録、那須御用邸管理事務所日誌

二十六日 月曜日 去る二十三日から二十四日にかけての豪雨により甚大な被害を受けた長崎県及び熊本県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

三十日 金曜日 明治天皇例祭につき、終日御用邸にて静かに過ごされる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

八月

三日 火曜日 午前、天皇と共に謁見所前のベランダ^{雨天のため囀鳴亭から変更}にお出ましになり、栃木県知事船田譲

等の介添えにてヤマドリとキジを雌雄一羽ずつ放たれる。なお、これと同時に、囀鳴亭では栃木県職員によりヤマドリ三十羽・キジ二十羽の放鳥が行われる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

五日 木曜日 この度の台風十号並びに引き続いての大雨のため甚大な被害を受けた大阪府・奈良県・三重県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

六日 金曜日 広島原爆の日につき、午前中、御用邸にて静かに過ごされる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

九日 月曜日 長崎原爆の日につき、終日、御用邸にて静かに過ごされる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十一日 水曜日 北白川房子の祥月命日につき、御用邸にて静かに過ごされる。○女官日誌、侍従日誌

誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、斎藤誠治業務日誌

十五日 日曜日 この日全国戦没者追悼式が行われるに当たり、去る十三日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午後、天皇が謁見所において公賓国際連合事務総長ハビエル・ペレス・デ・クエヤルを御引見になる。この来訪に際し、事務総長より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には英国製陶器飾鉢が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

九月

一日 水曜日 関東大震災の日に当たり、終日、御用邸にて静かに過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

七日 火曜日 午前、天皇が嚶鳴亭において宮内記者会会員二十二名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、天皇・皇后の御健康状態などについての質問をお受けになる。皇后の御健康状態に関しては、腰の痛みも平常のように戻っている旨をお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、天皇記者会見、入江相政日記、昭和天皇と私達

八日 水曜日 非公式に来日中のエジプト国家評議会議長モハメッド・アブデル・カードル・ハーテム夫人より、絵画が献上される。○外交贈答録、外務省公表集

昭和五十七年九月

九日 木曜日 久邇^御倪子の祥月命日につき、終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、典式録

十日 金曜日 天皇と共に、午前九時二十四分那須御用邸を御出門になり、午後零時二分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のパキスタン国駐劄特命全権大使梁井新一及び同夫人、シンガポール国駐劄特命全権大使深田宏及び同夫人の拝謁をお受けになる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 山口玉糸去る八日死去につき、霊前に菓子を賜う。山口は日本画家として知られ、

昭和三十一年より四十三年まで、長年皇后の絵画の指導に当たっていた。○贈賜録、没後八〇年跡見玉枝

二十一日 火曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この度退職の宮内庁御用掛須山節子及び同松井以都子の拝謁をお受けになる。ついで皇后が両名を花の間にお召しになり、お茶の席を設けられる。また皇后が両名に絹地^{紅葉山御養蚕所産}等を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、入江

相政日記、斎藤誠治業務日誌

二十三日 木曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日

誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、昭和四十六年の御訪欧及び同五十年の御訪米に同行した元首席随員福田赳夫始め元随員・元随行員の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、入江相政日記、真崎秀樹英文日記

二十八日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る十月三日より十八日までブラジル国を

訪問する徳仁親王の首席随員竹内春海外務省顧問の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記

三十日 木曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和五十七年度国民たすけあい共同募金運動を
実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事業、宮

内庁庁報

十月

一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る三日より十八日まで国際親善のためブラジ
ル国を訪問する徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁
庁報、宮内庁要覧、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

この日、皇后の腰の容態について神社新報社から寄せられた質問に対し、総務課長手島堅次が病名は
「第一腰椎変形」であること、この病気は完全治癒はありえず、病状の悪化を防止するほかないこと、
現在も最善を尽くしており、十分な治療は確実になされていると確信を持っていることなどを回答す
る。○幸啓録、卜部亮吾侍従日記

七日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のトルコ国駐箚特命全權大使杉原真
一及び同夫人、ドイツ民主共和国駐箚特命全權大使村上謙の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、

昭和五十七年十月

昭和五十七年十月

侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

八日 金曜日 この日タイ国皇太子ワチラロンコーンが米国訪問の途次新東京国際空港に立ち寄るに際し、天皇・皇后が御使として式部副長山下和夫を同空港に差し遣わされ、お言葉をお伝えになる。

○外交雑録、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

十七日 日曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において神宮及び賢所を御遙拝になる。○女官日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のイラク国駐筭特命全権大使木村敬三及び同夫人、モンゴル国駐筭特命全権大使小崎昌業及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十九日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二十五日より十一月七日までオーストラリア国及びニュージーランド国を訪問する宜仁親王と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、首席随員齊藤鎮男^{宮内庁御用掛}の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、昨十八日ブラジル国から帰国した徳仁親王と御対面になる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

二十日 水曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子妃と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十二日 金曜日 この日、翌二十三日より二十四日まで福岡県田川市田川文化センターにおいて開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○贈賜録

二十五日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、先般の徳仁親王のブラジル国訪問における首席随員竹内春海の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、入江相政日記

二十六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、松栄会会員二十八名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、入江相政日記

二十八日 木曜日 この日、翌二十九日より十一月三日まで大阪市阪急百貨店において開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○贈賜録

十一月

十日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のニュージーランド国駐筭特命全権大使秋山光路及び同夫人、リビア国駐筭特命全権大使高須日出夫及び同夫人、ガーナ国駐筭特命全権大使中野直樹及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のオーストラリア国特命全権大使

昭和五十七年十一月

柳谷謙介及び同夫人、スーダン国駐筭特命全権大使山野勝由及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記

天皇と共に鳳凰の間において、去る七日にオーストラリア国及びニュージーランド国から帰国した宜仁親王と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記

来る十九日からインド国デリー市などにおいて開催される第九回アジア競技大会に日本代表選手団が参加するにつき、この日、天皇・皇后が御奨励のため財団法人日本体育協会に金一封を賜う。○恩賜録、

宮内庁庁報

十五日 月曜日 私的な御旅行として東京都八丈島及び三宅島を御訪問になるため、午前九時十五分御出門になり、天皇と共に同地へ行啓される。九時五十分、東京国際空港より全日本空輸特別機にて御出発、十時五十五分八丈島空港に御到着になる。それより八丈町にある東京都八丈支庁に向かわれる。御着後、東京都知事鈴木俊一より、八丈島、青ヶ島等の島勢概要についての説明をお聞きになる。

次に八丈島歴史民俗資料館昭和四年当時の八丈支庁の旧八丈支庁復元門前に御着になり、昭和四年の行幸記念碑昭和四年

当時侍従長の鈴木貫太郎筆等を御覧になりつつ館内に進まれ、黄八丈八丈島特産の絹織物の反物等の歴史文化関係の展示品を御覧

になる。正午過ぎ、御泊所の八丈島大洋第一ホテルにおいて御昼餐の後、天皇は島内御視察にお出ましになり、皇后は御泊所展望台において八丈富士等を御覧になりスケッチされる。なお、御視察地のうちの黄八丈染元において、昭和二十七年五月に皇后が下賜された小石丸紅葉山御養蚕所の蚕から黄八丈が二反織

られたこと、そのうちの一反が皇后に献上^{残りの一反は記念品として当地にて保存}されたことを天皇がお聞きになる。この下賜

は、昭和二十五年に貞明皇后が黄八丈をお知りになり、小石丸を下賜されることを望んでおられながら、果たせぬまま崩御されたことを承けたものである。夕刻、お戻りになった天皇と共に御泊所ホールにおいて、東京都無形民俗文化財に指定の郷土芸能榎立踊り及び盆踊歌ショメ節、また八丈太鼓等の実演を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京

都庁所蔵資料、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、天皇陛下・皇后陛下八丈島行幸啓の記録、八丈支庁事業概要、広報はちじょう、昭和、東京七島新聞、南海タイムス、読売新聞

十六日 火曜日 午前九時二十六分御泊所八丈島太平洋第一ホテルを天皇と共に御出発、八丈島神湊港よりお召し船に御乗船になり、三宅島に向かわれる。午後一時三宅島の三池港に御到着になり、三宅山^{昭和三十七年の噴火で造山}展望台に向かわれる。御着後、昭和三十七年のひょうたん山^{昭和十五年の噴火で造山}の噴火の跡を御展望

になる。次に東京都三宅支庁に御着になり、御座所^{出納事務室}において東京都知事鈴木俊一より、三宅島の概要についての説明をお聞きになる。御少憩の後、玄関の御席に着かれ、郷土芸能「伊ヶ谷の獅子舞」

^{東京都無形民俗文化財に指定}を御覧になる。終わって二時二十三分御泊所三宅島観光ホテルに御到着になる。その後、

火の山峠に向かわれる天皇をお見送りになり、夕刻、御泊所にお戻りの天皇をお迎えになる。○女官

日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、天皇陛下・皇后陛下八丈島行幸啓の記録、昭和、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、東京七島新聞、南海タイムス、日本経済新聞、読売新聞

十七日 水曜日 午前中、天皇はお一方にて三宅島島内を御視察になり、皇后は御泊所三宅島観光ホ

昭和五十七年十二月

テルにおいてお過ごしになる。正午過ぎ、お戻りになった天皇と共に同所において御昼餐の後、午後一時五十六分御出発、三宅島空港より全日本空輸特別機に御搭乗になり、東京国際空港に向かわれる。三時三十三分天皇と共に皇居に還啓される。なお、本行啓の感想として、初めて南の島を訪れたことをうれしく思う、島の風景や伝統的郷土芸能を楽しく見ることができたとの感想を侍従を通じて述べられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、東京都庁所蔵資料、東京都三宅支庁所蔵資料、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌、朝日新聞、サンケイ、東京七島新聞、毎日新聞、読売新聞

十九日 金曜日 午後、吹上御所において、この度叙勲を受けた内掌典三上下枝の拝謁をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌、官報

二十日 土曜日 午前、宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧になる。同展には日本画の御作品「秋めく」「葉山初冬」を御出品になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、文化祭目録、重要雑録、発表綴、卜部亮吾侍従日記、サンケイ

二十八日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十二月

二日 木曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、糸竹会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会

では、平調音取、三台塩急、林歌、越殿楽^{殘楽、三返}、老君子、貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。演奏終

了後、御休所前廊下において糸竹会会員十九名及び首席楽長東儀信太郎^{糸竹会講師}・楽長上近正^{同上}の拝謁を

お受けになる。その後、糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、糸竹会

六日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍医伊東貞三及び前任の侍医西川一郎の拝謁をお受けになる。なお、西川はこの度新たに宮内庁御用掛となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、典式録、恩賜録、官報

九日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のブラジル国駐劔特命全権大使伊達邦美及び同夫人、欧州共同体^{C E}日本政府代表部特命全権大使加賀美秀夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

天皇と共に鳳凰の間において、去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、富田メモ

午後、桃華樂堂にお出ましになり、皇宮警察本部音楽隊創設三十周年記念演奏会に御臨席になる。皇太子妃、正仁親王妃華子、故雍仁親王妃勢津子が陪席する。演奏会では、フランク・エリクソン作曲序曲「祝典」始め五曲をお聴きになる。演奏終了後、御休所前廊下において皇宮警察本部長橋本佑三、指揮者の音楽隊楽長原茂基・前楽長佐藤光三・常任講師甲斐正雄の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、發表綴、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、濟寧

天皇と共に吹上御所において、先般退職した元侍医西川一郎及び侍従・侍医・女官長・女官と御夕餐を御会食になる。その際、天皇・皇后が西川にお品を賜う。○女官日誌、侍従日誌、贈賜録、斎藤誠治業務日誌

元宮内府御用掛諸橋轡次書陵部委員、文部省受章者 昨八日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜う。諸橋は昭和十二

年の講書始で漢学を進講した。また二十年から二十三年にかけて皇后宮職御用掛、東宮職御用掛、宮内省御用掛、宮内府御用掛を歴任し、二十四年より書陵部委員を務めた。○恩賜録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、京都、在任堂上会総代西洞院愛信の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、入江相政日記

十五日 水曜日 夕刻、賢所御神楽につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭
祀録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十八日 土曜日 午前、天皇と共にミカン園から展望台への道を散策され、植物を御調査になる。二
十日にも天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓

二十日 月曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、社会事業、宮内庁

庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十二日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓され

る。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

二十三日 木曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元皇子傳育官の祝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、入

江相政日記、斎藤誠治業務日誌

二十五日 土曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の軍縮委員会日本政府代表部特命全権大使今井隆吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、

宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官より歳末の祝詞言上を、ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、さらに文仁親王・清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、富田メモ

昭和五十八年一月

昭和五十八年（西暦一九八三年）

八十歳

一月

一日 土曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・同妃信子・容子内親王・憲仁親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等、各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の状態は大変順調で落ち着いていること、最近では吹上御所において短い時間ではあるが積極的に御散策になつてゐることなどが発表される。

○年末年始行事、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 日曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後四回の計七回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に

御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報、齋藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

三日 月曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

四日 火曜日 雍仁親王三十年式年祭につき、皇后宮使として、侍従齋藤誠治を秩父宮邸における靈舎祭に、侍従森猛を豊島岡墓地における墓所祭に差し遣わされる。また、天皇・皇后が、靈舎に菓子及び榊を、墓所に榊を、写真に切り花及び果物をお供えになり、さらに、お尋ねとして故雍仁親王妃勢津子に菓子を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、贈賜録、發表綴、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌

五日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日行われた雍仁親王三十年式年祭についてのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフィリピン国駐筭特命全權大使大川美雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌

七日 金曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。その後、皇后お一方にて、花の間にお

昭和五十八年一月

いて御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴、東宮録

十四日 金曜日 午前、歌会始の儀にお出ましにならず、吹上御所においてそのテレビ中継放送を御覧になる。この年のお題は「島」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

島人のたつき支へし黄八丈の染めの草木をけふ見つるかな

○女官日誌、儀式録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

二十一日 金曜日 東宮侍従長黒木従達去る十九日死去につき、天皇・皇后が祭染料及び御紋付銀花瓶を賜い、また、霊前に菓子及び切り花を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌、入江相

政日記、卜部亮吾侍従日記

二十二日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十五日 火曜日 正午過ぎ、天皇が公賓マレーシア国首相マハティール・モハマッド及び同夫人シテイ・ハスマーを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同首相より天皇に、同夫人より皇后に献上の品があり、皇后には銀製宝石箱及び帯同国国花ハイビスカス模様が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の国際連合日本政府代表部特命全権大使黒田瑞夫及び同夫人、バチカン国駐筭特命全権大使中村輝彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕食を御会食になる。以後、この年は、月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 木曜日 邦彦王^{御父}の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌

三十日 日曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のマレーシア国駐筭特命全権大使木内昭胤及び同夫人、スリランカ国駐筭特命全権大使大鷹弘及び同夫人、オマーン国駐筭特命全権大使加藤淳平の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁

報、卜部亮吾侍従日記

午後、天皇と共に吹上御所において寛仁親王・同妃信子と御対面になり、昨五十七年十二月の新邸落成^{赤坂御用地内}についてのお礼言上をお受けになる。なお、去る二十八日の仮寓所^{東京都千代田区三番町宮内庁分室}から新邸への移転につき、二月十五日に天皇・皇后がお品を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、寛仁

親王殿邸新築工事式典録、庁規例規朝儀諸綴、官報

昭和五十八年一月

昭和五十八年二月

二月

二日 水曜日 天皇と共に、午前十時三十九分御出門になり、豊島岡墓地に行啓される。去る一月四日に三十年式年祭を終えた雍仁親王墓を御拝礼になった後、同妃勢津子より挨拶をお受けになる。続いて祐子内親王墓を御拝礼になり、ついで東久邇盛厚・同夫人成子の墓を御拝礼になる。雍仁親王墓所には菓子及び野菜を、祐子内親王墓所と東久邇盛厚・同夫人成子の墓所には菓子及び色花を天皇・皇后がお供えになる。御拝礼後、天皇と共に東久邇信彦・同夫人吉子より挨拶をお受けになり、同所を御出発、十一時二十五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、贈賜録、發表綴、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、東京新聞、毎日新聞、読売新聞

午後、勤労奉仕者に御会釈を賜うため宮殿中庭口へ向かわれる途中、豊明殿脇のエスカレーターでお転びになり、天皇お一方にてお出ましになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

三日 木曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十六分須崎御用邸に行啓される。なお、昨二日の転倒により右膝の痛みを訴えられたが、この日午前の拝診を経て、予定どおりに行啓された。御用邸御滞在中は、御散策をなさらず足の手当てをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、發表綴、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、サンケイ

七日 月曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十五日 火曜日 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、富田メモ

二十一日 月曜日 仁孝天皇例祭につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のジュネーブ国際機関日本政府代表部特命全権大使千葉一夫及び同夫人、クウェート国駐箭特命全権大使愛甲次郎及び同夫人、ザイール国駐箭特命全権大使小宅庸夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

二十三日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録

三月

三日 木曜日 来る六日に満八十歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千三百六十八本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

四日 金曜日 来る六日に満八十歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、障害者福祉事業御奨励のため、障害者リハビリテーション振興基金^{昭和五十六年に、満八十歳のお誕生日を迎えられた天皇から厚生大臣に下賜された金員を基に設立}に加えるよう、厚生

昭和五十八年三月

大臣に金一封を賜う。また、赤十字の平時救護事業御奨励のため、昭憲皇太后基金明治四十五年に昭憲皇太后から国際赤十字に下賜された金員を基に設立に加えるよう、日本赤十字社を通じ、昭憲皇太后基金管理合同委員会在スイス国ジュネーブに金一封を賜う。

○恩賜録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

五日 土曜日 東久邇聡子五年式年祭につき、豊島岡墓地における霊舎祭及び墓所祭の御代拝を女官市村菊重に仰せ付けられる。また、天皇・皇后が、霊舎に菓子を、墓所に榊をお供えになり、さらに、お尋ねとして東久邇稔彦聡子の夫君・同信彦聡子の孫に菓子を賜う。夕刻、天皇と共に吹上御所において東久邇信彦・同夫人吉子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

六日 日曜日 満八十歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、参与宇佐美毅・森永貞一郎、続いて皇太子・同妃始め皇族、元皇族・元王族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元側近奉仕者、続いて元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、御車寄内において元女嬬等の祝賀を、花の間において御学友・御同級生二十二名、続いて東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。正午、正殿梅の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。なお、去る三日、宮内庁職員の有志から満八十歳のお誕生日のお祝いとして内藤四郎正倉院懇談会

会員、重要無形
文化財保持者 作の銀筆筒^{桃文様}が献上される。

午後、天皇と共に吹上御所において、文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王・憲仁親王、鷹司和子、池田隆政・同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子と御晚餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、重要雜録、恩賜録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、骨の老化による膝の疾患が時々生じるものの、それ以外は至って御健康であること、絵に関しては腰への配慮から最近は簡単なスケッチ程度にとどまること、昨秋から吹上御所の庭において膝のために毎日約三十分間の御散策を女官・侍医と共に励行されていること、皇太子一家及び正仁親王・同妃華子との御夕食を交えての御団欒を楽しみにされていること、来る十六日に桃華樂堂において楽部による八十賀奉祝演奏会が催されることなどが発表される。○内廷皇族誕生日綴、発表綴、新聞切抜、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る十日より二十五日まで天皇の御名代としてザンビア国・タンザニア国・ケニア国を訪問する皇太子、及び同妃の首席随員須之部量三^{外務省顧問、元外務事務次官}

及び随員九名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

八日 火曜日 祐子内親王の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌

九日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、翌日よりザンビア国・タンザニア国・ケニア国

昭和五十八年三月

を訪問する皇太子・同妃と御対面になる。なお、皇太子天皇の御名代を通じて、天皇・皇后よりザンビア国大統領及び同夫人に飾皿吹墨草花文を、タンザニア国大統領及び同夫人に飾皿色鍋島葵文をそれぞれ御贈進になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交贈答録、恩賜録、東宮録、宮内庁庁報

十六日 水曜日 午後、天皇と共に桃華樂堂にお出ましになり、皇后陛下八十賀奉祝演奏会に御臨席になる。演奏会には、宮内庁職員及び皇宮警察本部職員が招待される。楽部玄関に御着後、式部官長安倍勲の先導により御休所にお入りになり、ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、皇后の昭和三十一年歌会始の御歌に想を得て作られた奉祝曲「早春」、この演奏会のために新たに編曲されたメドレー「日本の歌」などをお聴きになる。演奏終了後、天皇と共に御休所前廊下において、指揮者甲斐正雄楽部技術指導員、武蔵野音楽大学教授・首席楽長上近正・楽長東儀博・楽長補東儀俊美メドレー「日本の歌」編曲者・楽師芝祐靖奉祝曲「早春」作曲者に御会釈を賜う。その後、出演者一同のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

二十一日 月曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十七分須崎御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記

二十六日 土曜日 午後、天皇と共に御車寄から移植地まで散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、二十八日にも天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

二十九日 火曜日 午後、天皇が御車寄内において宮内記者会会員二十二名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、皇后の御健康や、皇后との日常の御会話などについてお話しになる。○侍従日誌、須崎御用邸行幸啓録、天皇記者会見、入江相政日記、昭和天皇最後の侍従日記

三十日 水曜日 天皇と共に、午前十時五十三分須崎御用邸を御出門になり、午後二時二十二分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

午後、天皇と共に鳳凰の間において、去る二十五日にザンビア国・タンザニア国・ケニア国訪問から帰国した皇太子・同妃の首席随員須之部量三及び随員八名の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に雉子の間において、随行員九名の拝謁をお受けになる。吹上御所に還御の後、皇太子・同妃より帰国の挨拶を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

三十一日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、本日付で退職の管理部長小幡祥一郎始め六名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

正午より、天皇がマレーシア国国王アハマッド・シャー及び同王妃ハジャール・アフザンと御会見にな

昭和五十八年四月

り、宮中午餐を催される。この来訪に際し、国王より天皇に、王妃より皇后に御贈進の品があり、皇后には銀製宝石箱^{ケース入り}が贈られる。これに対し後日、天皇・皇后より国王に有田焼花瓶^{緑地金欄手}を、王妃に七宝宝石箱^{クリーム地牡丹文、落とし付き}を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

四月

一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の管理部長福留守・書陵部長宮尾盤始め五名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のスイス国駐箚特命全権大使西田誠哉及び同夫人、ナイジェリア国駐箚特命全権大使宮川涉及同夫人、パプアニューギニア国駐箚特命全権大使谷口誠及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

三日 日曜日 午前、神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

四日 月曜日 桃華樂堂においてこの日行われた昭和五十七年度音楽大学卒業生演奏会の出演者九名に、御紋付銀製スプーンを賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

五日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のオーストリア国駐箚特命全権大使宮沢泰の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

宮内庁御用掛木俣修昨四日死去につき、天皇・皇后が祭染料及び金員・御紋付銀盃を賜い、また、霊

前に切り花及び菓子を賜う。木俣は、昭和三十五年に侍従職御用掛、翌年に宮内庁御用掛となって天皇・皇后の御製・御歌の拝見を仰せ付かり、同四十九年に刊行された天皇・皇后御結婚満五十年記念の御製・御歌集『あけぼの集』の編纂に尽力した。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、あけぼの集、朝日新聞、読売新聞

六日 水曜日 午前、天皇が国賓エジプト国大統領モハメッド・ホスニイ・ムバラク及び同夫人スーザンと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはアル・カマル勲章特等が贈られる。また、天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿^{極彩色四君子に変小紋}を、同夫人に佐賀錦ハンドバッグ^{芙蓉}を御贈進になる。

これに対し、大統領夫妻より天皇・皇后に絹製カーペットの御贈進がある。なお、昨五日に大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

八日 金曜日 この度の皇太子・同妃のザンビア国・タンザニア国・ケニア国訪問^{三月十日よ}からの帰国につき、昨五十七年の徳仁親王のブラジル国訪問^{十月三日よ}からの帰国、及び宜仁親王のオーストラリア

国及びニュージーランド国訪問^{十月二十五日よ}からの帰国の内宴を兼ね、天皇と共に吹上御所において、

皇太子・同妃・徳仁親王・宜仁親王のほか、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御晩餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十日 日曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花^{カーネーション}を賜う。○贈賜録、常磐会創立百年年表

昭和五十八年四月

十一日 月曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、吹上御所にて静かに過ごされる。○女官日誌、侍従日誌

十四日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る十七日より二十九日までノルウェー国及び英国を旅行する寛仁親王と御対面になる。同親王はノルウェー国ベイトストーレンにおいて開催される身体障害者のスキー競技会「国際冬季スポーツ週間」に出席し、併せて英国を旅行する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十七日 日曜日 正午頃、天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、皇太子・同妃主権による皇后陛下八十歳の賀奉祝御内宴に御臨席になる。皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、鷹司和子、池田隆政・同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子、東久邇信彦・同夫人吉子・同子息征彦、同文子、同真彦・同夫人賀鶴子・同子息照彦・同睦彦、東作興・同夫人優子、久邇邦昭^{御兄朝融の子息}・同夫人正子が出席する。花蔭亭に御着後、正仁親王の先導に

より御昼餐のお席に進まれ、皇太子の祝詞をお受けになって御着席になる。ついで宣仁親王による乾杯の発声があり、御会食になる。その後、歌などの余興や記念撮影が行われ、天皇・皇后に花束が贈られる。なお、御内宴の招待者に、天皇・皇后がボンボニエールを賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十八日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、侍従長入江相政始め側近奉仕者による皇后陛下

下八十賀のお祝いの席に臨まれる。余興としてくじ引きを楽しまれた後、側近奉仕者からの献上による鰻の御夕餐を一同と共にされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記

二十六日 火曜日 正午過ぎ、天皇が英国王女アン同国女王エリザベス二世の第一王女及び同夫君マーク・フィリップスと御

会見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、王女及び同夫君より天皇・皇后に、英国王室に
関する書籍の御贈進がある。これに対し、天皇・皇后より王女及び同夫君に有田焼花瓶濁手花鳥文、十三代
酒井田柿右衛門作

を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る五月一日より十一日までデンマーク国・
スウェーデン国を訪問する正仁親王・同妃華子の随員山下和夫式部
副長の拝謁をお受けになる。夕刻、天皇

と共に吹上御所において、正仁親王・同妃より出発の挨拶をお受けになり、引き続き御夕餐を御会食
になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長
始め女官の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁
故者の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に拝謁者控室前において女嬬・雑仕の祝賀を、鳳凰の
間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。さらに、皇后お一方にて再び花の間に
おいて、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

昭和五十八年五月

天皇誕生日一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。なお、一回目のお出ましの際、十四歳の少年が天皇めがけて金槌を投げつける事件があつたが、天皇・皇后とも無事で、少年はその場で皇宮護衛官に取り押さえられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内庁庁報、官報、皇宮警察史、斎藤誠治業務日誌、ト部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、読売新聞

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子とお祝いの御夕餐を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品を贈られる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、内廷皇族誕生日綴、東宮録、宮内庁庁報

三十日 土曜日 翌五月一日より十月三十一日まで第二十八回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報

五月

二日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の宮内庁御用掛岡野弘彦始め八名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

四日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のベルギー国駐箚特命全権大使山本鎮彦及び同夫人、アルジェリア国駐箚特命全権大使伊達宗起及び同夫人、ホンジュラス国駐箚特命全権大使中曽根悟郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

去る四月二十七日岩手県三陸海岸において発生した山林火災により大きな被害を受けた同県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

六日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。その際、御所作にお迷いになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、御養蚕録、卜部亮吾侍従日記

午後、天皇と共に吹上御所において、崇仁親王妃百合子・容子内親王と御対面になり、容子内親王と千政之との婚約内定の報告をお受けになる。同内親王は十月十四日に結婚する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 土曜日 天皇と共に、午前十時三十分御出門になり、十一時五十一分葉山御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、行幸啓綴、幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記

八日 日曜日 午前、天皇と共に二子山方面へお出ましになり、森戸川溪谷を散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、行幸啓綴

九日 月曜日 天皇と共に、午後二時葉山御用邸を御出門になり、三時二十一分皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、行幸啓綴、幸啓録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、昨十一日デンマーク国・スウェーデン国訪問から帰国した正仁親王・同妃華子の随員山下和夫の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃より帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従

昭和五十八年五月

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 月曜日 午前、花の間において、常磐会より献上の傘寿のお祝品^{和食器及びペンダント}を持参した同会会長賀陽敏子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、常磐会創立百年年表

十七日 火曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の女官安藤桃子始め三名、前任の女官松園英子始め三名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録、

入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

この日、翌十九日より二十四日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十一日にも御出品になる。○贈賜録

二十三日 月曜日 寛仁親王妃信子昨二十二日内着帯につき、天皇・皇后より寛仁親王・同妃に万那代料を御贈進になる。○贈賜録、卜部亮吾侍従日記

二十五日 水曜日 天皇と共に、午後零時二十三分御出門になり、東宮御所に行啓される。徳仁親王の英国オックスフォード大学マートン・コレッジ修学に当たり、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王と御昼餐を御会食になり、ついで御一緒に庭を御散策になる。二時二十三分還啓される。なお、徳仁親王は六月二十日に英国へ出発する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、

斎藤誠治業務日誌、入江相政日記

明治神宮會館において開催の昭和五十八年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日ここに、昭和五十八年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。赤十字は、国際的な強いきずなのもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となっておりますが、日本赤十字社が国際赤十字の一員として、国の内外において立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の役割は、これからますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが互いに力を合わせて、一層の力強い活動を進められるよう希望してやみません。

○幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昨二十六日に発生した日本海中部地震により甚大な被害を受けた秋田県及び青森県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、一九八三年日本海中部地震被害調査報告書

二十八日 土曜日 元日本赤十字社社長東竜太郎元東京都知事 去る二十六日死去につき、天皇・皇后が霊前に

菓子を賜う。○贈賜録

三十日 月曜日 千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、発表綴、宮内庁庁報

昭和五十八年六月

六月

四日 土曜日 ベルギー国王族シャルル同国前摂政、同国王の叔父 去る一日薨去につき、昨日、同国王ボードワ

ン一世より天皇・皇后に親電が寄せられ、この日、天皇・皇后が同国王に弔電をお送りになる。これに対し二十八日、答電がある。○上奏モノ控簿、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

七日 火曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王妃百合子・容子内親王と御対面になり、容子内親王の納采の儀がこの日午前に終了した旨の報告をお受けになる。納采の儀に当たり、三笠宮に三種交魚代料を、容子内親王に鮮鯛を天皇・皇后が賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈録、官報、卜部亮吾侍従日記

八日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

十四日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、英国にて修学する徳仁親王の首席随員中川融宮内庁御用掛の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、入江相政日記

十五日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のポルトガル国駐箚特命全権大使岡田富美也及び同夫人、パラグアイ国駐箚特命全権大使山口達男及び同夫人、トリニダード・トバゴ国駐箚特命全権大使西方正直及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の東宮侍従長山口広次・宮内庁御用掛須之部量三始め四名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十七日 金曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る二十日に修学のため英国へ出発する徳仁親王と御対面になる。ついで天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十七分須崎御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記

この日、国賓・公賓に対する天皇・皇后からのお写真及び贈物の贈賜について改められる。従来、独身・単身・配偶者同伴の別なく全ての国賓・公賓に対して天皇・皇后からのお写真及び贈物の贈賜がなされていたが、昨五十七年より皇后が国賓来訪の際の宮中関係行事にお出ましにならなくなったため、今後、国賓に関しては、独身・単身の場合には天皇お一方のみから、配偶者同伴の場合には天皇・皇后からお写真及び贈物を御贈進になり、公賓に関しては、独身・単身・配偶者同伴の別なく全ての場合に天皇お一方のみからお写真を賜い、公賓から天皇または天皇・皇后に献上品があった場合には天皇お一方のみから御紋付銀製花瓶一对を賜うこととされる。○例規録、外事取決め・内規

二十二日 水曜日 午前、天皇と共に御車寄からサクラ道入口まで散策され、植物を御調査になる。

御用邸御滞在中、二十三日・二十五日にも天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、ト部亮吾侍従日記、富田朝彦文書

東京プリンスホテルにおいて開催の第二十九回フーレンス・ナイチンゲール記章授与式に、御名代として皇太子妃を差し遣わされる。元伊達赤十字病院看護部長上田スミレ

財団法人琴似老人福祉会理事

元秋田赤十字

昭和五十八年六月

病院看護部長志田ちゑ秋田赤十字看護、専門学校舎監、元福井赤十字病院看護部長川田ちゑ乃福井市医師会看護専門学校講師の三名にナイチンゲール章記及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日ここに、第二十九回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、大変うれしく思います。

このたび、上田スミレ、志田ちゑ、川田ちゑ乃の三名の方々が赤十字国際委員会から看護婦として最高の名譽であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる献身的努力のたまものであり、本人の榮譽はもとより、我が国にとりましても、誠に喜ばしいこととあります。

受章された方々を始め看護婦の皆さんは、今後も健康に留意され、博愛と人道のため、看護の道に力を尽くすよう切に希望いたします。

○幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十七日 月曜日 ローマ法王庁特命全權大使マリオ・ピオ・ガスパリ去る二十三日死去につき、天皇・皇后が弔問使として侍従安楽定信を東京都千代田区の同大使館に差し遣わされる。三十日に東京都文京区の東京カテドラル聖マリア大聖堂において行われる告別式には、天皇・皇后が花環をお供えになる。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、恩賜録、卜部亮吾侍従日記

二十九日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、四時一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠

治業務日誌、入江相政日記

ネパール国太皇太后イシュワリ・ラジャ・ラクシュミ・デヴィ・シャー去る二十七日崩御につき、天皇・皇后が同国国王ブレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブに弔電をお送りになる。これに対し七月十八日、答電がある。○上奏モノ控簿、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

七月

二日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、御養蚕録、斎藤誠治業務日誌

四日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、御養蚕録

午後、桃華樂堂にお出ましになり、樂部職員による洋樂演奏会に御臨席になる。演奏会には、皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子、及び鷹司和子始め元皇族・御縁故者七名が出席する。樂部玄関に御着後、式部副長の先導により御休所にお入りになり、御休所前でお出迎えをした皇太子妃・正仁親王妃・故雍仁親王妃と御対面になる。ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、ロッシーニ作曲歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲などをお聴きになる。演奏終了後、御休所前廊下において指揮者甲斐正雄・首席樂長上近正・樂長東儀博に御会釈を賜う。その後、御休所前廊下において出演者一同の、樂部玄関において皇太子妃・正仁親王妃・故雍仁親王妃のお見送りを受けて御発、吹上御所に還御される。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

七日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、英国にて修学する徳仁親王に同行した首席隨員

昭和五十八年七月

中川融の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、卜部亮吾侍従日記

午後、吹上御所において皇太子妃と御対面になり、皇太子妃より七夕の笹飾りが贈られる。○女官日誌、

内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

十四日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る五月十八日に退職した元女官松園英子の

拝謁をお受けになり、同人及び女官長、上直の侍従・侍医・女官二名と御夕食を共にされる。○女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前、天皇が国賓パキスタン国大統領モハマッド・ジアウル・ハック及び同夫人

シャフイーク・ジアと御会見になる。この来訪に際し、大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、

皇后には絹布地が贈られる。これに対し、天皇・皇后より大統領に七宝花瓶^{クリーム地牡丹文}を、夫人に七宝宝

石箱<sup>正角形薄緑地
正倉院裂文</sup>を御贈進になる。なお、昨十七日に大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に

花束を御贈進になる。これに対し後日、同夫人より皇后に礼状^{同月二十日付}が送られる。○女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

十九日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御対

面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

二十日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のアルゼンチン国駐劔特命全権大

使齋木千九郎及び同夫人、アラブ首長国連邦駐劔特命全権大使野見山修一及び同夫人、ケニア国駐劔

特命全権大使村上和夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁

録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時四十二分那須御用邸に行啓される。なお、今回の行啓より、天皇・皇后がお使いになる御用邸内の部屋が一部変更され、これまでの天皇の御理髪室が皇后専用の御美容室となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、卜部亮吾侍従日記

二十三日 土曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

二十四日 日曜日 午前、皇后お一方にて自動車にて嚶鳴亭にお出ましになる。先にお出ましになっていた天皇と共に、植物を御調査になった後、御昼餐を御会食になり、自動車にて御用邸に還御される。御用邸御滞在中、概ね数日おきに、天皇と共に、時には皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、鷹司和子も伴って植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所事務官日誌

二十五日 月曜日 去る二十日から二十三日にかけての豪雨により甚大な被害を受けた島根県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 元宮内次官白根松介昨二十八日死去につき、天皇・皇后が賜物使として侍従小林忍を白根邸に差し遣わされ、祭装料及び菓子・切り花を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

昭和五十八年八月

三十日 土曜日 午前、明治天皇例祭につき、御用邸において御遙拝になる。終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

八月

九日 火曜日 長崎原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十一日 木曜日 北白川房子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十五日 月曜日 全国戦没者追悼式のテレビ中継放送を御覧になり、黙禱される。同追悼式が行われるに当たり、去る十二日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。なお、同追悼式に御臨席になるため、天皇はお一方にて去る十三日に皇居に還幸され、十八日に再び御用邸に行幸される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報

二十四日 水曜日 午後、天皇と共に謁見所において、新任の皇宮警察本部長大波多三宜及び前任の皇宮警察本部長橋本佑三の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

三十日 火曜日 午前、天皇が嚶鳴亭において宮内記者会会員二十三名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、天皇・皇后の御健康状態、来年銀婚式を迎える皇太子・同妃の成婚に対するその当時の皇后の御感想、天皇・皇后が来年御成婚六十年を迎えられるに当たっての御感

想などについての質問をお受けになる。皇后の御健康状態に関しては、お元気で腰の痛みも安定しており、御運動のために毎日三十分間ほど御散策になつている旨をお答えになり、皇太子・同妃の成婚に関しては、家庭内のことであるため公にしない旨を笑いを交えながらお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所日誌、皇記者会見、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

九月

六日 火曜日 午前、皇居宮殿の千鳥の間・千草の間において、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選が行われ、議員に宣仁親王・崇仁親王が、予備議員に故雍仁親王妃勢津子・皇太子が当選する。皇后は、不在者投票を行う旨を八月二十五日に届け出られ、あらかじめ投票をお済ませになつた。○侍従職日誌、内舍人日誌、皇室会議皇族議員互選録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

七日 水曜日 寛仁親王妃信子着帯につき、天皇・皇后より寛仁親王・同妃に万那代料を御贈進になる。○贈賜録

八日 木曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、十一時四十七分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、富田朝彦文書

九日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

昭和五十八年九月

十二日 月曜日 午前、天皇が国賓アイルランド国大統領。パトリック・ジョン・ヒラリー及び同夫人

メイヴと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領に有田焼花瓶色鍋島
秋海棠を、同夫人に蒔絵

手文庫松竹
文を御贈進になる。これに対し、大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはクリス

タルボウルウオーター
フオード製、テーブルクロス、ナプキンが贈られる。なお、昨十一日に大統領夫妻が入京した

際に、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、

接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

十六日 金曜日 正午より、天皇がヨルダン国王フセイン一世及び同王妃ヌールと御会見になり、

宮中午餐を催される。この来訪に際し、王妃より皇后に金のネックレスの御贈進がある。これに対し

二十日、王妃に絹地紫地に菊の花模様、紅葉山御
養蚕所産繭により織立のものを御贈進になる。後日、王妃より天皇・皇后それぞれに礼状

十月十七日付が送られ、皇后宛ての礼状には、日本国滞在中のお礼及び皇后が御贈進になった絹地に対するお

礼が記される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、上奏モノ控簿、典式録、外賓参内録、外交贈答録、外交雑録、

贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十九日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のスウェーデン国駐劄特命全権大

使越智啓介及び同夫人、イラン国駐劄特命全権大使野村豊及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。午前中、

静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 容子内親王来る十月十四日結婚につき、天皇と共に吹上御所において、同内親王のほか、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・憲仁親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御晚餐を御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、卜部亮吾侍従日記

二十七日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、昭和四十六年の御訪欧及び同五十年の御訪米に同行した元首席随員福田赳夫始め元随員・元随行員の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、斎藤誠治業務日誌、真崎秀樹英文日記

ベルギー国前国王レオポルド三世去る二十五日崩御につき、同国王ボードワン一世より天皇・皇后に親電が寄せられ、この日、天皇・皇后が国王に弔電をお送りになる。これに対し十月十四日、答電がある。九月三十日には、天皇・皇后が弔問使として侍従小林忍を東京都千代田区と同国大使館に差し遣わされ、十月一日に行われる葬儀には、同国駐箭特命全權大使を通じて、天皇・皇后が柩前に花環をお供えになる。○侍従日誌、上奏モノ控簿、外交慶弔録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に正殿松の間において、来る十月十四日に結婚する容子内親王の朝見の儀に臨まれる。同内親王より謝恩の辞をお受けになり、これに対しお言葉を賜う。続いて同内親王に御盃をお授けになる。ついで天皇・皇后が御前に設けられた御台盤に御箸をお立てになり、同内親王がこれに倣う。その後、天皇と共に御退出になる。儀終了後、天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。また、十月四日には、三笠宮に金員を、崇仁親王に清酒及び鮮鯛代料を、容子内親王に扇子代料・白縮緬及びお品を天皇・皇后が賜う。なお、翌二十九日に行わ

昭和五十八年十月

れた宮内庁次長の会見において、朝見の儀の際にお言葉を容易にお読みになることができず、また御箸をまっすぐにお立てになれないなど御所作に滞りが生じていた皇后の御様子が話題に上る。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮内庁庁報、官報、齋藤誠治業務日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

天皇最後の侍従日記

三十日 金曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和五十八年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報

十月

一日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の皇室医務主管兼侍医長兼宮内庁病院長星川光正・侍従職参与西野重孝^{前皇室医務主管兼侍医長兼宮内庁病院長}始め三名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、読売新聞

四日 火曜日 昨三日三宅島において発生した火山の噴火により甚大な被害を受けた東京都に、天

皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、東京都庁所蔵資料、卜部亮吾侍従日記

五日 水曜日 天皇と共に、午前十時二分御出門になり、多摩陵^{大正天皇陵}並びに多摩東陵^{貞明皇后陵}に行啓され

る。天皇の御拝礼が終わった後、続いて皇后が多摩陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。天皇と共に、御休所において御昼餐の後、午後二時七分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓

録、臨時祭祀録、幸啓録、宮内庁庁報、齋藤誠治業務日誌、卜部亮吾侍従日記

六日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る一日に侍医長を退職した侍従職参与西野重孝の拝謁をお受けになり、同人及び女官長・侍従次長、上直の侍従・侍医長・女官二名と御夕餐を共にされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十二日 水曜日 正午過ぎ、天皇がタイ国王女シリントーンと御会見になり、宮中午餐を催される。

この来訪に際し、王女より天皇・皇后に御贈進の品があり、天皇・皇后にはエメラルド寺院附属図書館編集『ラーマーヤナ壁画集』が、皇后にはタイ画^{竹製額入り}が贈られる。これに対し、天皇・皇后より王女に七宝宝石箱^{青磁正倉院文}を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答

録、恩賜録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、

祭典録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のタイ国駐節特命全権大使橘正忠及び同夫人、ペルー国駐節特命全権大使小杉照夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午前、天皇が国賓ノルウェー国王オラフ五世と御会見になる。この来訪に際し、国王より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはコーヒーセットが贈られる。これに対し、天皇・皇后より国王に九谷焼飾皿^{金襴手更紗小紋椿絵文様}を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、接待書類、

外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

昭和五十八年十月

二十日 木曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子妃と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十一日 金曜日 正午頃、天皇と共に正殿竹の間において、松栄会会員二十余名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記

二十二日 土曜日 午後、宮殿御車寄前において紅葉山会会員約百名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、卜部亮吾侍従日記

二十四日 月曜日 昨二十三日に離日されたノルウェー国王オラフ五世より、天皇・皇后に、日本国御滞在中の歓待に対する礼電が寄せられる。○上奏モノ控簿、外交慶弔録、接待書類、外賓接待録、宮内庁庁報、

官報

二十五日 火曜日 寛仁親王妃信子第二王女出産につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそれぞれ三種交魚代料を、また寛仁親王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した王女は、三十一日に瑤子ようこと命名される。命名の儀当日に、天皇・皇后より寛仁親王・同妃に鮮鯛代料を、また瑤子女王に鮮鯛代料を御贈進になる。○侍従職日誌、贈賜録、宮内庁庁報、官報

三十一日 月曜日 鳩彦王妃允子内親王五十年式年祭につき、午後は吹上御所にて静かにお過ごしになる。なお、正辰は十一月三日であるが、都合によりこの日に繰り上げて執行された。○女官日誌

十一月

一日 火曜日 午後、天皇が公賓ドイツ連邦共和国首相ヘルムート・コール及び同夫人ハネローレを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には飾皿が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

四日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る十月十四日に結婚した千政之及び同夫人容子の拝謁をお受けになる。その際、千政之にお品を、同夫人容子に洋服地^{紅葉山御養蚕所産}及びお品を、また、千夫妻にそれぞれ万那料及び菓子を天皇・皇后が賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のビルマ国駐筭特命全権大使塚本政雄及び同夫人、デンマーク国駐筭特命全権大使賀陽治憲及び同夫人、イスラエル国駐筭特命全権大使門田省三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 水曜日 午後、天皇が国賓米国大統領ロナルド・ウィルソン・レーガン及び同夫人ナンシーと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領に有田焼飾皿^{色銅島草花文}を、同夫人に銀製宝石箱^{花車模様}を御贈進になる。これに対し、大統領より天皇に、大統領夫妻より皇后に御贈進の品があり、皇后には貝の形をした銀製の小箱^{ウイリアムズバークグ銘}が贈られる。なお、この日に大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答

昭和五十八年十一月

録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

十七日 木曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、新任の東宮職参与須之部量三宮内庁御用掛、元外務事務次官・同

団藤重光元最高裁判所判事始め四名の拝謁をお受けになる。なお、東宮職参与は、皇太子一家の諸事全般につき

助言を行う役職として新たに設けられた。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、官報、読売新聞

十八日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のチリ国駐箚特命全権大使小村康一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

天皇と共に、午前十一時四十五分御出門になり、東宮御所に行啓される。天皇及び皇太子・同妃と共に赤坂御苑内を散策され、紅葉を御覧になった後、東宮御所において御昼餐を御会食になる。午後一時五十七分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務

日誌、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

二十五日 金曜日 正午過ぎ、天皇が公賓中国共産党中央委員会総書記胡耀邦を御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、総書記より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には陶製飾皿御肖像図入り

が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のインド国駐箚特命全権大使穂崎

巧及び同夫人、キューバ国駐筭特命全權大使馬淵晴之及び同夫人、ボリビア国駐筭特命全權大使藪忠綱及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十二月

三日 土曜日 午前、宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧になる。同展には日本画の御作品「枯露柿」「秋色―たちふうろ」を御出品になる。なお、皇后が同展を御覧になるのは、この年が最後となる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、文化祭目録、香淳皇后の生涯と作品

五日 月曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、糸竹会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会では、黄鐘調音取、拾翠楽、越殿楽<sup>残楽
三返</sup>、西王楽破、貞明皇后御歌の演奏をお聴きになり、式部副長山内和彦・式部官中島宝城・楽部事務長真砂昭夫が陪聴する。演奏終了後、御休所前廊下において糸竹会会員十六名及び首席楽長上近正<sup>糸竹会
講師</sup>・楽長東儀博^{同上}の拝謁をお受けになる。その後、糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、糸竹会

六日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、京都在住堂上会総代冷泉為弘の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、入江相政日記

昭和五十八年十二月

十日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

十二日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のセネガル国駐節特命全権大使山本学及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内

庁庁報

十三日 火曜日 天皇と共に、午後一時十三分御出門になり、四時四十七分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌、入江相政日記、富田朝彦文書

十四日 水曜日 午前、天皇と共に御車寄から附属邸まで散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、ほぼ毎日天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御

用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌、卜部亮吾侍従日記

二十日 火曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、社会事業、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十一日 水曜日 天皇と共に、午後零時二十九分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元女官等の祝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に同所において、

皇太子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、内廷皇族誕生日綴、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十五日 日曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 正午、天皇がネパール国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同王妃アイシュワリヤと御会見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、国王より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはタラ^{ヒンドゥー教の女神}像が贈られる。これに対し、天皇・皇后より国王・王妃に有田焼花瓶^{金襴手牡丹孔雀文}を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜

録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、文仁親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴、東宮録

二十九日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官より歳末の祝詞言上を、ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、さらに清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、宮内庁庁報、富田朝彦文書

昭和五十九年一月

昭和五十九年（西暦一九八四年） 八十一歳

一月

一日 日曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・同妃信子・宣仁親王・憲仁親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等、各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。皇后が各国外交使節団の長等の新年祝賀をお受けになるのは、この年が最後となる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰痛の状態は安定していること、天気の良い日は御運動のために吹上御所の庭を三十分間ほど御散策になっていることなどが発表される。○年末年始、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、文仁親王^{昨夜まで葉山御用邸に滞在}の祝賀をお受けになる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後四回の計七回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、年末年始、東宮録、宮内庁庁報、官報

三日 火曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒

例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

六日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のモロッコ国駐劄特命全權大使山下和夫の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相

政日記

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

七日 土曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女嬬等の祝賀をお受けになる。その後、皇后お一方にて、花の間において御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録

十二日 木曜日 午前、歌会始の儀にお出ましにならず、吹上御所においてそのテレビ中継放送を御

昭和五十九年一月

覧になる。この年のお題は「緑」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

やはらかき日ざし透りて若桂みどりゆたかに中壺に満つ

○女官日誌、儀式録、典式録、宮内庁庁報、官報、斎藤誠治業務日誌

十七日 火曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、

この年は、月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 日曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 月曜日 来る二十五日、福岡県の大牟田市民体育館において三井石炭鉱業株式会社三池鉱業所有明鉱殉職者^{去る十八日の坑道火災の犠牲者}合同社葬が執行されるに当たり、天皇・皇后が通商産業省を通じて同葬

に生花を賜う。○賜与録、発表綴、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、賢所・皇靈殿・神殿において天皇皇后御結婚満六十年の祭典が行われるに

当たり、吹上御所において御遙拝になる。なお、この日神武天皇陵^{歌傍山、東北陵}、多摩陵^{大正天皇陵}及び多摩東陵^{貞明皇后}

陵においても祭典が行われる。○女官日誌、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

天皇と共に宮殿にお出ましになり、御結婚満六十年の祝賀行事に臨まれる。鳳凰の間において宮内庁

長官以下課長相当職以上の職員及び皇宮警察本部職員のうち部長、側近奉仕者等の祝賀を、宮殿御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を順次お受けになる。ついで鳳凰の間において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・同妃信子・宜仁親王・憲仁親王、及び元皇族・御縁故者等の祝賀をお受けになる。午後には正殿竹の間において内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及びその配偶者の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、天皇皇后両陛下御結婚満六十年綴、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌、中曽根内閣史

夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子とお祝御膳を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、東宮録

御結婚満六十年に当たり、内閣総理大臣始め國務大臣、衆議院議長・同副議長、参議院議長・同副議長、最高裁判所長官、最高裁判所判事^{長官代行}より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には銀製七宝付ペンダント時計が贈られる。これに対し天皇・皇后が内閣総理大臣始め献上者へ御紋付銀製スプーンを賜う。また、駐日外交使節団一同より天皇・皇后へ花束の献上がある。さらに二月二十日には、スペイン国テルエル市より天皇・皇后に記念の金メダル及び盾が献上される。○恩賜録、天皇皇后両陛下御結婚満六十年綴、外交贈答録、発表綴、卜部亮吾侍従日記、斎藤誠治業務日誌

御結婚満六十年に当たり、がん対策振興事業御奨励のため、天皇・皇后が厚生大臣に金一封を賜う。

○恩賜録、発表綴、宮内庁庁報、朝日新聞、東京新聞、読売新聞

御結婚満六十年に際し、各国元首から天皇・皇后に祝電・親書が寄せられる。これに対し天皇が答電・

昭和五十九年二月

答簡をお送りになる。○上奏モノ控簿、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

元帝室博物館鑑査官三条西公正御妹信子の夫 昨二十五日死去につき、天皇・皇后が祭筵料を賜う。また別に皇

后が切り花を賜う。○贈賜録、宮内庁庁報

二十八日 土曜日 天皇と共に、午前十一時四十二分御出門になり、同五十分常陸宮邸に行啓される。

正仁親王・同妃華子と御昼餐を御会食になり、午後一時五十八分還啓される。○女官日誌、侍従

職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、發表綴、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

三十日 月曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。また、吹上御所にて

静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二月十三日より二十一日までマレーシ

ア国及びシンガポール国を訪問する正仁親王・同妃華子の首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、宮内庁庁報

二月

二日 木曜日 午後、天皇が公賓オーストラリア国首相ロバート・ジェームズ・リー・ホーク及び同

夫人ヘイゼルを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同夫妻より天皇・皇后に献上

の品があり、皇后にはクリスタル花瓶銀製カモノハシ飾付が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

四日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る十三日より二十一日までマレーシア国及び

シンガポール国を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になり、ついで御夕食を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交雑録、贈賜録、宮内庁庁報

七日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のエクアドル国駐箚特命全権大使西宮一及び同夫人、ドミニカ共和国駐箚特命全権大使井口武夫及び同夫人、ザンビア国駐箚特命全権大使太田正利及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

八日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のコロンビア国駐箚特命全権大使藤本芳男及び同夫人、ベトナム国駐箚特命全権大使堤功一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十六分須崎御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

十日 金曜日 午前、天皇と共に三井浜付近にお出ましになり、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、須崎御用邸行幸啓録、斎藤誠治業務日誌
大韓民国ソウル特別市にて入院療養中の李方子に対し、天皇・皇后が金一封を賜う。これに対し、二十五日に礼電がある。○贈賜録、重要雑録

十六日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十分須崎御用邸を御出門になり、三時五十八分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

昭和五十九年二月

二十日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二十五日より三月八日までザイル国・セネガル国を訪問する皇太子・同妃の首席随員須之部量三^{東宮職参与}及び随員九名の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、宮内庁庁報

午後、花の間において、日本赤十字社社長林敬三の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十一日 火曜日 仁孝天皇例祭につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 この日より二十四日まで、天皇と共に千葉県南房総方面へ行啓される。午前九時四十四分御出門になり、原宿駅より安房鴨川駅を経て、鴨川市太海フラワーセンターに御到着になる。一号館で開催中の切花共進会を始め、二・三号館のバラ及び熱帯果樹、四・五号館の温室の花々まで御巡覧になったのち御少憩になる。その後の六・七号館^{熱帯植物}、八号館^{サボテン}は天皇お一方にて御巡覧になる。午後二時三十三分御泊所の鴨川グランドホテルに御到着になる。七階御座所において御休憩の後、鴨川シーワールドを御視察のため御出発になる天皇を御座所前でお見送りになる。夕刻、御泊所にお戻りになった天皇と共に二階大広間において、鴨川市民の演ずる郷土芸能「羯鼓舞」・「やんざ節」を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、鴨川市役所所蔵資料、斎藤誠治業務日誌、グラフ鴨川、千葉日報

二十三日 木曜日 天皇と共に、午前十時御泊所鴨川グランドホテルを御出発になる。勝浦市の行川アイランドに臨まれ、フラミンゴ園においてフラミンゴショーを御覧になる。その後、動物舎に移られ、トロピカルバードセンター、モンキーハウスを御巡覧になり、十一時五十三分御泊所勝浦ホテル三日月に御到着になる。なお、この後天皇は一方にて勝浦海中公園にお出ましの予定であったが、御風気味のため、お取りやめになり御座所にて御静養になる。夕刻、天皇と共に二階コンベンションホールにおいて、杉戸区拍子連が演じる郷土芸能「杉戸の獅子舞」を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、勝浦市役所所蔵資料、広報かつうら

二十四日 金曜日 天皇と共に、午前十一時四十二分御泊所勝浦ホテル三日月を御出発になる。勝浦駅より原宿駅を経て、午後二時二十二分皇居に還啓される。なお、天皇は昨二十三日来の御風気のため、この日午前に予定されていた千葉県栽培漁業センターへのお一方での御訪問をお取りやめになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌
天皇と共に吹上御所において、翌二十五日より三月八日まで天皇の御名代としてザイル国・セネガル国を訪問する皇太子、及び同妃に御対面になる。なお、皇太子を通じて天皇・皇后よりザイル国大統領及び同夫人に有田焼花瓶清華金欄手
紅地 葡葡文、セネガル国大統領及び同夫人に有田焼花瓶染錦金欄手
緑地 草花文を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、贈賜録、外交贈答録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十九日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のノルウェー国駐劄特命全權大使山戸徹及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、斎藤誠治業務日誌

昭和五十九年三月

来る三月六日に満八十一歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院の救助収容患者に手拭い三千八百本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

三月

一日 木曜日 来る六日に満八十一歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって恩賜財団済生会病院の救助収容患者に手拭い三千二百本を賜う。○贈賜録

二日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、去る二月二十一日にマレーシア国・シンガポール国訪問から帰国した正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。その際、親王・同妃より帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

六日 火曜日 満八十一歳のお誕生日を迎えられる。

午前、鳳凰の間において、宮内庁長官始め各部局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、参与宇佐美毅・森永貞一郎、侍従職参与西野重孝、東宮職参与団藤重光、続いて正仁親王・同妃華子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、鳳凰の間において元側近奉仕者の祝賀を、花の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、御車寄内において元女嬬等の祝賀を、花の間において御学友・御同級生六名、続いて東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。正午、正殿梅の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に吹上御所において、清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王妃信子、鷹司和子、池田隆政・同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子と御晚餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌、中曽根内閣史

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰は欠損箇所も固まり安定した状態であること、膝は時々痛みを訴えられるが軽い症状であること、コルセットを着用されているため和服やローブデコルテ等の正装はできずローブモント^{お長服}であればお召しになれること、御家族との御会食や御団欒を楽しみにされていることなどが発表される。○内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二月二十一日にマレーシア国及びシンガポール国訪問から帰国した正仁親王・同妃華子の首席随員斉藤鎮男の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記

八日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日ザイール国・セネガル国訪問より帰国した皇太子・同妃に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

九日 金曜日 天皇と共に、午後一時十一分御出門になり、四時四十七分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎

昭和五十九年三月

藤誠治業務日誌

十一日 日曜日 午前、天皇と共にサクラ道第一大曲にお出ましになり、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、十二日・十三日にも天皇と共に植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十二日 月曜日 来る十六日マーシャル国マジュロ島において、厚生省主催による東太平洋戦没者の碑竣工並びに追悼式が行われるにつき、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、発表綴、宮内庁庁報

十四日 水曜日 タイ国王妃シリキットが米国御訪問の途中新東京国際空港にお立ち寄りにつき、天皇・皇后は御使として式部副長平岡千之を同空港へ差し遣わされ、お言葉を伝達させられる。お立ち寄りに際し、皇后より王妃へ花束を御贈進になる。なお、翌日にお礼として王妃より天皇・皇后へ花束が贈られる。また二十七日には、同王妃が米国よりの帰途再び同空港にお立ち寄りにつき、天皇・皇后は式部官本多大介を差し遣わされ、お言葉を伝達させられる。○外交雑録、外交贈答録、贈賜録

十六日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、三時五十九分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

十九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る八日に帰国した皇太子・同妃のザイル国・セネガル国訪問における首席随員須之部量三及び随員九名の拝謁をお受けになる。ついで天皇と共に雉子の間において、随行員十名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃及びこの日学習院高等科を卒業した文仁親王に御対面になり、ついで御夕食を御会食になる。なお、天皇・皇后より同親王に万那料及びお品料を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、重要雑録、贈賜録、東宮録、斎藤誠治業務日誌

二十六日 月曜日 来る四月十一日の昭憲皇太后七十年祭に先立ち、天皇・皇后から明治神宮へ賜品があり、皇后は桑製象嵌入小簞笥を賜う。○贈賜録

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に桃華樂堂にお出ましになり、天皇皇后両陛下御結婚満六十年奉祝演奏会に御臨席になる。樂部玄関に御着後、式部官長安倍勲の先導により御休所にお入りになり、ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、天皇皇后両陛下の御結婚満六十年を奉祝し御長寿を祈念して作られた奉祝曲「慶翔樂」、この演奏会のために新たに編曲されたメドレー「六十年の調べ」などをお聴きになる。演奏終了後、天皇と共に御休所前廊下において、指揮者甲斐正雄・首席樂長上近正・樂長東儀博・樂長補東儀俊美^{メドレー「六十年の調べ」編曲者}・樂師芝祐靖^{奉祝曲「慶翔樂」作曲者}に御会釈を賜う。なお、編曲及び作曲を行った東儀樂長補と芝樂師に賜品がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、贈賜録、發表綴、入江相政日記、斎藤誠治業務日誌

三十日 金曜日 桃華樂堂においてこの日行われた昭和五十八年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十名に、御紋付銀製スプーンを賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

昭和五十九年四月

三十一日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日退職の宮内庁御用掛岩瀬英子・侍従職首席専門官辻村初来始め五名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、入江相政日記

四月

一日 日曜日 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、皇太子・同妃主催の天皇皇后両陛下御結婚満六十年祝賀御内宴に御出席になる。皇太子・同妃のお出迎えをお受けになった後、皇族・元皇族等二十四方と御昼餐を御会食になる。席上、皇太子の祝詞、宣仁親王の乾杯の発声があり、清子内親王より皇后へ花束が贈呈される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従

日記

二日 月曜日 御風気のため、吹上御所において御静養になる。この日より十三日まで吹上御所において静養される。○女官日誌、侍従職日誌、皇太后陛下御健康、発表綴

六日 金曜日 午前、天皇が国賓ブルネイ国王ハサナル・ボルキア及び王妃サレハと御会見になる。

この来訪に際し、天皇・皇后から国王へ九谷焼花瓶金欄手極彩色小紋文様を、王妃へ銀製宝石箱四季花蝶文様を御贈進にな

る。また王妃から皇后へ宝石入置時計等が贈られる。なお、国王・王妃が入京した際に、皇后より王妃に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

八日 日曜日 この度、文仁親王が学習院大学に進学するに当たり、天皇・皇后から皇太子・同妃に

五種交魚代料、同親王に万那料・お品料をそれぞれ御贈進になる。○侍従職日誌、重要雜録、贈賜録、宮内庁
報

この日バザーを開催する常磐会に切り花^{カーネーション}三百本を賜う。○贈賜録

十日 火曜日 この日結婚満二十五年を迎えた皇太子・同妃に、天皇・皇后からお祝いの品及び鮮鯛を御贈進になる。○贈賜録

十三日 金曜日 天皇が公賓ベルギー国首相ウィルフリード・マルテンス及び同夫人リーヴェを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同国首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはレース編みが献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁
庁報

十八日 水曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、常陸宮家経済顧問中谷一雄、久邇家経済顧問
栄木忠常・同密田博孝、鷹司家経済顧問三谷信、池田家経済顧問野津克己、島津家経済顧問小笠原光
雄の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官日誌、侍
従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、富田メモ

二十二日 日曜日 去る十日に銀婚式を迎えた皇太子・同妃の招待により、天皇と共に午前十時五十
四分御出門になり、東宮御所に行啓される。天皇及び皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御昼餐
を御会食になり、お揃いで桜が満開の赤坂御用地内を御散策になる。午後一時三十六分還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、入江相政日記

昭和五十九年四月

二十三日 月曜日 午前、天皇が国賓カタル国首長ハリーフ・ビン・ハマド・アル・サーニと御会見になる。この来訪に際し、首長から天皇・皇后に献上の品があり、皇后には首輪・腕輪・首飾り・指輪^{宝石入り}が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所仕人日誌、外賓参内録、接待書類、外交

贈答録、宮内庁序報

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日初参内の瑤子女王及び寛仁親王妃信子と御対面になる。初参内に際し、天皇・皇后から寛仁親王・同妃へ三種交魚代料、瑤子女王へ万那料・和服地^{友禪}を御贈進になる。またこの年、瑤子女王初節句につき、天皇・皇后から寛仁親王・同妃へ三種交魚代料、瑤子女王へ三種交魚代料・御台人形代料を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、祭典録、贈賜録

二十九日 日曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に拝謁者控室前において女孺・雑仕の祝賀を、鳳凰の間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。さらに皇后お一方にて再び花の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁序報、入江相政日記

天皇誕生日一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報、入江相政日記

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子とお祝いの御夕餐を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇誕生日関係、ト部亮吾侍従日記、朝日新聞、毎日新聞

五月

一日 火曜日 この日より十月三十一日まで第二十九回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○社会事業、発表綴、宮内庁庁報

八日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、発表綴

十日 木曜日 午前、天皇が公賓欧州共同体^C委員会委員長ガストン・エグモン・トルン及び同夫人リリアンを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同委員長より天皇・皇后へ献上の品があり、皇后にはバラの苗木が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のネパール国駐箚特命全権大使金子一夫及び同夫人、リベリア国駐箚特命全権大使吉川英男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十七日 木曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

昭和五十九年五月

この日より二十二日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○贈賜録

二十一日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所

殿部日誌、吹上御所仕人日誌

二十三日 水曜日 来る二十八日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、發表綴、宮内庁庁報

ベルギー国王族アストリッド^{同国王弟アルベールの王女} 婚約につき、天皇・皇后が同国王ボードワン一世・同王妃、

及び同国王弟アルベール・同妃へそれぞれ祝電をお送りになる。これに対し、六月五日に同国王より、六月十六日に同国王弟より答電がある。○外交慶弔録、重要雜録、宮内庁庁報、官報

二十四日 木曜日 午前、天皇が国賓ブラジル国大統領ジョアン・バチスタ・デ・オリヴェイラ・フィゲイレード及び同夫人ドウルセ・マリア・デ・カストロと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領へ九谷焼飾壺^{極彩色錦、桜紋文様}、大統領夫人へ銀製宝石箱を御贈進になる。また大統領夫妻より

天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはフラミンゴの置物が贈られる。また、天皇・皇后へアマゾンの植物に関する書籍が贈られる。なお、大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を贈られる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、外国からのごあいさつ

二十五日 金曜日 タイ国皇太后ラムバイ・バルニ去る二十二日崩御につき、天皇・皇后が同国王

ラーマ九世^{プミポン・アドゥンヤデート}へ弔電をお送りになる。これに対し六月八日、答電がある。○外交慶弔録、重要雑

録、宮内庁庁報、官報

三十日 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和五十九年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日ここに、昭和五十九年度全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

赤十字は、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となっておりますが、日本赤十字社が、国際的な強いきずなのもとに、国の内外において立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の役割は、これからますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが互いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

正午過ぎ、吹上御所において、皇太子妃と御対面になり、同妃より復命をお受けになる。○女官日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

六月

一日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。その際、先の病氣お見舞いに対するお礼と天皇・皇后の御結婚満六十年のお祝いの言上をお受けになる。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

九日 土曜日 去る四日、ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより天

昭和五十九年六月

皇・皇后に大公の孫フエリックス皇太子アンリ
の第二王子誕生を報じる親電が寄せられる。これに対し、この日天皇・

皇后が祝電をお送りになる。○外交慶弔録、重要雜録、宮内庁庁報、官報

十一日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌

去る四月二十日、天皇は国連アジア太平洋経済社会委員会APESC第四十回総会に参加する加盟国・準

加盟国及び域外加盟国の首席代表等を招かれ茶会を催される。この日、茶会に出席したパプアニュー

ギニア国代表カール・スタック同国産業
開発大臣から同国駐日大使を通じて、天皇・皇后に献上の品があり、皇

后には天然真珠のイヤリングココナツツの
実の容器入りが献上される。○吹上御所仕人日誌、宮中茶会、外交贈答録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

十六日 土曜日 天皇と共に連翠北において、皇太子・同妃始め菊栄親睦会会員をお招きになり、午餐を催される。御食後、連翠南においてお茶の席を設けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、東宮録

十八日 月曜日 正午過ぎ、天皇が公賓ポルトガル国首相マリオ・アルベルト・ノブレ・ソアレス及び同夫人マリアを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同首相から天皇・皇后へ献上の品があり、皇后には銀製の木の置物が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参

内録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十六分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午前、天皇と共にサクラ道第二大曲から附属邸まで散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人

供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

二十八日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十分須崎御用邸を御出門になり、三時五十八分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入

江相政日記

七月

二日 月曜日 天皇が国賓ビルマ国大統領サン・ユ及び同夫人タン・シェインと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より同大統領へ九谷焼花瓶金欄手瓢形更、紗小紋文様、同夫人へ七宝宝石箱赤地花唐草文を御贈進にな

る。また大統領夫妻から天皇・皇后へ御贈進の品があり、皇后にはヒスイのブローチが贈られる。なお、大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、贈るこころ・受けとられた美、サンケイ

三日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフィンランド国駐箚特命全権大使高橋正太郎及び同夫人、エジプト国駐箚特命全権大使加藤吉弥及び同夫人、ブルネイ国駐箚特命全権大使川村知也及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報、宮内庁庁報

昭和五十九年七月

来る二十八日より米国ロサンゼルス市で開催される第二十三回オリンピック競技大会に日本選手団が参加するにつき、天皇・皇后が御奨励のため財団法人日本体育協会に金一封を賜う。○恩賜録、發表綴、

宮内庁庁報

四日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所において、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、發表綴

五日 木曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼次郎始め五名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、桃華樂堂にお出ましになり、樂部職員による洋樂演奏会に御臨席になる。演奏会には、正仁親王妃華子、故雍仁親王妃勢津子、鷹司和子、東久邇文子、東優子が出席する。樂部玄関に御着後、式部副長の先導により御休所にお入りになり、正仁親王妃・故雍仁親王妃と御対面になる。ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、ベートーヴェン作曲交響曲第五番「運命」第一章などをお聴きに

なる。演奏終了後、御休所前廊下において指揮者甲斐正雄・首席樂長上近正・樂長東儀博に御会釈を賜う。その後、樂部玄関において正仁親王妃・故雍仁親王妃のお見送りを受けて御発、吹上御所に還御される。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、行幸啓録、發表綴

六日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のニカラグア国駐箭特命全權大使川出亮及び同夫人、フィジー国駐箭特命全權大使吉田喜久夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のシンガポール国駐箭特命全權大使

橋本恕及び同夫人、コートジボワール国駐筭特命全權大使市岡克博及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 水曜日 天皇と共に、午前九時四十一分御出門になり、午後零時三十八分那須御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

十二日 木曜日 午前、天皇と共に移植地にお出ましになり、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、栃木県庁所蔵資料

十六日 月曜日 午後、天皇と共に謁見所において、近く赴任のソビエト連邦駐筭特命全權大使鹿取泰衛及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十三日 月曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、典式録、栃木県庁所蔵資料

三十日 月曜日 午前、明治天皇例祭につき、那須御用邸において御遙拝になる。終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、栃木県庁所蔵資料

昭和五十九年八月

八月

三日 金曜日 午前、天皇と共に御車寄前において、栃木県教育委員八名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、栃木県庁所蔵資料

六日 月曜日 広島原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、栃木県庁所蔵資料、入江相政日記

九日 木曜日 長崎原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、栃木県庁所蔵資料

十一日 土曜日 この日北白川房子十年祭につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、栃木県庁所蔵資料

十四日 火曜日 天皇と共に、午前九時十二分那須御用邸を御出門になり、午後零時九分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、入江相政日記

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕食を御会食になる。その際、去る十二日に修学先の英国より一時帰国した徳仁親王、同日に英国旅行から徳仁親王と共に帰国した清子内親王より挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 全国戦没者追悼式につき、正午、吹上御所において黙禱される。なお去る九日、同

追悼式が行われるに当たり、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。○女官日誌、幸啓録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報

十七日 金曜日 天皇と共に、午前九時四十一分御出門になり、午後零時三十八分那須御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料

二十一日 火曜日 午前、天皇と共に御車寄前において、黒磯市遺族会会員二十六名に御会釈を賜う。

○侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

三十一日 金曜日 午前、天皇が嚶鳴亭において宮内記者会会員二十三名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、大正十三年新婚の夏に皇后と旅行された福島県猪苗代湖を、来月再び旅行されることに關して、当時の想い出などについて質問がある。これに対し、自分で馬車を御して皇后を乗せたこと、モーターボートで湖水を一周したこと、ゴルフやテニスに興じたこと、雍仁親王と一緒に磐梯山の登山を試みたことなどをお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇と私達

九月

一日 土曜日 関東大震災の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

四日 火曜日 天皇と共に、午前九時十二分那須御用邸を御出門になり、午後零時八分皇居に還啓さ

昭和五十九年九月

れる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、栃木県庁所蔵資料、ト部亮吾侍従日記

五日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のジンバブエ国駐箚特命全権大使伊藤義文及び同夫人、チュニジア国駐箚特命全権大使杉谷好一及び同夫人、スペイン国駐箚特命全権大使枝村純郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。なお、これより先、特命全権大使及び特命全権公使の拝謁の次第が改められ、この度より適用される。従来は、正殿松の間において天皇が大使又は公使の拝謁をお受けになった後、正殿竹の間において天皇・皇后が配偶者同伴の大使又は公使の拝謁をお受けになっていたが、今後は、正殿竹の間において天皇・皇后が配偶者同伴の大使又は公使の拝謁をお受けになるのみとなる。また、その際の皇后のお言葉はないこととなる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、例規録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記

六日 木曜日 午後、天皇が国賓大韓民国大統領全斗煥及び同夫人李順子と御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后から大統領へ九谷焼花瓶金欄手瓢型割二、桜二小紋文様、大統領夫人へ銀製宝宝箱を御贈進になる。

また大統領夫妻から天皇・皇后へ訪日記念メダル・訪日記念郵便切手冊、大統領夫人より皇后へ七宝宝石函が贈られる。なお、大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

九日 日曜日 久邇^御_母倪子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○

女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

十日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のシリア国駐箭特命全權大使加藤千幸及び同夫人、コスタリカ国駐箭特命全權大使江藤之久及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十七日 月曜日 この日、憲仁親王の納采の儀が行われる。午後、天皇と共に鳳凰の間において、同儀が終了し参内した崇仁親王・同妃百合子・憲仁親王と御対面になる。また納采の儀につき、天皇・皇后から崇仁親王・同妃に三種交魚代料を、憲仁親王に鮮鯛を御贈進になる。なお、去る八月一日に開催された皇室会議において、憲仁親王と鳥取久子との婚姻のことが可決された。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

十八日 火曜日 午後、天皇が国賓ガボン国大統領エル・アジ・オマール・ボンゴ及び同夫人ジョセフィンヌと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后へはメリト・ガボネ勲章グラン・クロワが贈られる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領へ七宝花瓶^{クリム、地牡丹文}、大統領夫人へ七宝宝石箱

を御贈進になる。また大統領夫妻より天皇・皇后へ御贈進の品があり、皇后には金製の首飾り・イヤリング・腕輪及び指輪のセットが贈られる。なお、大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁

庁報

十九日 水曜日 去る十四日に発生した長野県西部地震により大きな被害を受けた同県に、天皇・皇后が災害お見舞金を賜う。○災害お見舞い、発表綴、宮内庁庁報

昭和五十九年九月

二十二日 土曜日 ベルギー国王族アストリッド^{同国王弟アルベールの王女}結婚につき、天皇・皇后より同国王ボードワン一世・同王妃及び同国王弟アルベール・同妃へ祝電をお送りになる。これに対し十月二日に同国王より答電がある。また、同国王弟・同妃よりお札の書簡^{九月付}が寄せられる。○外交慶弔録、発表綴、宮内庁庁報、官報

二十三日 日曜日 秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。

○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十五日 火曜日 天皇と共に福島県に行啓される。午前九時三十七分御出門になり、原宿駅より福島駅を経て、午後二時二十分福島市の福島県果樹試験場に御到着になる。天皇と共にナシ圃場・ブドウ圃場・リンゴ圃場を御巡覧になり、場長原田良平の説明によりブドウ^{紅富士}を御手ずから収穫される。

三時八分御泊所花水館に御到着になる。この後、皇后は御泊所にて休養され、天皇はお一方にて福島市小島の森の御視察に向かわれる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、陛下のふくしま、市政だより、福島民報、福島民友

二十六日 水曜日 天皇と共に、午前九時三十一分御泊所花水館を御出発になり、福島駅より翁島駅を経て、耶麻郡猪苗代町の天鏡閣^{旧高松宮別邸、国の重要文化財}に御到着になる。同所は結婚された大正十三年の八月に約一箇月間天皇と滞在された場所であり、お入りの際、玄関左脇において当時に使用された馬車を御覧になる。ついで当時のゴルフ奉仕者秋山政一^{福島市文化財調査員}始め七名に御会釈を賜う。御休所において御昼餐の後、天皇はお一方にて会津若松市の赤井谷地へ向かわれる。皇后は天鏡閣に留まられ、庭を御散

策後、邸内の各室を御巡覧になる。その後、お戻りになった天皇と共に天鏡閣を御出発になり、午後四時十五分郡山市の御泊所一力旅館に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、鈴木寅雄手記、卜部亮吾侍従日記、陛下のふくしま、広報いなわしろ、財界ふくしま、昭和、福島民友

二十七日 木曜日 天皇と共に、午前十一時五十六分御泊所一力旅館を御出発になり、磐梯熱海駅より原宿駅を経て、午後四時二十分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、陛下のふくしま

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、昭和四十六年の御訪欧及び昭和五十年の御訪米に同行した元首席随員福田赳夫始め元随員・元随行員の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、真崎秀樹英文日記

来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十九年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報

十月

一日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のカタール国駐筭特命全権大使波多野裕造及び同夫人、モンゴル国駐筭特命全権大使大田泰彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十二日 金曜日 午後、吹上御所において、奈良県にて開催される第三十九回国民体育大会秋季大会開会式のテレビ中継放送を御覧になる。なお、天皇は昨十一日より十四日まで同県に行幸され、この

昭和五十九年十一月

日開会式に御臨場になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、第三九回国民体育大会・

第二〇回全国身体障害者スポーツ大会記念誌

十七日 水曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、吹上御所殿部日誌、吹

上御所仕人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 正午過ぎ、天皇が公賓チュニジア国首相モハメッド・ムザリ及び同夫人フアティアを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同首相より天皇・皇后へ献上の品があり、皇后には香水吹き等が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 天皇の御風気のため、皇太子妃の誕生日の祝賀はお取りやめとなる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、贈賜録、入江相政日記

十一月

四日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、菊栄親睦会大会天皇御臨席のお礼のため参殿した正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子に御対面になる。なお、この度の大会は、今年が天皇・皇后御結婚六十年、及び皇太子・同妃結婚二十五年にあたることから赤坂東邸において開催されたものである。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、菊栄親睦会録、サンケイ

十三日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフランス国駐箚特命全権大使本野盛幸及び同夫人、サウジアラビア国駐箚特命全権大使岡崎久彦及び同夫人、パキスタン国駐箚特命

全権大使柳健一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の宮内庁御用掛黒木不二前東宮侍従長故黒木從達の夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、入江相政日記

十六日 金曜日 千容子崇仁親王第二王女の第一子命名に際し、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子へ三種交魚代料を御贈進になる。○贈賜録

二十七日 火曜日 元掌典次長小出英経元侍従去る二十四日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜い、また、霊前に切り花及び菓子を賜う。小出は昭和七年より二十年まで侍従を、その後二十一年まで掌典次長を務めた。○恩賜録、贈賜録

二十八日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のカナダ国駐箚特命全権大使菊地清明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

三十日 金曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、卜部亮吾侍従日記

昭和五十九年十二月

十二月

三日 月曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、糸竹会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会では、太食調調子、傾盃樂急、抜頭二返、長慶子、貞明皇后御歌の演奏をお聴きになる。演奏終了後、御休所脇廊下において糸竹会会員十六名及び首席楽長上近正糸竹会講師・楽長東儀博上同の拝謁をお受けになる。その後、糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、糸竹会

五日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の大韓民国駐筭特命全權大使御巫清尚及び同夫人、メキシコ国駐筭特命全權大使内藤武及び同夫人、ラオス国駐筭特命全權大使多田敏孝及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

六日 木曜日 この日より八日まで開催される宮内庁職員組合文化祭の美術展に、日本画の御作品「うららか（胡蝶蘭とスイートピー）」「御苑春雪」を御出品になる。○重要雑録、発表綴、文化祭目録

この日、憲仁親王が鳥取久子と結婚の礼を行い、高円宮の称号を下賜される。午後、天皇と共に鳳凰の間において、朝見の儀を終えた憲仁親王・同妃久子、及び崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。この度の憲仁親王の結婚に際し、天皇・皇后より三笠宮へ金員及びお品を、憲仁親王へ金員・白羽二重・お品を、崇仁親王へ鮮鯛代料・清酒を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要

雑録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、東京新聞、毎日新聞、読売新聞

十一日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記

十八日 火曜日 午前、天皇と共に三井浜を散策され、植物を御調査になる。翌十九日も天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

十九日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十四分須崎御用邸を御出門になり、三時五十九分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、婚儀終了後初めて参内した憲仁親王・同妃久子と御対面になる。参内に際し、天皇・皇后より憲仁親王へお品を、同妃へお品・洋服地^{紅葉山御養蚕所産}を、

憲仁親王・同妃へ万那料・菓子をそれぞれ御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、社会事業、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 日曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に吹上御所において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元女官等の祝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、典式録、

贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十五日 火曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、内舎

昭和五十九年十二月

人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、さらに文仁親王・清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式

録、東宮録、宮内庁庁報、富田メモ、卜部亮吾侍従日記

昭和六十年（西暦一九八五年） 八十二歳

一月

一日 火曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・同妃信子・宜仁親王、憲仁親王・同妃久子、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等の祝賀を順次お受けになる。この年から皇后は各国外交使節団の長等の祝賀をお受けにならないこととなる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、年末年始、東宮録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、中曽根内閣史

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰や膝の状態は安定していること、毎日吹上御所で御散策になつてゐることなどが発表される。○年末年始、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、文仁親王の新年の祝賀をお受けになる。なお、同親王は昨日まで葉山御用邸に滞在した。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、卜部亮吾侍従日記

昭和六十年一月

新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後四回の計七回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。七回目のお出ましの際に、皇后がお手振りを途中でややめになり拍手をされる。夕刻、この件に関して宮内庁より、皇后には特にお疲れの御様子はないという侍従職務主管卜部亮吾と侍医の所見が発表される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮殿行事録、年末年始、東宮録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

三日 木曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。親王が傘寿を迎えるに当たり、天皇・皇后よりお品料を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 月曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女孀等の祝賀をお受けになる。その後、皇后お一方にて、花の間において御同級生五名の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典式録、入江相

政日記、卜部亮吾侍従日記

十日 木曜日 午前、歌会始の儀にお出ましにならず、吹上御所においてそのテレビ中継放送を御覧になる。この年のお題は「旅」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

つくしなる旅路の空に新月のかかるを見たり冴えわたりつつ

○女官日誌、儀式録、昭和六十年講書始め・歌会始めの儀、年末年始、宮内庁庁報、官報

十一日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

十四日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の英国駐劄特命全權大使山崎敏夫及び同夫人、オーストラリア国駐劄特命全權大使中島敏次郎及び同夫人、タンザニア国駐劄特命全權大使黒河内康の拝謁をお受けになる。なお、特命全權大使等の赴任に際しての皇后への拝謁は、これが最後となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十一日 月曜日 元侍従長三谷隆信去る十三日死去につき、天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従卜部亮吾を三谷邸に差し遣わされ、祭料及び生花を賜う。二十二日の葬儀に際しては、天皇・皇后が葬場使として侍従安樂定信を学習院創立百周年記念会館に差し遣わされる。また天皇・皇后が霊前に菓子・果物を、皇后が切り花を賜う。三谷は昭和二十三年六月に侍従長となり、同四十年三月に退職した。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、回顧録侍従長の昭和史、卜部亮吾侍従日記

二月

五日 火曜日 午後、吹上御所において、新任の侍従樋口英昭の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

六日 水曜日 正午前、天皇と共に吹上御所において、この度英国から帰国した壬生基博・同夫人幸

昭和六十年二月

子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に、午後一時十一分御出門になり、四時四十六分須崎御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

十日 日曜日 午前、天皇と共に御料車にてサクラ道までお出ましになり、それより御徒歩にて植物を御調査になる。御用邸御滞在中、十三日まで毎日天皇と共に植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

十二日 火曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十四日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、三時五十九分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十八日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、東久邇文子の拝謁をお受けになり、同人の婚約についての報告をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕食を御会食になる。以後、この年は、月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る三月四日から十一日までネパール国等を訪問する故雍仁親王妃勢津子の首席随員広岡欣之助^{宮務主管}の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、皇親録、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

天皇と共に鳳凰の間において、来る二十三日から三月九日までスペイン国及びアイルランド国を訪問する皇太子・同妃の首席随員団藤重光^{東宮職参与}及び随員の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

夕刻、天皇と共に吹上御所において、元侍従森猛の拝謁をお受けになった後、同人及び女官長、上直の侍従・侍医・女官二名と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

二十一日 木曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の皇宮警察本部長宮脇磊介及び前任の大波多三宜の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、卜部亮吾侍従日記

午後、天皇と共に吹上御所において、翌二十三日から三月九日まで天皇の御名代としてスペイン国及びアイルランド国を訪問する皇太子、及び同妃と御対面になり、挨拶をお受けになる。訪問に際し、

天皇・皇后より皇太子を通じて、スペイン国王ホアン・カルロス一世に九谷焼飾皿^{白地金欄手花鳥繪文様}を、同妃に蒔絵手箱^{花文}を、アイルランド国大統領パトリック・ジョン・ヒラリーに有田焼飾鉢^{濁手花鳥文}を、同夫人に

七宝宝石箱^{クリーム地牡丹文}を御贈進になる。後日、スペイン国王・同妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には置物^{魚二匹入り}が贈られる。またアイルランド国大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、

昭和六十年三月

皇后には壁飾が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、

東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十三日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、来る二十五日から三月十一日まで英国へ旅行する文仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、贈賜録、東宮録、宮内

庁庁報

この日の夜、皇太子・同妃がスペイン国及びアイルランド国訪問に出発するに際し、天皇が東京国際空港に侍従長入江相政を差し遣わされ、天皇・皇后のお言葉を皇太子・同妃にお伝えになる。○女官日誌、侍従日誌、東宮職日誌、空港行事録、贈賜録、入江相政日記

二十五日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る三月四日から十一日までネパール国を訪問する故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

三月

五日 火曜日 東久邇聡子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌

夕刻、タイ国王妃シリキットが米国訪問の途次新東京国際空港にお立ち寄りになるのに際し、天皇・皇后が御使として式部官武田竜夫を同空港に差し遣わされ、王妃へ天皇・皇后のお言葉を伝達させられる。また、皇后が王妃に花束をお贈りになる。○外交雑録、贈賜録

翌六日に満八十二歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千本を賜う。○恩賜録、事業年報（日本赤十字社）、済

生会この十年

六日 水曜日 満八十二歳のお誕生日を迎えられる。

午前、鳳凰の間において、宮内庁長官以下各部局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、正仁親王・同妃華子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、鳳凰の間において元側近奉仕者の祝賀を、花の間において元女官等の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、女官候所前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、御車寄内において元女嬬等の祝賀を、花の間において御学友・御同級生六名、続いて東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。正午、正殿梅の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に吹上御所において、清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・宣仁親王、鷹司和子、池田厚子、島津貴子と御晩餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、例規録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記、中曽根内閣史

お誕生日に当たり、タイ国王ラーマ九世及び王妃シリキットより花器付生花が贈られる。また、米国特命全権大使マイケル・ジョセフ・マンスフィールドより祝意が寄せられ、これに対し翌日式部官長安倍勲を通じて謝意をお伝えになる。○外交贈答録、外交慶弔録

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の異常は全くなく安定していること、膝は時々軽い炎症があること、絵は描かれなくなったこと、御料車に工夫をして御負担を軽減したことな

昭和六十年三月

どが発表される。○内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 木曜日 午前、天皇が正殿竹の間において、近く赴任の米国駐箚特命全権大使松永信雄及び同夫人、ギリシャ国駐箚特命全権大使田中常雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。皇后はお出ましにならないこととされる。なお、四月一日より拝謁の次第が改められ、特命全権大使・特命全権公使の赴任に際しての拝謁に皇后はお出ましにならず、大使・公使は天皇に拝謁した後、皇后の記帳簿に記帳を行うこととされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、例規録、宮殿行事録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

天皇が外務省賓客シリア国外務大臣フルーク・エル・シヤラ及び同夫人を御引見になる。この来訪に際し、大臣を通じて、同国大統領ハーフェズ・アル・アサド及び同夫人から天皇・皇后に銀製花瓶・銀製たばこ入れ・宝石入れ・裂地が贈られる。これに対し、天皇が大臣に大統領夫妻へ謝意を伝えるよう依頼される。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

八日 金曜日 祐子内親王の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌

九日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日スペイン国・アイルランド国訪問から帰国した皇太子・同妃と御対面になり、帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記

十日 日曜日 島津久永・同夫人貴子の結婚満二十五年に当たり、天皇・皇后がお喜びとして鮮鯛代料・お品を賜う。○贈賜録

十二日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、昨十一日英国旅行から帰国した文仁親王と御

対面になり、帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

天皇と共に、午後一時十一分御出門になり、四時四十七分須崎御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十八日 月曜日 午前、天皇と共に御料車にてイノデ沢口までお出ましになり、それより附属邸まで御徒歩にて植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、卜部亮吾侍従日記

二十日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十二分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

二十一日 木曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 火曜日 午前、後西天皇三百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、去る十一日ネパール国等の訪問から帰国した故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、去る二十二日学習院女子中等科を卒業した清子内親王と御対面になる。卒業に当たり、天皇・皇后より内親王に万那料及びお品料を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、東宮録、重要雑録、贈賜録

昭和六十年四月

四月

一日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の京都事務所長長門保明始め四名、及び前任の京都事務所長宇土条治始め七名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

桃華樂堂においてこの日行われた昭和五十九年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十三名に、御紋付銀製スプーンを賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

三日 水曜日 午前、神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

八日 月曜日 来る十二日、パラオ国ペリリュー島において、厚生省主催による西太平洋戦没者の碑竣工・追悼式が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

九日 火曜日 この日、清子内親王が学習院女子高等科へ進学するに当たり、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、内親王に万那料・お品料を御贈進になる。○重要雑録、贈賜録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午後、天皇が林鳥亭において宮内記者会会員二十四名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、戦後四十年という節目に当たり印象に残っていることに関して、皇后と共に欧米諸国を訪問したことなどを挙げられる。また、皇后の日常生活への気配りや皇后の御健康状態に関して、一緒に御散策になる時には道の良い所を選んでいること、腰や膝の痛みはあるがそのほかは御健康であることをお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇記者会見、昭和天皇と私達

十八日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 午前、天皇が中華人民共和国全国人民代表大会常務委員会委員長彭真及び同夫人張潔清を御引見になる。この来訪に際し、委員長夫妻から天皇・皇后に献上の品があり、皇后には刺繍入テーブルクロスが献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

二十九日 月曜日 昨夜よりの御風気のため、天皇誕生日の祝賀行事を全て御欠席になる。皇后の天皇誕生日祝賀行事の御欠席は、初めてのこととなる。皇后は五月七日まで御静養になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、皇太后陛下御健康、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

三十日 火曜日 翌五月一日より十月三十一日まで第三十回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○内賜（社会事業関係）、宮内庁庁報

五月

二日 木曜日 午前、安徳天皇八百年式年祭につき、吹上御所にてお慎みになる。○女官日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

八日 水曜日 午前、御養蚕始の儀が行われる。御風気御用心のため、皇后はお出ましにならないこととされる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式、皇太后陛下御健康、ト部亮吾侍従日記、サンケイ、毎日新聞

昭和六十年五月

十四日 火曜日 正午前、天皇がデンマーク国王妹ベネディクトと御会見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、王妹から天皇・皇后に書籍『デンマーク植物史』・枕が贈られる。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例

祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、来る二十四日に結婚する東久邇文子、及び東優子と御昼餐を御会食になる。二十一日には、天皇・皇后が東久邇信彦に清酒・鮮鯛代料を、文子に扇子代料・白縮緬・金員を賜う。二十四日には、お悦びとして天皇・皇后が東久邇稔彦に洋菓子・切り花^{吹上御苑}

のバを賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十日 月曜日 正午前、天皇が公賓トルコ国首相トウルグット・オザール及び同夫人セムラ・オザールを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同首相より天皇・皇后に絨氈が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

来る二十七日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、天皇が世界大都市サミット会議に出席の外国主要都市代表等三十一名をお招きになり、茶会を催される。茶会に際し、主要都市代表等から天皇・皇后に御贈進の品があり、天皇・皇后にはサンパウロ市長夫妻から鳥の置物二個^{銀・紫水晶}が、皇后には、ソウル市長より螺鈿宝石箱が、

またウイーン市長よりハンドバッグが贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮中茶会、外交贈答録、宮内庁序報、ト部亮吾侍従日記

明治神宮会館において開催の昭和六十年全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日、昭和六十年度の全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

赤十字は、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となっていますが、日本赤十字社が、国際的な強いきずなのもとに、国の内外において立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の任務は、今後ますます重要になつていくものと思いますので、皆さんが互いに力を合わせて、一層力強い活動が進められるよう希望してやみません。

正午過ぎ、吹上御所において、皇太子妃と御対面になり、同妃より復命をお受けになる。○女官日誌、内

舎人日誌、幸啓録、重要雑録、宮内庁序報、官報、事業年報（日本赤十字社、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

去る十七日、三菱石炭鉱業株式会社南大夕張礦業所の南大夕張坑内においてガス爆発事故が発生し、多数の死傷者を出す。翌二十三日に営まれる三菱石炭鉱業株式会社南大夕張礦業所殉職者合同葬に対し、この日、天皇・皇后が通商産業省を通じて生花を賜う。○災害お見舞い、宮内庁序報

この日、翌二十三日より二十八日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十五日にも御出品になる。○贈賜録

昭和六十年五月

昭和六十年六月

二十三日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、四齡の蚕を御覧になる。また、御養蚕所主任神戸礼二郎の報告をお聞きになり、御給桑になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式、卜部亮吾侍従日記

二十五日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、昨二十四日結婚式を挙げた高木代々吉・同夫人文子の拝謁をお受けになる。両人は結婚後初参内につき、天皇・皇后が兩人にそれぞれお品を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

二十七日 月曜日 午後、天皇が国際科学技術博覧会賓客ブルガリア国国家評議会議長トードル・ジフコフ及び孫と御会見になる。この来訪に際し、議長より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはバラの香水が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る六月一日から十五日まで天皇の御名代としてスウェーデン国・デンマーク国・ノルウェー国・フィンランド国を訪問する皇太子、及び同妃と御対面になる。訪問に際し、天皇・皇后より皇太子を通じ、スウェーデン国王・王妃に扇面散模様の広蓋^{飾皿立て付き}を、デンマーク国女王・王妃に草花折枝模様の広蓋^{飾皿立て付き}を、ノルウェー国王に鶴の図の広蓋^{飾皿立て付き}を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

六月

三日 月曜日 元管理部長高尾亮一去る五月二十一日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜い、また、

霊前に菓子を賜う。高尾は昭和三十八年から臨時皇居造営部長として宮殿の造営に尽力した。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

四日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王妃百合子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十一日 火曜日 午前、吹上御所において、繭搔きをされる。○女官日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

十三日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る十五日から二十六日まで官約移民百年記念式典に出席するため米国ハワイ州を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になる。ついで御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、皇親録、宮内庁庁報

十五日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日フィンランド国等訪問から帰国した皇太子・同妃と御対面になり、帰国の報告をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、入江相政日記

十七日 月曜日 午後、皇居東御苑二の丸庭園にお出ましになり、今般整備が完了した武蔵野の雑木林を再現した樹木庭園をお車より御覧になられた後、菖蒲園周辺を徒歩にて散策される。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、読売新聞

十九日 水曜日 午後、天皇が国賓バングラデシユ国大統領フセイン・モハマッド・エルシヤド及び同夫人ローシヤン・エルシヤドと御会見になる。この来訪に際し、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には銀製香水入れ・サリーが贈られる。これに対し、天皇・皇后より大統領に有

昭和六十年六月

田焼花瓶^{金襴手}を、同夫人に佐賀錦ハンドバッグを御贈進になる。また翌日、皇后より同夫人に洋服地紅葉山御養蚕所産を御贈進になる。なお、大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を贈られる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、情報公開資料、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、ト部亮吾侍従日記

二十八日 金曜日 午前、東京プリンスホテルにおいて開催の第三十回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に、御名代として皇太子妃を差し遣わされる。元財団法人日本赤十字社衛生部看護課長岸井キミコ^{財団法人日本赤十字社看護婦同方会常務理事}、元名古屋第一赤十字病院看護部長立松腓子^{名古屋第一赤十字病院顧問}、那覇市立病院総看護婦長真玉橋ノブの三名にナイチンゲール記章及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日ここに、第三十回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、大変うれしく思います。

このたび、岸井キミコ、立松腓子、真玉橋ノブの三名の方々が赤十字国際委員会から看護婦として最高の名譽であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる献身的努力のたまものであり、誠に喜ばしいことであります。

受章された方々を始め看護婦の皆さんは、今後も健康に留意され、博愛と人道のため、看護の道に力を尽くされるよう希望してやみません。

午後、吹上御所において、皇太子妃と御対面になり、同妃より復命をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、情報公開資料、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十九日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る二十六日米国ハワイ州訪問から帰国した正仁親王・同妃華子と御対面になり、帰国の挨拶をお受けになった後、御夕食を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

七月

四日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式、卜部亮吾侍従日記

五日 金曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賜与録、儀式、卜部亮吾侍従日記

六日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、東久邇信彦・同夫人吉子・同子息征彦、高木文子、壬生基博・同夫人幸子、東久邇真彦・同夫人賀鶴子、東作興・同夫人優子と御対面になり、中元の挨拶をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 月曜日 正午前、天皇が公賓。パプアニューギニア国首相マイケル・T・ソマレを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、首相から天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはブローチが献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

九日 火曜日 正午前、天皇がベルギー国国王ボードワン一世及び王子フィリップ王弟アルベールの王子と御会見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、国王・王妃から天皇・皇后に書籍 *LIVRE DES SIMPLES*

昭和六十年七月

MEDECINESが贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

十二日 金曜日 この日、天皇の御誕生よりの日数が三万七百五十六日となり、第百八代後水尾天皇と並ばれる。翌十三日、天皇が侍従長始め侍従・女官・侍医等より鰻重の献上をお受けになり、皇后も天皇と共に一同と御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、入江相政日記、

卜部亮吾侍従日記

十八日 木曜日 天皇と共に、午前九時三十七分御出門になり、午後零時三十八分那須御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

二十一日 日曜日 午前、天皇と共に御料車にて嚶鳴亭にお出ましになり、周辺の植物を御調査になる。二十八日も天皇と共に植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓、入江

相政日記、卜部亮吾侍従日記

二十三日 火曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌

二十五日 木曜日 この日から九月二十四日まで高島屋日本橋店・同京都店・同大阪店・同横浜店において、株式会社フジテレビジョン主催による天皇の御長寿記念特別展「天皇八十四年の素顔」が開催され、皇后ゆかりのお品として桃苑画集及び錦芳集が展示される。○重要雑録、天皇・八十四年の素顔、サ
ンケイ

二十九日 月曜日 去る二十六日、長野県長野市地附山において発生した地滑りにより大きな被害が出たため、この日、同県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

八月

六日 火曜日 広島原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

レバノン国特命全権大使サミーラ・ハナ・エル・ダヘルより、天皇・皇后にワイン二箱が献上される。
○外交贈答録、外務省公表集

九日 金曜日 長崎原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十一日 日曜日 北白川房子の祥月命日につき、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十三日 火曜日 天皇と共に、午前九時十分那須御用邸を御出門になり、午後零時十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

十五日 木曜日 全国戦没者追悼式が行われるに当たり、去る十四日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。○幸啓録、行幸啓録、恩賜録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 天皇と共に、午前九時三十八分御出門になり、午後零時三十八分那須御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

昭和六十年九月

九月

一日 日曜日 関東大震災の日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

八日 日曜日 天皇と共に嚶鳴亭において、昨七日参邸の元侍従諏訪部信・同杉原正純・同斎藤誠治と御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

九日 月曜日 久邇^御親子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、典式録、卜部亮吾侍従日記

十一日 水曜日 天皇と共に、午前九時十一分那須御用邸を御出門になり、午後零時十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十三日 金曜日 正午前、天皇が国際科学技術博覧会賓客ネパール国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同妃アイシユワリヤ、並びに王姉シヤラダ及び同夫君カドガと御会見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、国王・同妃から天皇・皇后にそれぞれ銀製飾皿が贈られる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、敏達天皇千四百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌

誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 火曜日 午前、天皇が外務省賓客サウジアラビア国王王子ファイサル・ビン・ファハド・ビン・アブドウル・アジーズと御会見になる。この来訪に際し、王子から天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には金銀製扇子が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 御所離宮懇談会委員村田治郎^{京都大学名誉教授、明石工業高等専門学校名誉教授} 去る二十二日死去につき、天皇・皇后が祭綵料を賜う。○宮内庁庁報

二十七日 金曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和六十年国民たすけあい共同募金運動を行う社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○内賜(社会事業関係)、宮内庁庁報

三十日 月曜日 侍従長入江相政昨二十九日死去につき、天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従田中直を侍従長公邸に差し遣わされ、祭綵料及び生花を賜う。また、天皇・皇后が霊前に菓子・果物を賜う。なお、入江は十月一日付けにて退職する予定で、その際の賜品^{御紋付銀花瓶}もこの日伝達される。同月

二十八日に千日谷会堂にて行われる葬儀・告別式^{宮内庁・入江家合同葬、葬儀委員長宮内庁長官}に際しては、天皇・皇后が霊前に切

り花をお供えになり、葬場使として侍従小林忍を差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、恩賜録、

贈賜録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

昭和六十年十月

十月

一日 火曜日 正午過ぎ、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍従長徳川義寛・侍従次長安楽定信の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

五日 土曜日 この日、翌六日に青森県青森市松木屋デパートで開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○贈賜録

十一日 金曜日 去る九日元女子学習院教授松島彝死去につき、霊前に菓子・切り花を賜う。また十四日には天皇・皇后が祭装料を賜う。松島は大正から昭和初期にかけて日本最初の女流作曲家として活躍し、皇后をはじめ皇族方に音楽を教授した。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 この日、憲仁親王妃久子の内着帯が行われるにつき、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に万那料を御贈進になる。○贈賜録

十六日 水曜日 去る八月十二日の日本航空機墜落事故における遭難者追悼慰霊祭が、来る二十二日に大阪市東区の大坂城ホールにおいて、また二十四日に千代田区の日比谷公会堂においてそれぞれ営まれるにつき、この日、慰霊祭を主催する日本航空株式会社に対し、天皇・皇后が両会場に宛てて生花を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

十七日 木曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、

祭典録、宮内庁庁報

十一月

一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、英国における修学を終え、米国訪問を経て十月三十一日帰国した徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二日 土曜日 来る昭和六十八年に第六十一回神宮式年遷宮が行われるにつき、この年より九箇年にわたって、天皇・皇后から神宮にその資として金一封を御献進になることとなり、この日、その初年分を御献進になる。以後、昭和六十三年まで毎年御献進になる。○神宮式年遷宮、宮内庁庁報、神社本庁四十年誌、神社本庁四十五年誌

八日 金曜日 午前、天皇が第十九回日米知事会議に出席するために来日中の米国知事団を御引見になる。この来訪に際し、ハワイ州知事ジョージ・リョウイチ・アリヨシ^{団長}から天皇・皇后に献上の品があり、天皇・皇后にはパイア、皇后にはガラス化粧ケース^{ハワイの花の模様入り}が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 午後、林鳥亭において、去る三日に刊行された生物学御研究所編『那須の植物誌続編』の御完成記念祝賀の茶会が、皇后主催により開かれる。皇后は御臨席にならず、天皇お一方にてお出ましになる。宮内庁長官、侍従長以下侍従、女官長以下女官、並びに東北大学名誉教授木村有香等の植物学者が出席する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、那須の植物誌続編、卜部亮吾侍従日記

二十四日 日曜日 元式部副長松平潔^{元侍従・元侍従職事務主管}去る二十二日死去につき、天皇・皇后が霊前に菓子及

昭和六十年十一月

び切り花を賜う。翌二十五日には、天皇・皇后が祭装料を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 この度徳仁親王が英国における修学を終えて帰国するに当たり、天皇・皇后が皇太子・同妃始め皇族、元皇族等をお招きになり、連翠において御晩餐を催される。皇后は御欠席になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、典式録、宮殿行事録、東宮録、卜部亮吾侍従日記

二十八日 木曜日 この日より三十日まで開催される宮内庁職員組合文化祭の美術展に、日本画の御作品「夏の山道（葛の花）・「春光（花・桃）」を御出品になる。○重要雑録、文化祭目録、人事・雑件、読売新聞

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十九日 金曜日 正午前、天皇が公賓インド国首相ラジブ・ガンジー及び同夫人ソニア・ガンジーを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、首相から天皇・皇后に象牙の飾り壺が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

三十日 土曜日 この日、満二十歳の誕生日を迎えた文仁親王の成年式が行われる。午後、天皇がお出ましになった朝見の儀終了後、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀を、ついで女官長始め女官の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に同所において、皇太子・同妃のお礼言上を、続いて勲章を佩用した文仁親王のお礼言上をお受けになる。

文仁親王成年につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に鮮鯛代料を、文仁親王に白羽二重・洋服地・万那料・金員等を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時儀式録、重要雑録、贈賜録、宮殿行

事録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、読売新聞

十二月

二日 月曜日 崇仁親王がこの日古希を迎えるにつき、天皇・皇后よりお祝いの品等を御贈進になる。

○贈賜録

四日 水曜日 雍仁親王例祭につき、午前中吹上御所にて静かに過ごしになる。○女官日誌

九日 月曜日 夕刻、皇太子・同妃が主催する島津久永・貴子夫妻の銀婚式を祝う晩餐が吹上御所において行われ、天皇と共に御臨席になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、昭和天皇最後の侍従日記

十日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十二日 木曜日 午前、天皇と共にイノデ沢から附属邸にかけて散策され、植物を御調査になる。十

五日、十七日にも天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、卜部亮

吾侍従日記

十六日 月曜日 賢所御神楽につき、終日御用邸にて静かに過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 去る十五日のベルギー国王ボードワン一世と王妃ファビオラの結婚二十五周年記念日に当たり、同国王に対し、天皇・皇后が祝電をお送りになる。これに対し二十四日、答電がある。

昭和六十年十二月

昭和六十年十二月

○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十八日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十一分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、卜部亮吾侍従日記

十九日 木曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、内賜（社会事業関係）、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 月曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官の祝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十五日 水曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 日曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、さらに清子内親王より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、

宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、富田メモ

昭和六十一年（西暦一九八六年）

八十三歳

一月

一日 水曜日 午前十時より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王、憲仁親王・同妃久子の祝賀をお受けになる。なお新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、清子内親王、元皇族・御縁故者、宮内庁長官以下部局長等及び側近奉仕者の祝賀を天皇と共にお受けになる。この年より、新年祝賀の儀の開始時間が十五分繰り下げられ、また、皇后の御負担を考慮して、皇后は内閣総理大臣等の祝賀をお受けにならないこととされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の状態は安定しているが膝の状態は時々痛みが起きること、吹上御所内での生活は平常と変わらないことなどが発表される。○年末年始、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 木曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後四回の計七回、長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。この年は、お出ましに当たりお手振りをするのは天皇のみとされたが、六回目・七回目のお出ましの際に、皇后がお手振りをされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

昭和六十一年一月

典式録、年末年始、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報、サンケイ、ト部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

三日 金曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従

日誌、内舍人日誌、贈賜録

七日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、ト部亮吾侍従日記

十日 金曜日 午前、歌会始の儀にお出ましにならず、吹上御所においてそのテレビ中継放送を御覧になる。この年のお題は「水」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

さしのべて手にうくる水のつめたきに心やすらふ泉のほとり

○女官日誌、儀式録、昭和六十一年講書始め・歌会始めの儀、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、十月・十二月を除き概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

十四日 火曜日 元学習院教授桜井和市学校法人学習院
顧問・名誉院長 去る十二日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜

う。また霊前に菓子・切り花を賜う。桜井は昭和十四年に学習院教授に任じられ、二十二年の学習院官制廃止まで同職を務めた。学習院が同年私立大学に移行した後は、同大学教授・学習院長などを歴

任した。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

十八日 土曜日 憲仁親王妃久子着帯につき、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に万那料を御贈進になる。○贈賜録

二十日 月曜日 この日、外国大使の信任状捧呈後の御引見に関する宮内庁の内規の一部が改正される。皇后による外国大使等の御引見は昭和五十七年六月を最後に行われておらず、それ以後は大使等の記帳のみが行われていたが、この改正により、皇后が御都合により御引見になることができない場合は、宮殿での記帳をもって代替することが定められる。○皇族関係録、外交雑録、例規録、斎藤誠治業務日誌、ト部亮吾侍従日記

二十一日 火曜日 午前、天皇が公賓欧州共同体^C_E委員会委員長ジャック・ドロール及び同夫人マリ・ドロールを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、委員長より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には十七世紀頃の印刷絵画^{花や草木を描く}が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、外事・儀式、宮内庁庁報

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十六日 日曜日 天皇・皇后の御結婚記念日に際し、スペイン国王ホアン・カルロス一世及び同妃ソフィアより親電が寄せられる。これに対し、三十一日に天皇・皇后より答電をお送りになる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十七日 月曜日 天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇

昭和六十一年二月

仁親王・同妃百合子と御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十日 木曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二月

一日 土曜日 東久邇盛厚の祥月命日につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、贈賜録

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、十月・十二月を除き月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御会食・御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 水曜日 天皇と共に、午後一時十一分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十二日 水曜日 午前、天皇と共にサクラ道付近にお出ましになり、植物を御調査になる。皇后は天皇より先に御用邸へお戻りになる。十四日にも天皇と共に植物の御調査を行われる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、卜部亮吾侍従日記

十四日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十分須崎御用邸を御出門になり、三時五十九分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

この日、天皇と共に吹上御所において皇太子一家と御夕餐を御会食になる。昨六十年十一月に成年式を迎えた文仁親王へ、天皇・皇后よりお品及び万那料を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、重要雑録

十五日 土曜日 午後、吹上御所において、天皇・皇后が木にかかった白い風船を発見される。この風船は、世田谷区立旭小学校の創立百五周年を記念して同校児童が飛ばしたものであり、児童による手紙が付されていた。よって天皇・皇后は返事の手紙を書くよう侍従卜部亮吾に仰せ付けられ、手紙は十八日付で同校に送られる。○重要雑録、人事・雑件、卜部亮吾侍従日記、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

十七日 月曜日 祈年祭につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十六日 水曜日 二・二六事件の日に当たり、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌

三月

三日 月曜日 来る六日に満八十三歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日

昭和六十一年三月

本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

五日 水曜日 東久邇聡子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

六日 木曜日 満八十三歳のお誕生日を迎えられる。

午前、花の間において、宮内庁長官始め総代、及び女官長始め女官、続いて皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。ついで、同じく花の間において、清子内親王の祝賀をお受けになる。正午、正殿竹の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及びその配偶者の祝賀をお受けになる。なお、皇后の御負担を考慮し、従来は二時間であった祝賀行事が、この年から簡素化され一時間に短縮される。

午後、吹上御所において、女嬬・雑仕の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、鷹司和子、池田隆政・同夫人厚子、島津貴子と御晚餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、典式録、儀式録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の状態は安定していること、膝については時々痛みが起ころうが大事はないこと、日常の大半は吹上御所でお過ごしになっていることなどが発表される。○内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

八日 土曜日 祐子内親王の祥月命日につき、午前中、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、

内舎人日誌

憲仁親王妃久子第一王女出産につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそれぞれ三種交魚代料を、また憲仁親王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した王女は、十四日に承子と命名される。命名の儀当日に、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に鮮鯛代料を、また承子女王に鮮鯛代料を御贈進になる。○侍従職日誌、皇親録、贈賜録、宮内庁庁報、官報

十一日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

十三日 木曜日 午前、天皇と共に三井浜付近にお出ましになり、植物を御調査になる。皇后は天皇より先に御用邸へとお戻りになる。御用邸御滞在中、しばしば御用邸敷地内及びその周辺を天皇と共に御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌

十九日 水曜日 元樂長安倍季巖去る十八日死去につき、霊前に菓子を賜う。安倍は雅樂の演奏者として知られ、大正十年に宮内省式部職楽部楽師に任じられ、以降昭和二十九年より四十五年まで同部楽長を、五十年まで楽部顧問を務めた。昭和三十八年・三十九年には皇后への琴の指導にも奉仕した。

○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、芸能

二十日 木曜日 天皇と共に、午前十時八分須崎御用邸を御出門になり、午後一時三十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

二十一日 金曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

昭和六十一年四月

二十三日 日曜日 午前、孝靈天皇二千二百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官

日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 月曜日 御夕餐後、天皇と共に吹上御所において皇太子と御対面になり、同妃不例のため去る二
十二日より宮内庁

病院に入院、この
日手術を受けるの術後の経過についてお聞きになる。翌二十五日には、天皇・皇后がお見舞いとして鉢植

えの洋ランを、同妃が退院する四月八日には切り花を、それぞれ同妃の許にお届けになる。○女官日誌、

侍従日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、報道関係録、贈賜録、東宮録、人事・雑件、卜部亮吾侍従日記

四月

一日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍従中村賢二郎始め二名、及びこの度退

職する女官市村菊重の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、恩賜録、典式

録、人事・雑件、宮内庁庁報、続吹上の季節

二日 水曜日 桃華樂堂において行われた昭和六十年年度都内音楽大学東京芸術大学、桐朋学園大学、武蔵野音
楽大学、国立音楽大学、上野学園大学卒業

生演奏会の出演者九名へ、御紋付銀製スプーンを賜う。○恩賜録、人事・雑件、卜部亮吾侍従日記

三日 木曜日 午前、神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静か

にお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

この日バザーを開催する常磐会に切り花カーネーション
三百本を賜う。○贈賜録

五日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、清子内親王が立方を演じた日本舞踊鶯宿梅、
梅の役

の舞台を収録したビデオを御覧になる。これは去る三月十九日に国立劇場小劇場にて行われた花柳流若樹会発表会の模様を撮影したものである。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、行啓・お成り、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

十一日 金曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

十二日 土曜日 朝香鳩彦^{御叔父}五年式年祭につき、吹上御所にてお慎みになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十五日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の東宮侍従長重田保夫始め四名、前任の東宮侍従長山口広次始め二名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁序報

午後、天皇が林鳥亭において宮内記者会会員二十六名とお会いになり、各記者の質問にお答えになる。その中で、在位六十年を振り返り皇后との思い出について、子供の養育に尽力してくれたことを感謝していること、最近足が悪くなったことを気の毒に思っていることなどをお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇記者会見、卜部亮吾侍従日記、読売新聞

十六日 水曜日 この日、賀陽邦寿^{元賀陽宮邦寿王、昭和二十二年皇族の身分を離れ、賀陽姓を名乗る}が旅行先の台北市にて死去する。二十一日には天皇・皇后が霊前に盛花を賜う。二十三日には天皇・皇后が賜物使・枢前使として侍従卜部亮吾を豊島岡墓地参集所に差し遣わされ、天皇が神饌を、皇后が果物を、天皇・皇后が白羽二重・紳・菓

昭和六十一年四月

子をそれぞれ賜う。また天皇・皇后が賀陽治憲^{邦寿}の弟に祭資を賜う。二十四日の葬儀に際しては、天皇が勅使として侍従田中直を、皇后が皇后宮使として侍従中村賢二郎を葬場の豊島岡墓地参集所へ差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、人事・雑件、卜部亮吾侍従日記、読売新聞

十八日 金曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。続いて天皇及び皇太子・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十一日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、先般退職した元女官市村菊重及び女官長・女官、上直の侍従・侍医と御夕餐を御会食になる。五月十二日には、皇后お一方にて同所において、市村及び女官長始め女官と御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

二十九日 火曜日 天皇誕生日及び御在位六十年祝賀の儀につき、午前、石橋の間において宮内庁長官以下総代、女官長始め女官の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に松風の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に鳳凰の間において、清子内親王の祝賀をお受けになる。午後には、天皇と共に吹上御所において、女嬬・雑仕の祝賀をお受けになる。なお、今回より天皇誕生日の祝賀及び一般参賀における宮殿内の御移動には、車椅子を用いられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

天皇誕生日及び御在位六十年の一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王、正仁

親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、東宮録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

天皇と共に吹上御所において、皇太子・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃とお祝いの御夕餐を御会食になる。御会食に先立ち天皇と共に、皇太子が持参したニッポンバラタナゴ五尾^{赤坂御用地内の心字池より採集}とカラスガイ三個^{赤坂御用地内の大池より採集}を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、東宮録

天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品を贈られる。また天皇の御在位六十年に当たり、天皇・皇后が皇族・元皇族等にボンボニエールを賜う。○典式録、天皇誕生日関係、卜部亮吾侍従日記

五月

一日 木曜日 この日より十月三十一日まで第三十一回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○内賜（社会事業関係、宮内庁庁報）

七日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。なお、儀に先立つ四月には、紅葉山御養蚕所内にスロープ・手摺が設置される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外事・儀式、各小整備雑役、卜部亮吾侍従日記

九日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日初参内の承子女王^{去る三月八日誕生}及び憲仁親王・

昭和六十一年五月

同妃久子と御対面になる。女王の初参内に当たり、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に三種交魚代料を、承子女王に万那料・友禪を御贈進になる。また皇后より憲仁親王妃久子に万那料・白縮緬を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十三日 火曜日 午後、天皇が公賓英国皇太子チャールズ及び同妃ダイアナと御会見になり、宮中晩餐を催される。この来訪に際し、天皇・皇后より英国皇太子・同妃に御贈進の品があり、皇后からは同妃に洋服地紅葉山御養蚕所産の絹を用いる、白地に菊花を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈

答録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十四日 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和六十一年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日、昭和六十一年度の全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。

赤十字は、国際的な強いきずなのもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となっておりますが、日本赤十字社が国際赤十字の一員として立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の役割は、これからますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが互いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

午後、吹上御所において、大会への臨席を終えた皇太子妃の復命をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、東宮録、重要雑録、行啓・お成り、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十七日 土曜日 貞明皇后例祭につき、吹上御所にてお慎みになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典

録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二十七日より六月八日までトルコ国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、贈賜録、

宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

来る二十六日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御給桑になる。また、成長中の蚕の様子を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、卜部亮吾侍従日記

翌二十二日から二十七日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十四日にも御出品になる。

○人事・雑件、贈賜録

三十一日 土曜日 参与森永貞一郎元日本銀行総裁 昨三十日死去につき、天皇・皇后が霊前に菓子・切り花を

賜う。また天皇・皇后が賜物使として侍従卜部亮吾を森永邸に差し遣わされ、祭料及び生花を賜い、さらに六月二十七日には御紋付銀花瓶を賜う。森永は昭和五十四年より死去まで参与の任にあつた。

○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

六月

二日 月曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、新任の管理部長宮尾盤・書陵部長勝山亮・皇室

昭和六十一年六月

昭和六十一年七月

経済主管井関英男始め八名、前任の管理部長福留守始め二名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

十一日 水曜日 午前、吹上御所において、初爾搔きを行われる。○女官日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

十二日 木曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、去る八日トルコ国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十八日 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十五日 水曜日 この日より七月一日まで皇宮警察本部で開催される皇宮警察創立百周年記念文化展に、御画集『桃苑画集』・『錦芳集』を御出品になる。○行啓・お成り

二十七日 金曜日 天皇と共に、午前十時九分須崎御用邸を御出門になり、午後一時三十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

七月

一日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の皇宮警察本部長大高時男始め二名、及び前任の皇宮警察本部長宮脇磊介の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、官報、卜部亮吾侍従日記、濟寧

三日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従日誌

誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外事・儀式、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節

四日 金曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

十四日 月曜日 午前、天皇が国賓アルゼンチン国大統領ラウル・リカルド・アルフォンシンと御会見になる。この来訪に際し、大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には陶器二点が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

去る十日の大雨により甚大な被害を受けた鹿児島県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○内賜（災害お見舞い）、宮内庁庁報

十八日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。なお徳仁親王は来る二十日より二十七日まで、英国王子アンドリューとセラ・ファীগソンの結婚式に参列するため英国を訪問する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

東宮職日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 午前、天皇がネパール国王弟ギャネンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同妃コマルと御会見になる。この来訪に際し、王弟・同妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には仏具が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交雑録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、卜部亮吾侍従日記

昭和六十一年八月

この日、英国王子アンドリューとセーラ・ファーガソンの結婚につき、天皇・皇后が同国女王エリザベス二世に祝電をお送りになる。これに対し八月二十二日、女王より答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十五日 金曜日 天皇と共に、午後二時四十二分御出門になり、五時三十九分那須御用邸に行啓される。なお、この年より那須御用邸内にエレベーターが新設されたほか、邸内各所で手摺の設置・段差の除去などの改修が行われる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、計画通知、那須御用邸本邸エレベーター計画通知、各小施設宮内、施設各中庁費、各中保守、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、毎日新聞、読売新聞

二十九日 火曜日 元管理部長三井安弥^{元侍従} 昨二十八日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜い、また霊前に菓子・切り花を賜う。三井は昭和十四年に皇后宮事務官兼侍従となり二十一年まで侍従を務め、その後は書陵部長・管理部長等を務めた。○恩賜録、贈賜録、人事・雑件、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭につき、御用邸において御遙拝になる。また、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

八月

六日 水曜日 広島原爆の日につき、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

八日 金曜日 この度の台風十号に伴う大雨により甚大な被害を受けた宮城県・福島県・栃木県・茨

城県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○内賜（災害お見舞い）、宮内庁庁報

九日 土曜日 長崎原爆の日につき、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十一日 月曜日 北白川房子の祥月命日につき、終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

来る十三日より二十三日までマレーシア国・シンガポール国・タイ国を旅行する文仁親王に、天皇・皇后より万那料・お品料を御贈進になる。○贈賜録、宮内庁庁報

十二日 火曜日 ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロッテより去る四日に発せられた、大公の孫ルイ誕生を報じる電報を天皇・皇后がお受けになる。これに対しこの日、天皇・皇后が祝意を表する答電をお送りになる。○上奏モノ控簿、外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十五日 金曜日 終戦記念日につき、終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。この日政府主催の全国戦没者追悼式が行われるに当たり、去る十三日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。なお、天皇は同追悼式に御臨席になるため、去る十三日に皇居に還幸され、二十日に再び御用邸に行幸される。○女官日誌、恩賜録、宮内庁庁報

九月

一日 月曜日 関東大震災の日に当たり、お出ましをお控えになる。○女官日誌、侍従日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

昭和六十一年九月

四日 木曜日 来る二十日から開催される第十回アジア競技大会大韓民国ソウル特別市を中心に開催につき、天皇・皇后が御奨励のため財団法人日本体育協会に金一封を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

七日 日曜日 陽光太上天皇正親町天皇の第一皇子誠仁親王、薨後陽光院と号せられ太上天皇の尊号を贈られる 四百年式年祭につき、終日、御用邸にて静

かにお過ごしになる。○女官日誌、続吹上の季節

九日 火曜日 久邇親子御母三十年式年祭につき、お出ましをお控えになり、皇后宮使として女官長に

久邇邸の霊舎及び豊島岡墓地の墓所への御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后が菓子・櫛を霊舎に、櫛を墓所にお供えになる。さらに、皇后が切り花・菓子を写真に、果物を墓所にお供えになる。

この他、天皇・皇后が久邇邦昭御甥・大谷智子御妹・東伏見慈治御弟にお尋ねとして菓子を賜う。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、贈賜録、続吹上の季節

十日 水曜日 天皇と共に、午前九時十二分那須御用邸を御出門になり、午後零時十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所

日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、一昨九日喜寿の誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。また同妃へ、天皇・皇后より万那料・洋服地紅葉山御養蚕所産等を御贈進になる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十二日 金曜日 午前、天皇が公賓ビルマ国首相マウン・マウン・カを御引見になり、ついで宮中午餐を催される。この来訪に際し、首相から天皇・皇后へ献上の品があり、皇后へはネックレスとブロー

チが献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十六日 火曜日 午前、天皇が国賓ニジエール国最高軍事評議会議長セイニ・クンチエと御会見になる。この来訪に際し、議長から天皇・皇后へ御贈進の品があり、皇后にはニジエール国の地方の各地方自治体の銀製紋章^{三十}一個が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、

ニジエール／フィンランド、恩賜録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

元侍従職御用掛武者小路不二子去る十四日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜う。また、天皇・皇后が菓子を、皇后が切り花を霊前に賜う。武者小路は、昭和三十七年から四十九年まで宮内庁御用掛^{侍従}を、その後五十二年まで侍従職御用掛を務め、皇后のフランス語通訳・指導に奉仕した。四十六年の天皇・皇后御訪欧の際には、皇后のフランス語通訳を務めた。○贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従

日記

二十三日 火曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日

誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和六十一年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○内賜（社会事業関係）、宮内庁庁報

昭和六十一年十月

十月

一日 水曜日 午前、天皇が国賓フィンランド国大統領マウノ・ヘンリック・コイヴィスト及び同夫人タイミ・テッレルヴオ・コイヴィストと御会見になる。この来訪に際し、夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后へは縞文ガラス花瓶スー・タヤルヴィ製、オイが贈られる。また、天皇・皇后より大統領に有田焼飾皿色鍋島薄墨、菊水仙文を、同夫人に銀製宝石箱を御贈進になる。なお大統領夫妻の入京に際し、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、ニジエール／フィランド、外賓参内録、恩賜録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報、外国からのごあいさつ

この日より十一月十三日まで、腰・膝の痛みのため、吹上御所において御静養になる。宮内庁より皇后の御様子について、十六日には、大事ではないが腰痛のためしばらく御散策や行事へのお出ましはないことが、二十四日及び十二月十八日には、引き続き御静養中であるが経過は順調であることが発表される。なお、この年は十一月十四日以降もお出ましをお控えになり、概ね吹上御所内でお過ごしになる。○女官日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、報道関係発表資料、年末年始、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節、昭和天皇最後の侍従日記

十二日 日曜日 午後、吹上御所において、山梨県にて開催される第四十一回国民体育大会秋季大会開会式のテレビ中継放送を御覧になる。なお、天皇は前日より同県に行幸十四日還幸され、開会式に御臨場になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十五日 水曜日 午前、天皇が公賓シンガポール国首相リー・クアン・ユー及び同夫人を御引見にな

り、続いて宮中午餐を催される。この来訪に際し、首相夫妻から天皇・皇后へ書が献上され、皇后へはランの切り花が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮内庁庁報
二十三日 木曜日 翌二十四日から二十七日まで山口県宇部市において開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭で御栽培のバラを御出品になる。○贈賜録

十一月

十日 月曜日 午後、天皇が国賓フィリピン国大統領コラソン・コファンコ・アキノと御会見になる。

この来訪に際し、大統領より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはテーブルクロスバイナップルの葉の繊維製・貝

製食器・貝製櫃櫃面に貝を貼るが贈られる。また、大統領の入京に際し、皇后より花束を御贈進になる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、恩賜録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

十二日 水曜日 午前、病氣療養中の宣仁親王をお見舞いのため、天皇お一方にて高松宮邸へ行幸される。この行幸に際し、天皇・皇后より親王にお品を、親王・同妃喜久子に菓子を御贈進になる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、高松宮宣仁親王

二十八日 金曜日 去る十月二十八日に喜寿の誕生日を迎えた桃山虔一元公族 李健公に、天皇・皇后がお品及

び万那料を賜う。○贈賜録

昭和六十一年十二月

十二月

一日 月曜日 午前、天皇が国賓メキシコ国大統領ミゲル・デラマドリ・ウルタード及び同夫人パロマ・コルデロ・デラマドリと御会見になる。この来訪に際し、大統領夫妻より天皇・皇后へ御贈進の品があり、皇后へは銀製物入れが贈られる。また、天皇・皇后から大統領へ九谷焼飾皿極彩色小紋に花絵文様を、同夫人へ沈金宝石箱春秋をそれぞれ御贈進になる。なお大統領夫妻の入京に際し、皇后より大統領夫人へ花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

元皇室経済主管塚越虎男去る十一月二十八日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜い、また霊前に菓子を賜う。塚越は、昭和二十年九月より二十三年まで内蔵頭、同年より二十五年までは皇室経済主管として、皇室経済法などの制定に関わった。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二日 火曜日 この日、憲仁親王・同妃久子及び承子女王が赤坂御用地内に新営される高円宮邸昨六十年八月より起工、去る十月三十日落成式を行うに移転するにつき、天皇・皇后よりお品を御贈進になる。○贈賜録、皇親録、高円宮邸新築工事式典録、恩賜録、官報

三日 水曜日 去る十一月二十一日、三原山伊豆大島における大規模な噴火によつて甚大な被害が生じた東京都に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○内賜（災害お見舞い）、宮内庁庁報

この日白寿の誕生日を迎えた東久邇稔彦に、天皇・皇后がお品及び万那料を賜う。○贈賜録

四日 木曜日 雍仁親王例祭につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、典式録

この日より六日まで開催される宮内庁職員組合文化祭の美術展に、日本画の御作品「那須の湿地―さぎそう」・「高原の夏―えぞあじさい」を御出品になる。なお、同展への御出品はこの年が最後となる。

○重要雑録、人事・雑件、文化祭目録、読売新聞、香淳皇后のご生涯と作品、香淳皇后の御絵と画伯たち

七日 日曜日 久邇朝融^御の祥月命日につき、午前中、吹上御所にてお慎みになる。○女官日誌、侍従職日誌

誌

九日 火曜日 駐日デンマーク国特命全権大使フランツ・ボナヴェントゥラ・ホヴィツ昨八日死去につき、天皇・皇后が弔問使として侍従鈴木武を同国大使館に差し遣わされ、弔意をお伝えになる。十二日に東京カテドラル聖マリア大聖堂において行われる告別式には、天皇・皇后が花環をお供えになる。ホヴィツは、この年五月より同国特命全権大使として本邦へ赴任していた。○侍従日誌、侍従職日誌、

外交慶弔録、外交贈答録、恩賜録

十三日 土曜日 元禁衛府長官後藤光蔵昨十二日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜う。後藤は昭和九年から十三年まで侍従武官を務めたほか、二十年九月から二十一年一月まで禁衛府長官の任にあつた。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 賢所御神楽につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、内賜（社会事業関

昭和六十一年十二月

係)、宮内庁庁報、事業年報(日本赤十字社)

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

昭和六十二年（西暦一九八七年）

八十四歳

一月

一日 木曜日 午前十時より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子・宜仁親王、憲仁親王・同妃久子の祝賀をお受けになる。なお新年祝賀の儀に先立ち、清子内親王、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の祝賀を天皇と共にお受けになる。この年以降、皇后は元皇族・御縁故者の祝賀をお受けにならないこととされる。また、皇后の新年祝賀の儀へのお出ましは、この年が最後となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始、新年祝賀の儀・一般参賀、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報、ト部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、続吹上の季節

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、昨六十一年十月に腰の筋を痛められ療養中であるが、経過は良く歩行練習は順調に進んでいること、車の乗り降りの訓練以外戸外へ出られることはお控えになっていることなどが発表される。○年末年始、皇太后陛下御健康、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 金曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後二回の計五回のうち、二回目・三回目のみ、長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。なお、皇后の新年一般参賀へのお出ましは、

昭和六十二年一月

この年が最後となる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始、新年祝賀の儀・一般参賀、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節

三日 土曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、儀式録、祭典録、宮内庁庁報

九日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

十三日 火曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は御欠席になる。この年のお題は「木」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

あたたかき光さしそふ伊豆の丘木々の梢は萌えそめにけり

○儀式録、昭和六十二年講書始め・歌会始めの儀、年末年始、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節

十四日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、月に二、三回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 月曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、崇仁親王・同妃百合子

と御対面になり、寒中の挨拶をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌

二十二日 木曜日 正倉院懇談会会員岸俊男京都大学
名誉教授 昨二十一日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 天皇が病氣療養中の宣仁親王をお見舞いになるため、高松宮邸に行幸される。この行幸に際し、天皇・皇后より親王に膝掛を、親王・同妃喜久子に果物を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、富田メモ、卜部亮吾侍従日記、吹上の季節

二月

二日 月曜日 宣仁親王が去る一月二十七日より日本赤十字社医療センターに入院中のため、この日、天皇・皇后が来る四日より予定されていた須崎御用邸への行幸啓をお取りやめになる。○侍従日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、卜部亮吾侍従日記

三日 火曜日 午後一時十分、宣仁親王が日本赤十字社医療センターにおいて薨去する。宣仁親王薨去につき、天皇・皇后が霊前に果物・菓子・盛花を賜う。また、この日より三月四日まで三十日第一期
十日、

第二期
二十日 服喪される。

宣仁親王は、大正天皇の第三皇子で、御母は貞明皇后である。明治三十八年一月三日に誕生し、光宮と称する。大正二年七月、勅旨により高松宮の称号を下賜され、有栖川宮の祭祀を継承する。十三年

昭和六十二年二月

海軍兵学校を卒業、少尉候補生となり、以後累進して海軍大佐に至る。戦後は日仏協会総裁などを務め国際親善に尽力したほか、医療福祉やスポーツの発展にも力を注ぎ、各種団体の役職に就任する。

胸部に疾患が発見されたのは昨六十一年のことであり、以後療養に努めたが、この日、右肺上葉肺癌のため薨去する。享年八十二。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、

宣仁親王喪儀関係綴、行事録、恒例祭祀録、庁規則規程諸綴、墓誌銘録、贈賜録、重要雑録、宮内庁庁報、官報、富田メモ、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節、高松宮宣仁親王、菊と葵のものがたり、高松宮宣仁親王殿下をお偲びして、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

四日 水曜日 宣仁親王の薨去を承け、午前、天皇と共に吹上御所において、宮内庁長官・宮内庁次長より職員総代としての拝謁をお受けになる。その後、天皇と共に同所において、正仁親王・同妃華子、続いて皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、富田メモ、卜部亮吾侍従日記

天皇と共に、午後三時御出門になり、高松宮邸に行啓される。御到着後、故宣仁親王妃喜久子の先導にて寝室に進まれ、同室に安置された宣仁親王の遺骸と御対面になる。三時四十五分還啓される。この日、五時過ぎより高松宮邸において御舟入の儀が行われる。同儀に際し、天皇・皇后が霊前に菓子・切り花を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、

行事録、重要雑録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、高松宮宣仁親王

五日 木曜日 天皇・皇后が故宣仁親王の霊前に盛花を賜う。また翌六日には果物を、七日には盛花を賜う。○重要雑録

八日 日曜日 午後二時より高松宮邸において、故宣仁親王の正寝移柩の儀が行われる。同儀に際し、皇后が霊前に切り花を賜う。○侍従日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、行事録、重要雑録、卜部亮吾侍従日記、高松宮宣仁親王

九日 月曜日 午前、天皇・皇后が賜物使として侍従田中直を高松宮邸に差し遣わされ、故宣仁親王妃喜久子に祭資等を賜う。この日、午後五時三十分より高松宮邸において霊代安置の儀が行われる。同儀に際し、皇后が侍従中村賢二郎を差し遣わされ、霊前に柿・果物・白羽二重を賜う。また別に、天皇・皇后が霊前に菓子をも、皇后が切り花を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、重要雑録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、高松宮宣仁親王

十日 火曜日 午前、高松宮邸において故宣仁親王の斂葬当日柩前祭の儀が行われるに際し、皇后が侍従樋口英昭を同邸に差し遣わされる。続いて豊島岡墓地において斂葬の儀葬場の儀が行われるにつき、皇后が侍従次長安楽定信を同所に差し遣わされる。両儀に際し、天皇・皇后が玉串をお供えになる。また天皇・皇后が霊前に菓子をも。この日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、重要雑録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、高松宮宣仁親王

十一日 水曜日 午前、高松宮邸において故宣仁親王の斂葬後一日権舎祭の儀が行われるに際し、天皇・皇后が権舎に菓子をお供えになる。この日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○侍従日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、重要雑録、宮内庁庁報、高松宮宣仁親王

十二日 木曜日 午前、高松宮邸において故宣仁親王の権舎十日祭の儀が行われるに際し、天皇・皇

昭和六十二年三月

后が権舎に櫛・菓子をお供えになる。○女官日誌、侍従日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、重要雑録、

宮内庁庁報、高松宮宣仁親王

十三日 金曜日 午前、天皇が故雍仁親王妃勢津子、及び崇仁親王・同妃百合子の許に侍従長徳川義寛を差し遣わされ、天皇・皇后より故雍仁親王妃・崇仁親王にそれぞれ洋服地を御贈進になる。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、富田メモ、続吹上の季節

十七日 火曜日 東京大学名誉教授坂本太郎昨十六日死去につき、天皇・皇后が祭装料を賜う。また、

正倉院懇談会会員を二十九年十箇月<sup>前身の正倉院評議会、
会員の期間を含む</sup>書陵部委員を三十八年、陵墓管理委員を九年十箇

月にわたって務めるなど多大の尽力があつたため、特に天皇・皇后がお品を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

二十二日 日曜日 午前、高松宮邸において故宣仁親王の権舎二十日祭の儀が、また午後には、豊島

岡墓地において墓所二十日祭の儀が行われるにつき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、宮内庁庁報

三月

四日 水曜日 午前、高松宮邸において故宣仁親王の権舎三十日祭の儀が、また午後には、豊島岡墓地において墓所三十日祭の儀が行われるにつき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

五日 木曜日 午前、宣仁親王薨去に伴う天皇・皇后の御喪明けにつき、吹上御所において御祓除の儀が行われる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌

翌六日に満八十四歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い七千七十本を賜う。○侍従職日誌、贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

六日 金曜日 満八十四歳のお誕生日を迎えられる。

午前、花の間において、宮内庁長官始め総代、及び女官長始め女官、続いて皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。ついで、同じく花の間において、清子内親王の祝賀をお受けになる。その後、吹上御所において、女嬬・雑仕の祝賀をお受けになる。

夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、鷹司和子、池田隆政・同夫人厚子、島津貴子と御晚餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、

吹上御所仕人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、富田メモ、卜部亮吾侍従日記

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、昨六十一年十月に痛められた腰の筋は順調に回復されたこと、御所内では以前の御生活に戻られたこと、右膝の状態が悪く足を引きずられる感じであることなどが発表される。○雑件・人事、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 土曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、来る十日より二十五日までネパール国・ブータン国・インド国を訪問する徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、恩賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

八日 日曜日 祐子内親王の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、卜部亮吾侍従日記

昭和六十二年三月

九日 月曜日 夕刻、天皇が公賓モロッコ国皇太子シディ・モハメッドと御会見になり、宮中晚餐を催される。この来訪に際し、同国皇太子より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には、鹿の置物が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、モロッコ／ポーランド、宮殿行事録、外交贈答録、

宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

承子女王の初節句につき、天皇・皇后より憲仁親王・同妃久子に三種交魚代料を、承子女王に三種交魚代料・御台人形代料を御贈進になる。○贈賜録

この日、宮内庁より、皇后が将来車椅子をお使いになる場合に備えて造られた特別仕様の御料車が公開される。○雑件・人事、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

十一日 水曜日 天皇と共に、午後一時十四分御出門になり、四時四十六分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十四日 土曜日 午前、高松宮邸において故宣仁親王の権舎四十日祭の儀が行われるにつき、天皇・皇后が権舎に菓子・切り花をお供えになる。また午後には、豊島岡墓地において墓所四十日祭の儀が行われる。両儀が行われるにつき、御用邸にてお慎みになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録

十六日 月曜日 午前、天皇と共に三井浜にお出ましになり、植物を御調査になる。二十三日にも天皇と共に植物を御調査になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、続吹上の季節

二十四日 火曜日 午前、故宣仁親王の権舎五十日祭の儀につき、皇后が侍従樋口英昭を高松宮邸に差し遣わされる。また天皇・皇后が権舎に榊・菓子をお供えになる。午後には、墓所五十日祭の儀に

つき、皇后が侍従鈴木武を豊島岡墓地に差し遣わされる。また天皇・皇后が墓所に柵をお供えになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、宮内庁序報、ト部亮吾侍従日記

二十五日 水曜日 天皇と共に、午前十時十二分須崎御用邸を御出門になり、午後一時三十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報、富田メモ、ト部亮吾侍従日記

四月

二日 木曜日 桃華樂堂においてこの日行われた昭和六十一年度音楽大学卒業生演奏会の出演者十名に、御紋付銀製スプーンを賜う。○恩賜録

三日 金曜日 神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

五日 日曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花^{カーネーション}_{ン三百本}を賜う。○贈賜録

十一日 土曜日 昭憲皇太后の祥月命日並びに賀陽邦寿の一周年祭につき、吹上御所にてお慎みになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十五日 水曜日 病氣療養中の閑院純仁に対し、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を賜う。閑院は去る三月十三日に日本赤十字社医療センターに入院し、一昨十三日に退院した。○侍従日誌、贈賜録、旧皇族雑録、ト部亮吾侍従日記

昭和六十二年四月

昭和六十二年五月

十八日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 午後、天皇が林鳥亭において宮内記者会会員二十七名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、皇后の最近の御様子についての質問に関して、天気の良い日には少しづつ外へ出られるようになったこと、腰や膝の具合が良くないので車の乗り降りに苦労されていること、一緒にいる時はなるべく皇后のペースに合わせるよう心掛けていることなどをお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、天皇記者会見、昭和天皇と私達、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二十九日 水曜日 天皇誕生日祝賀の儀について、皇后のお出ましはお取りやめとなる。天皇誕生日一般参賀については、午前十時四十分の二回目のみ、長和殿ベランダにお出ましになり、天皇及び皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王、正仁親王・同妃華子と共に、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。天皇誕生日一般参賀への皇后のお出ましは、この年が最後となる。また、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、天皇誕生日祝賀の儀・一般参賀、天皇誕生日、東宮録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

五月

一日 金曜日 この日より十月三十一日まで第三十二回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日

本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○内賜（社会事業関係）、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式、卜部亮吾侍従日記、東京新聞

八日 金曜日 午後、吹上御所において、この日勲二等に叙された侍医長星川光正の拝謁をお受けになる。○女官日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

十三日 水曜日 午前、故宣仁親王の権舎百日祭の儀につき、皇后宮使として侍従鈴木武を高松宮邸に差し遣わされる。また午後には、墓所百日祭の儀につき、皇后宮使として侍従樋口英昭を豊島岡墓地に差し遣わされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、行事録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十五日 金曜日 昨十四日スペイン国王ホアン・カルロス一世の結婚二十五年記念日につき、この日、天皇・皇后が同国王に祝電をお送りになる。これに対し六月五日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十七日 日曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 この日、翌二十一日から二十六日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十三日にも御出品になる。○贈賜録

二十一日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。御養蚕所主任神戸礼二郎の説明をお受

昭和六十二年五月

けになり、御給桑になる。ついで野蚕を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記
来る二十五日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天
皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 書陵部委員山岸徳平<sup>東京教育大
学名誉教授</sup>この日死去につき、天皇・皇后が祭装料を賜う。○賜
与録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 用明天皇千四百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式
録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和六十二年度全国赤十字大会に、御名代として皇
太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日、昭和六十二年度の全国赤十字大会が盛大に開かれ、また、日本赤十字社が創立百年を
迎えたことを、大変うれしく思います。

赤十字は、国際的な強いきずなのもとに、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉
増進のために大きな力となっておりますが、日本赤十字社が国際赤十字の一員として立派にその
使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の任務は、今後ますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが互いに
力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

○幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

六月

一日 月曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この日新たに侍医長に任じられた高木顕、及び侍医長を退職した星川光正の拝謁をお受けになる。退職につき天皇・皇后から星川に賜品がある。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、賜与録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

三日 水曜日 顕宗天皇千五百年式年祭につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

九日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、翌十日より二十日までブルガリア国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、皇親録、贈賜録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 午前、吹上御所において、初繭搔きをされる。○女官日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌

夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る一日に退職した前侍医長星川光正の拝謁をお受けになった後、同人及び侍従長・侍従・侍医長・女官長・女官と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十七日 水曜日 天皇と共に、午後一時十一分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十五日 木曜日 天皇と共に、午前十時十二分須崎御用邸を御出門になり、午後一時三十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、

昭和六十二年六月

ト部亮吾侍従日記

東京プリンスホテルにおいて開催の第三十一回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に、御名代として皇太子妃を差し遣わされる。元武蔵野赤十字病院看護部長大嶽康子^{日本赤十字武蔵野女子短期大学教授}、元稲城市立病院総看護婦長作本シズキ、元大阪赤十字病院看護副部長早川かつ^{学校法人藍野学院理事}の三名にナイチンゲール章記及び記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日ここに、第三十一回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式が行われますことを、大変うれしく思います。

このたび、大嶽康子、作本シズキ、早川かつの三名の方々が、赤十字国際委員会から、看護婦として最高の名譽であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる献身的努力のたまものであり、誠に喜ばしいことであります。

受章された方々を始め看護婦の皆さんは、今後も健康に留意され、博愛と人道のため、看護の道に力を尽くされるよう希望してやみません。

○幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十八日 日曜日 朝融王妃知子女王四十年式年祭につき、豊島岡墓地の墓所の御代拝を女官小野慰子に仰せ付けられる。また、霊舎に切り花をお供えになり、さらに、お尋ねとして久邇邦昭^{知子女王の子息、皇后の甥}に菓子を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 月曜日 午前、天皇が国賓ポーランド国国家評議会議長ヴォイチエフ・ヤルゼルスキ及び

同夫人バルバラ・ヤルゼルスカと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より議長に七宝花瓶紫紺縁付。
梅文、議長夫人に七宝宝石箱正倉院文を御贈進になる。また議長より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后

にはクリスタルガラスのデイナーセットが贈られる。なお、議長夫妻が入京した際に、皇后より議長夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、外賓参内録、モロッコ／ポランド、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

来る七月一日、米国アラスカ州アリュシャン列島アツツ島において、厚生省主催の北太平洋戦没者の碑竣工・追悼式が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

七月

二日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所へお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式、ト部亮吾侍従日記、東京新聞

三日 金曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賜与録、ト部亮吾侍従日記

十三日 月曜日 この日、天皇が公賓。パキスタン国首相モハマッド・カーン・ジュネジョを御引見になり、宮中午餐を催される。この来訪に際し、同国首相から天皇・皇后へ献上の品があり、皇后には洋服地織物・民芸風の織物が献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、外事（電報舎）、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

十五日 水曜日 天皇と共に、午前九時三十九分御出門になり、午後零時三十八分那須御用邸に行啓

昭和六十二年八月

される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、富田メモ、ト部亮吾侍従日記

二十三日 木曜日 東久邇成子の祥月命日につき、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

八月

一日 土曜日 午後、天皇と共に謁見所において、新任の侍従井原好英及び前任の侍従鈴木武の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

十日 月曜日 元内閣総理大臣岸信介去る七日死去につき、この日港区の増上寺にて行われる通夜に天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従ト部亮吾を差し遣わされ、祭装料及び生花を賜う。九月十七日には、天皇・皇后が日本武道館において執り行われる内閣・自由民主党合同葬儀に葬場使として侍従田中直を差し遣わされる。なお合同葬儀に先立ち、同月十四日に天皇・皇后が合同葬儀委員長内閣総理大臣中曽根康弘に生花目録を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、岸信介葬儀関係綴、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記、故岸信介内閣・自由民主党合同葬儀記録、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

十一日 火曜日 山階武彦^{菊麿王の第一王子}の昨日死去につき、山階邸に天皇・皇后が弔問使として侍従小林忍を差し遣わされる。また天皇・皇后が柩前に盛花を賜う。十六日には、豊島岡墓地参集所で行われる通夜に天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従樋口英昭を差し遣わされ、霊前に白羽二重・紳・菓子^{武彦の弟}を賜い、別に皇后が果物を賜う。また天皇・皇后が山階芳麿^{武彦の弟}に祭資を賜う。十七日には、豊島岡墓

地参集所で行われる葬儀に皇后が葬場使として侍従卜部亮吾を差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、贈賜録、墓誌銘録、雑件・人事、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

十五日 土曜日 全国戦没者追悼式のテレビ中継放送を御覧になり、黙禱される。同追悼式が行われるに当たり、去る十二日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。なお、同追悼式に御臨席になるため、天皇はお一方にて昨十四日に皇居に還幸され、十八日には再び御用邸に行幸される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、恩賜録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁序報、卜部亮吾侍従日記

九月

一日 火曜日 関東大震災の日に当たり、午前中、お出ましをお控えになる。○女官日誌

八日 火曜日 午前、天皇が御用邸御車寄前において宮内記者会会員二十七名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、皇后の御様子について、四月二十一日の記者会への御回答と変わらないことをお答えになる。なお、昨七日には、皇后について、体調は安定していること、御用邸では内庭を二、三十分程度散策されることなどが、宮内庁より発表される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、天皇記者会見、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

皇居宮殿の千鳥の間・千種の間において、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選が行われ、議員に崇仁親王と皇太子が、予備議員に正仁親王と故雍仁親王妃勢津子が当選する。皇后は不在者投

昭和六十二年九月

票を行う旨を八月三十一日に届け出られ、あらかじめ投票をお済ませになった。正午前、天皇と共に御用邸において、侍従より互選の結果についての報告をお受けになる。○内舎人日誌、重要雑録、皇室会議皇族議員互選録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

九日 水曜日 久邇^御親子の祥月命日につき、終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、内

舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、卜部亮吾侍従日記

十一日 金曜日 天皇と共に、午前九時十分那須御用邸を御出門になり、午後零時十二分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、吹上の季節

十四日 月曜日 書陵部委員陵墓管理委員宝月圭吾昨十三日死去につき、天皇・皇后が祭料を賜う。

宝月は、昭和四十八年より書陵部委員を務め、加えて五十二年より陵墓管理委員を務めた。○賜与録、

宮内庁庁報

二十一日 月曜日 午前、光孝天皇千百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、

典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 水曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、侍従長・女官長により、昨二十二日より手術のため御入院中の天皇の御病室に皇后がお描きになった花の絵が飾り付けられる。○侍従日誌、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、毎日新聞

二十四日 木曜日 この日、皇太子が天皇に代わり、公賓タイ国皇太子ワチラロンコンと会見を行い、

宮中午餐を催す。この来訪に際し、同国皇太子から天皇・皇后に、陶製壺・同国皇太子の写真集 *His Royal Highness Crown Prince Maha Vajiralongkorn of Thailand* が贈られる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和六十二年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○内賜（社会事業関係）、宮内庁庁報

十月

二日 金曜日 午後、吹上御所において、翌三日より十日まで米国を訪問する皇太子・同妃と御対面になり、出発の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、贈賜録、宮内庁庁報

七日 水曜日 午後、宮内庁病院を退院された天皇を、吹上御所御居間前においてお出迎えになる。

その際、天皇が皇后の御手を握られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、昭和天皇御病情発表記録、昭和天皇大喪儀記録、新聞記事、報道関係録、富田メモ、ト部亮吾侍従日記、続吹上の季節、回想の昭和、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

十二日 月曜日 午前、吹上御所において、去る十日に米国訪問から帰国した皇太子・同妃と御対面になる。○女官日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、昭和天皇御病情発表記録、恩賜録、贈賜録

十三日 火曜日 正午前、皇太子が天皇に代わり、ノルウェー国皇太子ハラルド及び同妃ソニアのために宮中午餐を催す。この来訪に際し、同国皇太子・同妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后

昭和六十二年十一月

には花瓶が贈られる。○侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、外賓参内録、外交贈答録、東宮録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

十五日 木曜日 この日、翌十六日より二十一日まで大阪市阪急百貨店において開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。

○贈賜録

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた皇太子妃と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、昭和天皇御病情発表記録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

二十四日 土曜日 第四十二回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情御視察のため、天皇が翌二十五日まで御名代として皇太子を同妃同伴にて沖縄県に差し遣わされる。この日午後、皇太子が国立沖縄戦没者墓苑を拝礼するに際し、天皇・皇后が沖縄県に生花を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、東宮職日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十一月

四日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る六日より十三日までドイツ連邦共和国を訪問する徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、ト部

亮吾侍従日記

十一日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、翌十二日より十五日まで沖縄県に行啓する皇太子・同妃と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報、卜部亮吾侍従日記

十四日 土曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、昨十三日にドイツ連邦共和国から帰国した徳仁親王と御対面になり、帰国の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、恩賜録、贈賜録、報道関係録、宮内庁序報、続吹上の季節

十八日 水曜日 去る二日に東京都済生会中央病院に入院し療養中の鷹司和子に対し、天皇・皇后が菓子及びバラ吹上御苑産を賜う。○贈賜録、富田メモ、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞

十二月

三日 木曜日 この日満百歳の誕生日を迎えた東久邇稔彦に対し、天皇・皇后がお品・万那料・菓子を賜う。○贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十一日 金曜日 正午過ぎ、軽い心臓発作を起こされるも、短時間で回復される。なお、このことが翌六十三年一月二十三日の毎日新聞ほか各紙に掲載される。これに対し宮内庁より、現在は御異常のないことが発表される。○新聞記事、富田メモ、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

十四日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る八月に転出した元侍従鈴木武の拝謁をお

昭和六十二年十二月

受けになる。○女官日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十五日 火曜日 賢所御神楽につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 水曜日 この日、参議院決算委員会において、佐藤三吾議員から皇后の健康状態に関する報道などについて質問がなされる。これに対し、宮内庁次長山本悟が、皇后は御高齢のため老人特有のいろいろな状況がある場合がよくおありになること、日によってはお体が動かない場合があること、日常の御生活はきちんとされていることなどを答弁する。○重要雑録、国会会議録、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞

十八日 金曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、内賜（社会事業関係）、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた皇太子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮職日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十五日 金曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 午前、吹上御所において、皇太子・同妃より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

昭和六十三年（西暦一九八八年）

八十五歳

一月

一日 金曜日 この年、皇后は新年祝賀の儀にお出ましにならず、吹上御所においてお過ごしになる。正午前、吹上御所において、新年祝賀の儀への参列を終えた皇太子・同妃と御対面になり、祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、新年祝賀の儀・一般参賀、宮内庁庁報、官報、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰・膝の状態が以前よりも悪いため、歩行等の御動作が難しく女官の介添えが必要であること、最近では御散策はなく吹上御所内の御移動が多いこと、行事にはお出ましになつていないことなどが発表される。○年末年始、朝日新聞、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞

この日、天皇が宜仁親王に桂^{かつらのみや}宮の称号を賜う。新宮家創立につき天皇・皇后が、昨六十二年十二月二十八日に崇仁親王に鮮鯛代料・清酒を、宜仁親王に万那料等を、また翌二十九日に三笠宮・宜仁親王にそれぞれ金員を賜う。○宜仁親王殿下桂宮御創立、宮内庁庁報、官報

二日 土曜日 午前、吹上御所において、侍従長徳川義寛・侍従次長安楽定信の祝賀をお受けになる。なお、皇后はこの日の新年一般参賀にはお出ましにならず、吹上御所においてお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮内庁庁報、官報、昭和天皇最後の百十一日、朝日新聞、サンケイ、読売新聞

昭和六十三年一月

昭和六十三年一月

三日 日曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、翌七日より十四日までタイ国を訪問する正仁親王・同妃華子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、皇親録、贈賜録、宮内庁庁報

十一日 月曜日 池田宣政^{池田厚子の義父} 去る九日死去につき、天皇・皇后が霊前に果物・切り花を賜う。三十日に岡山市において行われる葬儀に際しては、天皇・皇后が霊前に榊・菓子^{池田隆政に祭資を賜う。}を賜う。○贈賜録、新聞記事、卜部亮吾侍従日記

十二日 火曜日 午前、歌会始の儀にお出ましにならず、天皇^{御体調に配慮して儀を御欠席}と共に吹上御所においてそのテレビ中継放送を御覧になる。この年より、皇后の同儀への御歌詠進は行われなくなる。なお、儀に先立ち昨六十二年十二月に、宮内庁より皇后は同儀に御歌をお出しにならないことが発表される。

○女官日誌、侍従日誌、儀式録、年末年始、宮内庁庁報、官報、昭和天皇最後の侍従日記

十六日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、去る十四日タイ国訪問より帰国した正仁親王・同妃華子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、宮内庁庁報、毎日新聞

十八日 月曜日 午前、吹上御所において、新任の侍従菅原直紀及び前任の侍従樋口英昭の拝謁を受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、典式録、賜与録、贈賜録、人事・雑件、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

正倉院懇談会会員内藤四郎<sup>東京芸術大
学名誉教授</sup> 去る十二日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜う。また、皇后が

霊前に切り花を賜う。内藤は、彫金家として御物の修理調査や宮殿造営等に尽力し、昭和五十三年より死去まで正倉院懇談会会員を務めた。また、天皇・皇后が皇太子等の銀婚式に際して御贈進になった銀製品や、皇后の満八十歳のお誕生日に際して宮内庁職員の有志が献上した銀筆筒を制作した。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、故宣仁親王妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の挨拶をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後この年は、九月まで毎週金曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、東宮録、行啓・お成り、新聞記事

三十日 土曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二月

三日 水曜日 故宣仁親王の権舎一周年祭の儀及び墓所一周年祭の儀につき、天皇が権舎に侍従卜部

昭和六十三年二月

亮吾、墓所に侍従田中直を、皇后が権舎に侍従中村賢二郎、墓所に侍従小林忍をそれぞれ差し遣わされ、拝礼させられる。また天皇・皇后が権舎に櫛・菓子を、墓所に櫛をお供えになり、別に皇后が故親王の写真に切り花・果物をお供えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、宣仁親王殿下御葬儀関係、新聞記事、宮内庁庁報、続吹上の季節

四日 木曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

五日 金曜日 午後、吹上御所において、天皇と共に正仁親王・同妃華子と御対面になる。以後、この年は、九月まで月に一、二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌

十九日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において鷹司和子と御対面になり、お見舞いのお礼を受けになる。和子は昨六十二年十一月に東京都済生会中央病院に入院し手術を受けていた。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、新聞記事

二十一日 日曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 憲仁親王妃久子の内着帯につき、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に万那料を御贈

進になる。○贈賜録、重要雑録

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、渡英の挨拶のため参殿した東優子の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌

元侍医富家崇雄去る二十七日死去につき、天皇・皇后が祭装料を賜う。また別に、天皇・皇后が霊前に切り花及び菓子を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

三月

一日 火曜日 午前、吹上御所において、新たに侍従職の技官併任となった^{侍医長の日勤化に伴い侍医の仕事の一部を補助するため}東京

大学医学部助手内田俊也の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、人事・雑件、新聞記事、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞

三日 木曜日 午後、吹上御所御車寄において、車椅子での御移動の練習を行われる。また、七日の宮殿へのお出ましの際にも同様の練習を行われる。○内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

四日 金曜日 この日、来る六日に満八十五歳のお誕生日を迎えられるに当たり、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い六千六百三本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

五日 土曜日 東久邇聡子十年式年祭につき、霊舎及び豊島岡墓地の墓所の御代拝を女官久保喜美子に仰せ付けられる。また、天皇・皇后がお尋ねとして東久邇稔彦^{聡子の夫君}・同信彦^{聡子の孫}に菓子を賜う。終日、

昭和六十三年三月

吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

六日 日曜日 満八十五歳のお誕生日を迎えられる。

午前、吹上御所において、宮内庁長官始め総代、及び女官長始め女官、続いて皇太子・同妃始め皇族・御親族の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、

東宮職日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰の具合は安定しているが、膝の故障により歩行が困難であり、女官の介添えが必要であること、大半を吹上御所内で女官をお相手に過ごされていること、皇太子一家や正仁親王・同妃華子との御会食を楽しみにされていることなどが発表される。

○人事・雑件、新聞記事、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 月曜日 元侍医小田正暁去る五日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜う。また別に、天皇・

皇后が霊前に切り花・菓子を賜う。○賜与録、贈賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十日 木曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十四分須崎御用邸に行啓される。

行啓に先立ち宮内庁より、今回から御移動には車椅子を御使用になり、御料車にワゴン車を用いること、駅にも皇后はお立ちにならないことが発表される。また御到着後には、御移動に際してお疲れの御様子もなく楽しまれていたことが発表される。なお、今回の御滞在では、宮内庁より天皇・皇后の御様子についての発表が毎日行われ、皇后に関しては、女官の介添えにより御内庭をお歩きになって散策されていること、御用邸内では車椅子をお使いになっていないこと、御散策以外は御用邸内でお過ごしになっていることが発表される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、

吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、行幸啓・含御名代、新聞記事、宮内庁庁報、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

十四日 月曜日 宮内庁御用掛斉藤文次郎去る十一日死去につき、天皇・皇后が祭筵料を賜う。また別に、天皇・皇后が霊前に切り花・菓子を賜い、さらに御紋付銀盃を賜う。斉藤は昭和五十一年より宮内庁御用掛として、宮中招宴の料理及び天皇・皇后のお食事に関わった。○賜与録、贈賜録、人事・雑件、新聞記事、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

元侍医西川一郎この日死去につき、天皇・皇后が祭筵料を賜う。また別に、天皇・皇后が霊前に切り花・菓子を賜う。○賜与録、贈賜録、人事・雑件、新聞記事、宮内庁庁報

十八日 金曜日 天皇と共に、午前十時九分須崎御用邸を御出門になり、午後一時二十七分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、行幸啓・含御名代、新聞記事、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

元式部官長湯川盛夫去る十六日死去につき、天皇・皇后が賜物使として侍従菅原直紀を湯川邸に差し遣わされ、祭筵料を賜う。また別に、天皇・皇后が霊前に切り花・菓子を賜う。湯川は、昭和五十年の御訪米の際に随員を務めた。○侍従日誌、賜与録、贈賜録、人事・雑件、新聞記事、宮内庁庁報

二十日 日曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

この日徳仁親王が学習院大学大学院博士前期課程を修了、及び文仁親王が学習院大学を卒業するにつき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、徳仁親王・文仁親王に万那料・お品料をそれぞれ御贈進になる。○東宮職日誌、贈賜録、東宮録、行啓・お成り

昭和六十三年四月

二十二日 火曜日 この日清子内親王が学習院女子高等科を卒業するにつき、天皇・皇后より内親王に万那料・お品料を御贈進になる。○東宮職日誌、贈賜録、東宮録、行啓・お成り

二十八日 月曜日 元正倉院懇談会会員佐々木信三郎去る二十四日死去につき、天皇・皇后が祭葬料を賜う。佐々木は、昭和二十年代より正倉院裂の調査に従事し、五十年より六十一年まで正倉院懇談会会員を務めた。○賜与録、宮内庁庁報

三十一日 木曜日 正午前、天皇と共に吹上御所において、この度学習院大学大学院博士前期課程を修了した徳仁親王、学習院大学を卒業した文仁親王、学習院女子高等科を卒業した清子内親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、宮内庁庁報、ト部亮吾侍従日記

四月

三日 日曜日 午前、神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報、続吹上の季節

四日 月曜日 桃華樂堂においてこの日行われた昭和六十二年度都内音楽大学東京芸術大学、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学、国立音楽大学、上野学園大学卒業生演奏会の出演者十六名へ、御紋付銀製スプーンを賜う。○賜与録、情報公開資料、ト部亮吾侍従日記

八日 金曜日 この日、清子内親王の学習院大学文学部進学につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、清子内親王に万那料・お品料をそれぞれ御贈進になる。○贈賜録、東宮録、行啓・お成り

九日 土曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花^{カーネーション}を賜う。○贈賜録

十三日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新任の侍従長山本悟^{前宮内、}前任の侍従長徳川^{次長}

義寛、新任の宮内庁次長藤森昭一の拝謁をお受けになる。またこの日退職する徳川^{四月二十六日侍}に、天

皇・皇后が御紋付銀花瓶等を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、賜与録、贈賜録、人事・

雑件、宮内庁庁報、官報、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

十五日 金曜日 午後、東宮御所において、皇太子・同妃がインド国首相ラジーブ・ガンジー及び同

夫人ソニアと御接見になる。この接見に際し、首相夫妻より天皇・皇后に細密画が献上される。○吹上

御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、外交贈答録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 午前、天皇が公賓ヨルダン国皇太子ハッサン・ビン・タラール及び同妃サルワトと

御会見になる。この来訪に際し、同国皇太子より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には丸鏡^{銀模様}付、大

小二枚^{一枚}が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、外賓参内録、ベ

ネズエラ／ヨルダン、外交贈答録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節

二十五日 月曜日 午後、天皇が林鳥亭において宮内記者会会員とお会いになり、各記者からの質問

にお答えになる。その際、皇后の御体調についての質問があり、腰の痛みは安定したがまだ膝の故障

があるため、歩くには女官の介添えが必要であることをお答えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、天皇記者会見、卜部亮吾侍従日記、吹上の季節、昭和天皇と私達

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、天皇と共に吹上御所において、御昼餐のお祝御膳をお召し上

昭和六十三年五月

がりになる。この年、皇后は天皇誕生日祝賀の儀及び一般参賀へのお出ましをお取りやめになる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、天皇誕生日、卜部亮吾侍従日記、サンケイ、読売新聞

三十日 土曜日 午前、吹上御所において、侍従長・侍従次長より昨二十九日の天皇誕生日の祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

五月

二日 月曜日 去る一日より十月三十一日まで第三十三回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○内賜録、宮内庁庁報

六日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、情報公開資料、新聞記事、富田メモ、卜部亮吾侍従日記

九日 月曜日 去る三日から四日にかけての九州地方における集中豪雨により甚大な被害を受けた熊本県に対し、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○内賜録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 来る二十三日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

この日、翌十九日から二十四日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春

の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十一日・二十三日にも御出品になる。○贈賜録、情報公開資料

二十日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御給桑になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

二十四日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、侍従職参与^{前侍従長}徳川義寛の拝謁をお受けになる。その際天皇・皇后それぞれから賜品がある。○侍従日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

二十五日 水曜日 明治神宮会館において開催の昭和六十三年全国赤十字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日ここに、昭和六十三年全国赤十字大会が盛大に開かれたことを大変うれしく思います。赤十字は、人道的事業を推進し、広く世界の人々の平和と福祉増進のために大きな力となっておりますが、日本赤十字社が、国際的な強いきずなのもとに、国の内外において立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の役割は、これからますます重要になっていくものと思いますので、皆さんが互いに力を合わせて、一層力強い活動を進められるよう希望してやみません。

なお、皇太子妃は大会への臨席を終えた後、吹上御所において女官長を通じて復命を行う。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、幸啓録、行幸啓・含御名代、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

昭和六十三年五月

昭和六十三年六月

二十七日 金曜日 正午前、天皇が公賓ユーゴスラビア国連邦執行評議会議長ブランコ・ミクリツチ

及び同夫人ライカを御引見になり、続いて宮中午餐を催される。宮中午餐は天皇に代わり皇太子が臨席。この来訪に際し、議長

より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはテーブルクロスが献上される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報

来る二十九日、高知県民体育館において、学校法人高知学芸高等学校・同校後援会・同校同窓会・高

知県主催の高知学芸高校上海列車事故去る三月二十四日上海にて発生、同校の教諭・生徒九十余人が死傷する。合同慰霊式が営まれるに当たり、天皇・

皇后が生花を賜う。○内賜録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

二十九日 日曜日 正田富美子皇太子妃の母 昨二十八日死去につき、天皇・皇后が霊前に切り花・果物を賜う。

六月二日には天皇・皇后が正田英三郎に祭資を賜う。四日の葬儀に際しては、天皇・皇后が霊前に榊・

菓子をお賜い、また葬場使として侍従卜部亮吾を港区の青山葬儀所に差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職

日誌、東宮職日誌、贈賜録、外事取決め・内規、皇族御身分録、宮内庁庁報、富田朝彦文書、卜部亮吾侍従日記

三十一日 火曜日 憲仁親王妃久子の着帯につき、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に万那料を御贈進

になる。○贈賜録、重要雑録

六月

八日 水曜日 午前、天皇お一方にて豊島岡墓地へ行幸され、同所の宣仁親王墓を御拝礼になる。行

幸に際して、天皇・皇后が宣仁親王墓に盛花・菓子をお供えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、臨時祭祀録、行幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前、吹上御所において初繭搔きを行われる。○内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人

日誌、卜部亮吾侍従日記

十四日 火曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、新任の宮内庁長官藤森昭一前宮内
庁次長及び前任の宮

内庁長官富田朝彦、並びに新任の宮内庁次長宮尾盤の拝謁をお受けになる。なお、この日退職する富
田七月八日参
与に就任に、天皇・皇后より賜品がある。富田は、昭和四十九年より宮内庁次長を、五十三年より宮

内庁長官を務めた。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、典式録、賜与
録、人事・雑件、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

十六日 木曜日 天皇と共に、午後一時四分御出門になり、四時四十二分須崎御用邸に行啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、幸啓録、行幸啓・含御
名代、新聞記事、宮内庁庁報、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

十八日 土曜日 閑院純仁元閑院宮当主、旧名春仁、昭和二十
二年皇籍離脱して閑院姓を名乗るこの日死去につき、天皇・皇后が霊前に盛花を賜

い、翌十九日には弔問使として侍従菅原直紀を神奈川県小田原市の閑院邸に差し遣わされる。二十四
日には天皇・皇后が賜物使・樞前使として侍従中村賢二郎を豊島岡墓地参集所に差し遣わされ、天皇
が神饌を、皇后が果物を、また天皇・皇后が白羽二重・柿・菓子をお供えになる。また、天皇・皇后
が戸田華子純仁
の妹に祭資を賜う。二十五日の葬儀に際しては、皇后が葬場使として侍従卜部亮吾を豊島岡
墓地参集所に差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、墓誌銘録、贈賜録、人事・雑件、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾

昭和六十三年六月

昭和六十三年七月

侍従日記

二十三日 木曜日 天皇と共に、午前十時九分須崎御用邸を御出門になり、午後一時二十五分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸啓・含御名代、新聞記事、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、前宮内庁長官富田朝彦の拝謁をお受けになる。その際、富田に天皇・皇后より金員の、天皇及び皇后それぞれよりお品の下賜がある。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、贈賜録、中村賢二郎関係資料、ト部亮吾侍従日記、富田朝彦文書

二十九日 水曜日 午前、天皇が国賓セネガル国大統領アブドゥ・ディウフ及び同夫人エリザベートと御会見になる。この来訪に際し、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には金製腕輪が贈られる。また、天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿^{白地極彩金襴五彩小紋文様}を、同夫人に銀製宝石箱^{花車}を御贈進になる。なお、大統領夫妻の入京に際し、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、接待書類、セネガル／ジンバブエ、外賓参内録、外交贈答録、賜与録、宮内庁庁報、官報

七月

四日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、儀式録、ト部亮吾侍従日記

五日 火曜日 午前、天皇と共に宮殿御車寄前において、紅葉山御養蚕所主任神戸礼二郎及び助手四

名に御会釈を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日誌、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

十九日 火曜日 去る七月十三日から十五日にかけての大雨により甚大な被害を受けた島根県に對し、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○内賜録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 天皇と共に、午前九時三十七分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、地方行幸啓、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日誌

二十二日 金曜日 憲仁親王妃久子第二王女出産につき、天皇・皇后より崇仁親王・同妃百合子にそれぞれ三種交魚代料を、また憲仁親王・同妃に三種交魚代料を御贈進になる。この日誕生した王女は、二十八日に典子のりこと命名される。命名の儀当日に、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に鮮鯛代料を、また典子女王に鮮鯛代料を御贈進になる。○贈賜録、重要雜録、宮内庁庁報、官報

二十三日 土曜日 東久邇成子の祥月命日につき、御用邸にてお慎みになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、典式録、卜部亮吾侍従日誌

三十日 土曜日 午前、明治天皇例祭につき、御用邸において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

八月

六日 土曜日 広島原爆の日につき、御用邸において静かにお過ごしになる。○女官日誌、那須御用邸管理

昭和六十三年八月

事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

この度英国オックスフォード大学大学院動物学科において修学するため翌七日に出発する文仁親王に
対し、天皇・皇后より万那料等を御贈進になる。○贈賜録、賢所諸件

九日 火曜日 長崎原爆の日につき、御用邸において静かにお過ごしになる。○女官日誌、那須御用邸管理
事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌

十日 水曜日 山階武彦の一周年祭につき、午後、祭典の時刻に合わせてお慎みになる。○女官日誌、侍
従日誌、侍従職日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十一日 木曜日 北白川房子の祥月命日につき、御用邸において静かにお過ごしになる。○女官日誌、那
須御用邸管理事務所事務官日誌、卜部亮吾侍従日記

午後、宮内庁より御用邸での天皇・皇后の御様子について、皇后は数回内庭を散歩されたこと、屋内
では廊下を行き来する御運動を行われていることなどが発表される。○地方行幸啓

十五日 月曜日 全国戦没者追悼式が行われるに当たり、去る五日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜
う。なお、同追悼式に御臨席になるため、天皇はお一方にて去る十三日に皇居に還幸され、十八日に
再び御用邸に行幸される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、賜与録、行幸啓・
含御名代、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、宮内庁庁報、官報、卜部亮吾侍従日記

十九日 金曜日 元東宮職出仕松平直国去る十七日死去につき、天皇が菓子をも、皇后が切り花を霊前
に賜う。松平は皇后の従兄<sup>御母の姉充
子の子息</sup>に当たり、また天皇の御学友にも選ばれ、大正三年から十年までは
東宮職出仕を務めた。○贈賜録、卜部亮吾侍従日記

二十三日 火曜日 翌二十四日に青山葬儀所において、去る七月二十三日に発生した海上自衛隊の潜水艦なだしおと釣船第一富士丸の衝突事故による犠牲者の合同慰霊式が、政府及び伊藤忠商事株式会社主催により営まれるに当たり、天皇・皇后が生花を賜う。○内賜録、祭奏料・宣旨・宮家御動静、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

元侍従岡本愛祐この日死去につき、天皇・皇后が祭奏料を賜う。また別に天皇・皇后が霊前に切り花・菓子を賜う。岡本は、昭和元年に侍従に任じられ、同二年から九年まで皇后宮事務官兼侍従を務めた。

○賜与録、贈賜録、祭奏料・宣旨・宮家御動静、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

三十一日 水曜日 来る九月十七日より大韓民国ソウル特別市を中心に開催される第二十四回オリンピック競技大会に日本選手団が参加するに当たり、天皇・皇后が財団法人日本体育協会に御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

九月

一日 木曜日 この日、宮内庁より那須御用邸滞在中の天皇・皇后の御様子についての発表があり、皇后は滞在中しばしば御散策され様子もお変わりないことなどが発表される。翌二日に天皇が御用邸御車寄前で宮内記者会会員の質問に応じられた際にも、同趣旨の御回答がある。○侍従日誌、天皇記者会見、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記、産経新聞、読売新聞

八日 木曜日 天皇と共に、午前九時八分那須御用邸を御出門になり、午後零時十一分皇居に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、幸啓録、那須

昭和六十三年九月

御用邸管理事務所日誌、那須御用邸管理事務所事務官日誌、地方行幸啓、宮内庁庁報

九日 金曜日 久邇^御親子の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、吹上御所仕人日誌、典式録

十六日 金曜日 午前、去る七月二十二日に誕生した典子女王の初参内につき、天皇お一方にて鳳凰の間において憲仁親王・同妃久子・典子女王と御対面になる。初参内に当たり、天皇・皇后より憲仁親王・同妃に三種交魚代料を、典子女王に万那料・友禪を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十九日 月曜日 この日の午後十時前、吹上御所の御床に就かれていた天皇に大量の吐血がある。以降天皇は同所で医療処置をお受けになる。皇后は二十一日以降、頻繁に同所の御寢室に天皇をお見舞いになる。○侍従日誌、内舍人日誌、当直日誌、昭和天皇御病情発表記録、昭和天皇大喪儀記録、卜部亮吾侍従日記、続吹上の季節、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

二十三日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十五日 日曜日 午前、吹上御所において、天皇のお見舞いを終えた鷹司和子、池田隆政・同夫人厚子、島津久永・同夫人貴子・同子息禎久と御対面になる。以後、天皇のお見舞いに参殿した皇族・御親族等としばしば御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、卜部亮吾侍従日記

二十八日 水曜日 天皇の御平癒祈願のため、皇后・皇太子が御使として侍従職御用掛兼東宮職御用

掛香川朝男^{前掌典}を皇大神宮並びに豊受大神宮に差し遣わされる。○侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、贈賜

録、朝日新聞、東京新聞、毎日新聞、読売新聞、瑞垣

三十日 金曜日 翌十月一日より十二月三十一日まで昭和六十三年国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○内賜録、祭料・宣旨・宮家御動静、宮内庁序報

十月

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

十八日 火曜日 天皇の御平癒祈願のため、皇后及び皇太子・同妃が御使として侍従職御用掛兼東宮職御用掛岩波輝俊^{掌典}を皇大神宮並びに豊受大神宮に差し遣わされる。○侍従職日誌、内舍人日誌、神宮及神社諸件、贈賜録、卜部亮吾侍従日記、瑞垣

二十日 木曜日 午前、吹上御所において、天皇のお見舞いを終えた皇太子・同妃・清子内親王と御対面になり、この日誕生日を迎えた皇太子妃より挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

二十三日 日曜日 この日十三夜につき、夜間、天皇と共に吹上御所の御寢室において、ベランダに設けられた十三夜のお供えを御覧になる。○内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、富田メモ、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の百十一日、産経新聞、東京新聞、読売新聞

昭和六十三年十月

昭和六十三年十一月

二十九日 土曜日 先般タイ国王ラーマ九世プミポン・アドゥンヤデート及び同妃シリキットより寄せられた、天皇の

御病気につき皇后を慰労する旨の書簡二十四日付並びに盛花に対し、この日、皇后が国王・同妃に謝意を表する書簡を發せられる。また別に、十一月二十七日にも国王・同妃より花束の御贈進があり、十二月一日に同じく謝意を表する書簡を發せられる。○外交贈答録、東京新聞

十一月

八日 火曜日 昨七日高木邦子崇仁親王妃百合子の母死去につき、天皇・皇后が靈前に切り花・菓子を賜う。○皇親

録、贈賜録、人事・雑件、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

十七日 木曜日 元内閣総理大臣三木武夫去る十四日死去につき、天皇・皇后が賜物使兼樞前使として侍従小林忍を港区の増上寺に差し遣わされ、祭糒料・生花を賜う。十二月五日に日本武道館において行われる衆議院・内閣合同葬儀には、天皇・皇后が葬場使として侍従中村賢二郎を差し遣わされ、靈前に生花を賜う。三木は昭和十二年の衆議院議員総選挙において初当選後、国務大臣を歴任し、四十九年から五十一年までは内閣総理大臣を務めた。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、故三木武夫衆議院・内閣合同葬儀関係、祭糒料・宣旨・宮家御動靜、贈賜録、宮内庁庁報、官報、中村賢二郎関係資料、故三木武夫衆議院・内閣合同葬儀記録、卜部亮吾侍従日記

二十日 日曜日 この日、去る五月より都立広尾病院に入院していた宜仁親王が退院するに当たり、天皇・皇后が崇仁親王・同妃百合子、宜仁親王に菓子をお贈進になる。また翌二十一日には、天皇・

皇后が宜仁親王に金員を御贈進になる。○皇親録、贈賜録、人事・雑件

二十一日 月曜日 御所離宮懇談会委員藤岡通夫去る十九日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。

藤岡は、建築史の研究者として知られ、昭和五十年より五十六年まで桂離宮整備懇談会委員を、昭和五十八年より死去まで御所離宮懇談会委員を務めた。○賜与録、宮内庁庁報、建築史学

二十八日 月曜日 午前、吹上御所において、天皇のお見舞いを終えた正仁親王・同妃華子と御対面になる。その際、この日誕生日の正仁親王よりお礼をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十二月

七日 水曜日 天皇の御平癒祈願のため、皇后及び皇太子・同妃が御使として侍従職御用掛兼東宮職御用掛園池美作^{掌典}を皇大神宮並びに豊受大神宮に差し遣わされる。○侍従職日誌、内舍人日誌、東宮職日誌、神宮及神社諸件、贈賜録、瑞垣、東京新聞

十二日 月曜日 日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○内賜録、賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

十六日 金曜日 御所離宮懇談会委員森蘊去る十四日死去につき、天皇・皇后より祭染料を賜う。森は、庭園史の研究者及び作庭家として知られ、昭和五十年より五十六年まで桂離宮整備懇談会委員を、昭和五十八年より死去まで御所離宮懇談会委員を務めた。○賜与録、宮内庁庁報、建築史学、昭和の作庭記

昭和六十三年十二月

二十三日 金曜日 午前、皇太子誕生日につき、吹上御所において総代として侍従長の祝賀をお受けになる。その後同所において、天皇のお見舞いを終えた皇太子・同妃・清子内親王と御対面になる。

その際、皇太子よりお礼をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、贈賜録、中村賢二郎関係資料、卜部亮吾侍従日記

二十五日 日曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 この日喜寿を迎えた故宣仁親王妃喜久子に、天皇・皇后が洋服地^{紅葉山御養蚕所産}・万那料等を御贈進になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

二十八日 水曜日 今月より東京都済生会中央病院に入院中の鷹司和子に、天皇・皇后がお見舞いとして盛花を賜う。○贈賜録、新聞記事、産経新聞、東京新聞

二十九日 木曜日 午前、吹上御所において、侍従長・侍従次長・女官長より歳末の祝詞言上をお受けになる。その後、天皇のお見舞いを終えた故雍仁親王妃勢津子・故宣仁親王妃喜久子と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。午後にも同所において、同じく天皇のお見舞いを終えた池田隆政・同夫人厚子と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、典式録、卜部亮吾侍従日記

三十一日 土曜日 午前、吹上御所において、天皇のお見舞いを終えた皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、吹上御所殿部日誌、吹上御所仕人日誌、東宮職日誌、卜部亮吾侍従日記

昭和六十三年十二月